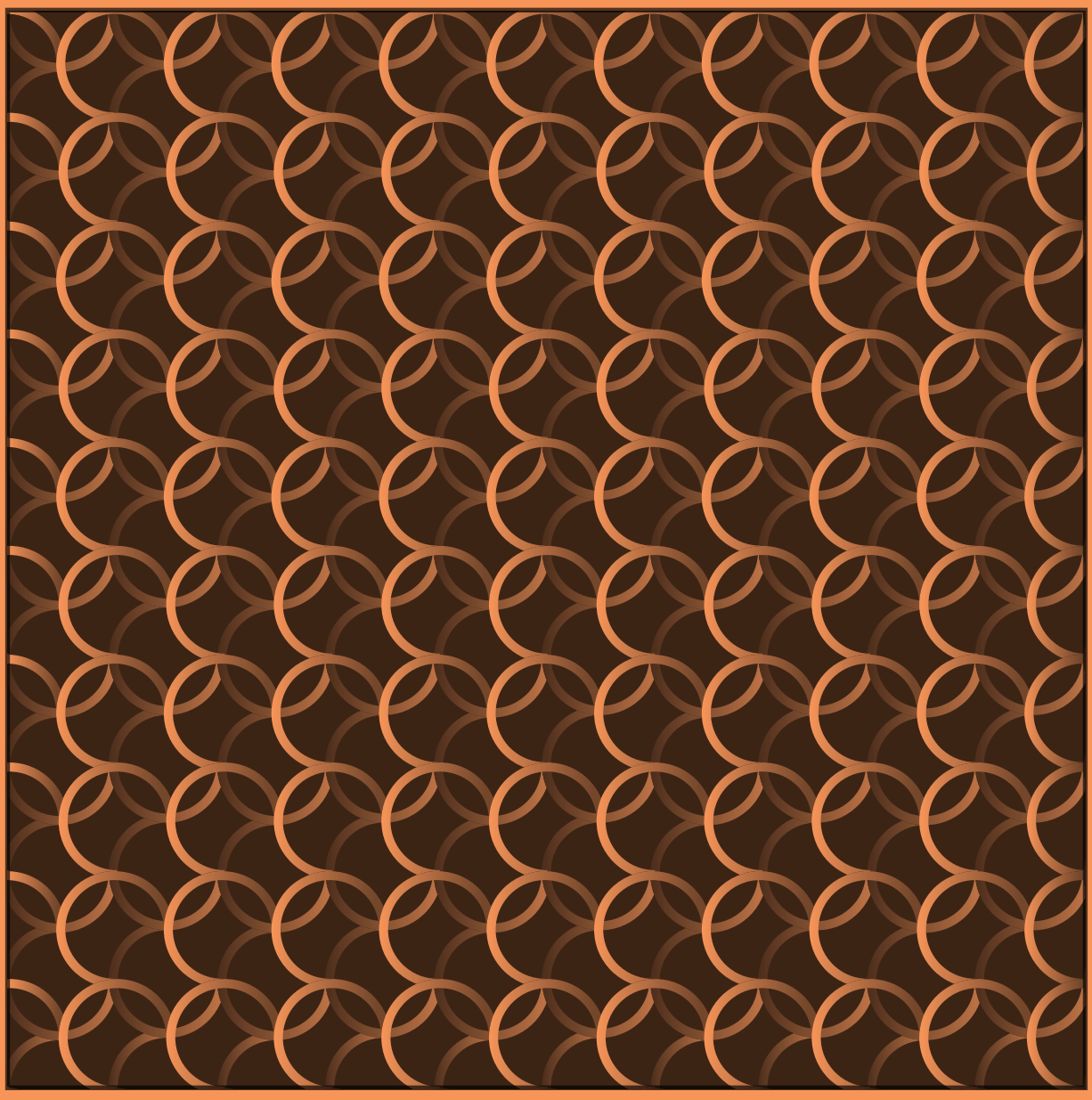
2017年度

シラバス

交流文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：交流文化学科以外の外国語学部	養：国際教養学部	法：法学部
独：ドイツ語学科	経：経済学部	律：法律学科
英：英語学科	済：経済学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科	営：経営学科	総：総合政策学科
交：交流文化学科	環：国際環境経済学科	免：2013年度以降入学の教職課程登録者
全：交流文化学科以外の全学部学科		

2. シラバスページの見方（右図参照）

①入学年度

09年度……2009年度入学者
09～12年度……2009～2012年度入学者
13年度以降……2013年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

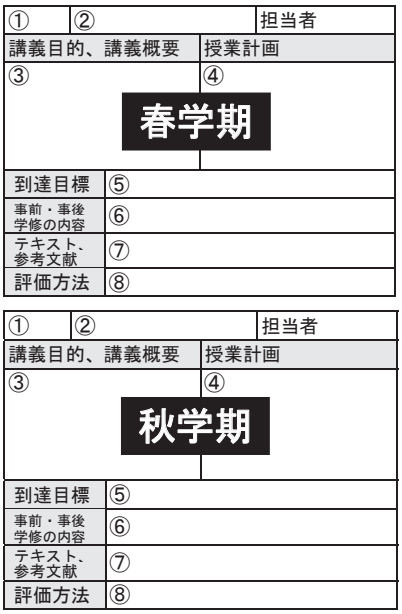
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法



3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

――― 目 次 ―――

2009～2017 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目 ---------- 2
学科共通科目 ---------- 4
学科専門科目 ---------- 9
外国語学部共通科目開設一覧表 ---------- 13
担当者別シラバス ---------- 15

【参考資料】（英語レベル表）

2009 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®LISTENIG AND READING TEST	TOEFL®TEST		実用英語技能検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準１級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した
TOEIC®LISTENIG AND READING TEST(IP)のスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した以外のスコアを利用する場合は、
既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

交流文化学科　授業科目

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化概論i	鈴木　涼太郎	春	水3	2	1	全	15
交流文化概論ii	須永　和博 / 山口　誠	春	金1	2	1	全	16
交流文化概論iii	北野　収/永野　隆行/堀　芳枝	秋	木1	2	1	全	17
基礎演習Ⅰ	堀　芳枝	春	水1	2	1	全	18
基礎演習Ⅱ	堀　芳枝	秋	水1	2	1	全	18
基礎演習Ⅰ	永野　隆行	春	水1	2	1	全	19
基礎演習Ⅱ	永野　隆行	秋	水1	2	1	全	19
基礎演習Ⅰ	山口　誠	春	水1	2	1	全	20
基礎演習Ⅱ	山口　誠	秋	水1	2	1	全	20
基礎演習Ⅰ	鈴木　涼太郎	春	水1	2	1	全	21
基礎演習Ⅱ	鈴木　涼太郎	秋	水1	2	1	全	21
基礎演習Ⅰ	須永　和博	春	水1	2	1	全	22
基礎演習Ⅱ	須永　和博	秋	水1	2	1	全	22
英語圏の文学と文化概論	片山　亜紀	春	火2	2	1	全	23
英語圏の文学と文化概論	片山　亜紀	秋	火2	2	1	全	23
英語圏の文学と文化概論	原　成吉	春	木4	2	1	全	24
英語圏の文学と文化概論	原　成吉	秋	木4	2	1	全	24
英語の世界Ⅰ	倉林　秀男	春	月5	2	2	全	25
英語の世界Ⅰ	田川　憲二郎	秋	木2	2	2	全	25
English for Business Ⅰ	各担当教員	春		1	2	全	26
English for Business Ⅱ	各担当教員	秋		1	2	全	26
Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火1	1	1	全	27
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	D. ブラドリー	秋	火1	1	1	全	27
Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火2	1	1	全	28
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	D. ブラドリー	秋	火2	1	1	全	28
Listening & Speaking	坂本　洋子	春	金3	1	1	全	29
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	坂本　洋子	秋	金3	1	1	全	29
Listening & Speaking	日野　克美	春	火3	1	1	全	30
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	日野　克美	秋	火3	1	1	全	30
Listening & Speaking	日野　克美	春	火1	1	1	全	31
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	日野　克美	秋	火1	1	1	全	31
Grammar for TOEFL®＆TOEIC® Ⅰ	各担当教員	春		1	2	全	32
Grammar for TOEFL®＆TOEIC® Ⅱ	各担当教員	秋		1	2	全	32
Reading Strategies Ⅰ	伊藤　兵馬	春	木3	1	1	全	33
Reading Strategies Ⅱ	伊藤　兵馬	秋	木3	1	1	全	33
Reading Strategies Ⅰ	島田　啓一	春	火1	1	1	全	34
Reading Strategies Ⅱ	島田　啓一	秋	火1	1	1	全	34
Reading Strategies Ⅰ	瀬戸　千尋	春	月4	1	1	全	35
Reading Strategies Ⅱ	瀬戸　千尋	秋	月4	1	1	全	35
Reading Strategies Ⅰ	島田　啓一	春	木4	1	1	全	36
Reading Strategies Ⅱ	島田　啓一	秋	木4	1	1	全	36
Reading Strategies Ⅰ	坂本　洋子	春	金5	1	1	全	37
Reading Strategies Ⅱ	坂本　洋子	秋	金5	1	1	全	37
Reading StrategiesⅢ	坂本　洋子	春	金4	1	2	全	38
Reading StrategiesⅣ	坂本　洋子	秋	金4	1	2	全	38
Reading StrategiesⅢ	河原　宏之	春	月4	1	2	全	39
Reading StrategiesⅣ	河原　宏之	秋	月4	1	2	全	39
Reading StrategiesⅢ	関根　路代	春	水1	1	2	全	40
Reading StrategiesⅣ	関根　路代	秋	水1	1	2	全	40
Reading StrategiesⅢ	白川　貴子	春	水2	1	2	全	41
Reading StrategiesⅣ	白川　貴子	秋	水2	1	2	全	41
Reading StrategiesⅢ	白川　貴子	春	水1	1	2	全	42
Reading StrategiesⅣ	白川　貴子	秋	水1	1	2	全	42

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Writing Strategies Ⅰ	伊藤　兵馬	春	火2	1	1	全	43
Writing Strategies Ⅱ	伊藤　兵馬	秋	火2	1	1	全	43
Writing Strategies Ⅰ	伊藤　兵馬	春	月4	1	1	全	44
Writing Strategies Ⅱ	伊藤　兵馬	秋	月4	1	1	全	44
Writing Strategies Ⅰ	R. J. バロウズ	春	火3	1	1	全	45
Writing Strategies Ⅱ	R. J. バロウズ	秋	火3	1	1	全	45
Writing Strategies Ⅰ	M. ダーリン	春	月4	1	1	全	46
Writing Strategies Ⅱ	M. ダーリン	秋	月4	1	1	全	46
Writing Strategies Ⅰ	D. グライムズ	春	月5	1	1	全	47
Writing Strategies Ⅱ	D. グライムズ	秋	月5	1	1	全	47
Comprehensive English Ⅰ	N. H. ジョスト	春	月2	1	1	全	48
Comprehensive English Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	月2	1	1	全	48
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	金2	1	1	全	49
Comprehensive English Ⅱ	K. ミーハン	秋	金2	1	1	全	49
Comprehensive English Ⅰ	B. S. ハウエル	春	月2	1	1	全	50
Comprehensive English Ⅱ	B. S. ハウエル	秋	月2	1	1	全	50
Comprehensive English Ⅰ	D. マッキー	春	木3	1	1	全	51
Comprehensive English Ⅱ	D. マッキー	秋	木3	1	1	全	51
Comprehensive English Ⅰ	A. マグズ	春	月2	1	1	全	52
Comprehensive English Ⅱ	A. マグズ	秋	月2	1	1	全	52
Comprehensive English Ⅰ	D. ベイカー	春	木3	1	1	全	53
Comprehensive English Ⅱ	D. ベイカー	秋	木3	1	1	全	53
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	月3	1	1	全	54
Comprehensive English Ⅱ	K. ミーハン	秋	月3	1	1	全	54
Comprehensive English Ⅰ	R. ダラム	春	火2	1	1	全	55
Comprehensive English Ⅱ	R. ダラム	秋	火2	1	1	全	55
Comprehensive English Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月2	1	1	全	56
Comprehensive English Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月2	1	1	全	56
Comprehensive English Ⅰ	D. グライムズ	春	金2	1	1	全	57
Comprehensive English Ⅱ	D. グライムズ	秋	金2	1	1	全	57
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	木3	1	2	全	58
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	木3	1	2	全	58
Comprehensive English Ⅲ	D. グライムズ	春	金1	1	2	全	59
Comprehensive English Ⅳ	D. グライムズ	秋	金1	1	2	全	59
Comprehensive English Ⅲ	A. マグズ	春	金4	1	2	全	60
Comprehensive English Ⅳ	A. マグズ	秋	金4	1	2	全	60
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	木1	1	2	全	61
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	木1	1	2	全	61
Comprehensive English Ⅲ	M. ダーリン	春	月5	1	2	全	62
Comprehensive English Ⅳ	M. ダーリン	秋	月5	1	2	全	62
E-learning Ⅰ	府川　謹也	春	水2	1	1	全	63
E-learning Ⅱ	府川　謹也	秋	水2	1	1	全	63

学科共通科目 「英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)		開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Cool Japan: 1900–1960)	J. E. マジャール	春秋	月2	2	2	全	64
英語専門講読Ⅰ (生成文法理論と英語統語論)	鈴木 英一	春秋	月2	2	2	全	65
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Immigration, Social Change & Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	全	66
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	月3	2	2	全	67
英語専門講読 Ⅰ (ポストモダン文化とは何か)	板場 良久	春のみ	月3	2	2	全	68
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (芝居の台本を読んで観る)	児嶋 一男	春秋	月3	2	2	全	69
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (ナーサリー・ライムズを読む)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2	全	70
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (イギリス児童文学)	前沢 浩子	春秋	月4	2	2	全	71
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (日本社会・文化の再確認)	町田 喜義	春秋	月4	2	2	全	72
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Situating Your Eating Habit in the Social Context)	三吉 美加	春秋	月4	2	2	全	73
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (A Geek in Japan: Discovering the land…) (Culture)	N. H. ジョスト	春秋	火1	2	2	全	74
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (戦後国際政治史)	永野 隆行	春秋	火2	2	2	全	75
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (英語教育・SLA最前線)	羽山 恵	春秋	火2	2	2	全	76
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (The History of Language)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	全	77
英語専門講読 Ⅱ (子供のことば獲得の基礎)	青柳 真紀子	秋のみ	火3	2	2	全	78
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田 啓一	春秋	火3	2	2	全	79
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (異文化コミュニケーションの基礎/異文化コミュニケーションの理論)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2	全	80
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩)	原 成吉	春秋	火3	2	2	全	81
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (日英語の再帰形の比較/日英語の移動現象の比較)	安井 美代子	春秋	火3	2	2	全	82
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	火4	2	2	全	83
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (現代東南アジアの政治・経済・社会)	金子 芳樹	春秋	火4	2	2	全	84
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (Introduction to Fair Trade: Ethics and Solidarity in the Global Economy)	北野 収	春秋	火4	2	2	全	85
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	火4	2	2	全	86
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (世界ブランドとグローバル社会)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2	全	87
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (比較統語論)	船越 健志	春秋	火4	2	2	全	88
英語専門講読 Ⅰ・Ⅱ (ヒッチコック映画批評)	柿田 秀樹	春秋	火5	2	2	全	89

学科共通科目 「英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)		開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の国際関係・政治経済)	金子　芳樹	春秋	水1	2	2	全	90
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (International Development Studies: Global Political Economy and Sustainable Development)	北野　収	春秋	水1	2	2	全	91
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (現代社会における国際組織)	松村　尚子	春秋	水1	2	2	全	92
英語専門講読　Ⅰ (Language, Thought, and Culture)	J. N. ウェンデル	春秋	水2	2	2	全	93
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永　和博	春秋	水2	2	2	全	94
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (ディズニーと世界情勢)	竹田　いさみ	春秋	水2	2	2	全	95
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (実践的な英語の聴解・発音教育)	中田　ひとみ	春秋	水4	2	2	全	96
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (国際取引契約法入門Ⅰ / 国際取引契約法入門Ⅱ)	花本　広志	春秋	木1	2	2	全	97
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (外国人が旅するJapan①:Lonely Planet編 / 外国人が旅するJapan②:Michelin＆比較分析編)	山口　誠	春秋	木1	2	2	全	98
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Diplomacy and International Relations)	伊藤　兵馬	春秋	木2	2	2	全	99
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (途上国の子どもの問題を知ろう)	堀　芳枝	春秋	木2	2	2	全	100
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (ツーリズムの現状と課題 / 航空の現状と歴史)	井上　泰日子	春秋	木3	2	2	全	101
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Janeからはじめて―文学とフェミニズム)	上野　直子	春秋	木3	2	2	全	102
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (前期Bob Dylan の歌詞を読む/ Bob Dylan のロック期以降の歌詞を読む)	遠藤　朋之	春秋	木3	2	2	全	103
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (コミュニケーションの諸モデル / イノベーションの普及プロセス)	佐々木　輝美	春秋	木3	2	2	全	104
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (通訳訓練のための原書講読)	柴原　早苗	春秋	木3	2	2	全	105
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (ツーリズム研究の基礎概念 / ツーリズム研究の現代的課題)	鈴木　涼太郎	春秋	木3	2	2	全	106
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ)	水本　義彦	春秋	木3	2	2	全	107
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見　晃子	春秋	木4	2	2	全	108
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (認知英文法)	小早川　暁	春秋	木4	2	2	全	109
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’)	工藤　和宏	春秋	金1	2	2	全	110
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (国境を越えるアジアの女性の移住労働)	堀　芳枝	春秋	金1	2	2	全	111
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Virginia Woolfを読む)	片山　亜紀	春秋	金2	2	2	全	112
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山　晴信	春秋	金2	2	2	全	113
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷　公徳	春秋	金2	2	2	全	114
英語専門講読　Ⅰ・Ⅱ (Conflict and Development)	石川　幸子	春秋	金3	2	2	全	115

学科共通科目

科目名		担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語の世界Ⅱ		小早川　暁	春	火5	2	2	全	116
英語の世界Ⅱ		府川　謹也	秋	金1	2	2	全	116
観光英語Ⅰ		落合　康男	春	火4	2	2	英	117
観光英語Ⅱ		落合　康男	秋	火4	2	2	英	117
通訳案内士の英語Ⅰ		日野　克美	春	木1	2	2	英	118
通訳案内士の英語Ⅱ		日野　克美	秋	木1	2	2	英	118
Business Writing		各担当教員	春		2	2	英	119
Business Writing		各担当教員	秋		2	2	英	119
2013年度以降入学者	Advanced Writing(Research)	M. ボイル	春	月4	2	3	全	120
	Advanced Writing(Research)	M. ボイル	秋	月4	2	3	全	120
	Advanced Writing(Research)	E. J. ナオウミ	春	火2	2	3	全	121
	Advanced Writing(Research)	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	3	全	121
	Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	春	火3	2	3	全	122
	Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	全	122
	Advanced Writing(Creative)	B. D. タッチャー	春	火5	2	3	全	123
	Advanced Writing(Research)	M. ボイル	春	水3	2	3	全	124
	Advanced Writing(Research)	M. ボイル	秋	水3	2	3	全	124
	Advanced Writing(Creative)	J. ハレスキ	春	木1	2	3	全	125
	Advanced Writing(Research)	K. エラ	春	木3	2	3	全	126
	Advanced Writing(Research)	K. エラ	秋	木3	2	3	全	126
	Advanced Writing(Research)	A. マグズ	春	金3	2	3	全	127
	Advanced Writing(Research)	A. マグズ	秋	金3	2	3	全	127
	Advanced Writing(Research)	K. フォード	春	金4	2	3	全	128
	Advanced Writing(Research)	K. フォード	秋	金4	2	3	全	128
2012年度以前入学者	Academic Writing	M. ボイル	春	月4	2	2	全	120
	Academic Writing	M. ボイル	秋	月4	2	2	全	120
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	全	121
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	全	121
	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	全	122
	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	全	122
	Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	全	123
	Academic Writing	M. ボイル	春	水3	2	2	全	124
	Academic Writing	M. ボイル	秋	水3	2	2	全	124
	Academic Writing	J. ハレスキ	春	木1	2	2	全	125
	Academic Writing	K. エラ	春	木3	2	2	全	126
	Academic Writing	K. エラ	秋	木3	2	2	全	126
	Academic Writing	A. マグズ	春	金3	2	2	全	127
	Academic Writing	A. マグズ	秋	金3	2	2	全	127
	Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	全	128
	Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	全	128
翻訳Ⅰ		高田　宣子	春	火5	2	2	全	129
翻訳Ⅰ		高田　宣子	秋	火5	2	2	全	129
翻訳Ⅰ		上野　直子	秋	水2	2	2	全	130
翻訳Ⅰ		山中　章子	春	水5	2	2	全	131
翻訳Ⅰ		山中　章子	秋	水5	2	2	全	131
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	春	木3	2	2	全	132
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	全	132
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	春	木4	2	2	全	133
翻訳Ⅰ		柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	全	133
翻訳Ⅱ		P. ネルム	春	水4	2	2	全	134
翻訳Ⅱ		P. ネルム	秋	水3	2	2	全	134
翻訳Ⅱ		白川　貴子	春	水3	2	2	全	135
翻訳Ⅱ		白川　貴子	秋	水3	2	2	全	135
College Grammar		河原　宏之	春	月3	2	2	全	136
College Grammar		河原　宏之	秋	月3	2	2	全	136
College Grammar		河原　宏之	春	月5	2	2	全	137
College Grammar		河原　宏之	秋	月5	2	2	全	137
College Grammar		倉林　秀男	秋	月5	2	2	全	138
College Grammar		小早川　暁	春	水2	2	2	全	139
College Grammar		小早川　暁	秋	水2	2	2	全	139
College Grammar		水口　学	春	水4	2	2	全	140
College Grammar		水口　学	秋	水4	2	2	全	140
College Grammar		水口　学	秋	水5	2	2	全	141
College Grammar		水口　学	秋	水5	2	2	全	141
College Grammar		府川　謹也	春	金2	2	2	全	142
College Grammar		府川　謹也	秋	金2	2	2	全	142
College Grammar		田川　憲二郎	春	金3	2	2	全	143
College Grammar		田川　憲二郎	秋	金3	2	2	全	143

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
2013年度以降入学者	Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	全	144
	Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	全	144
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	145
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	145
	Communication Skills	M. フッド	春	月2	2	2	全	146
	Communication Skills	M. フッド	秋	月2	2	2	全	146
	Communication Skills	M. ダーリン	春	月3	2	2	全	147
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	月3	2	2	全	147
	Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	全	148
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	148
	Communication Skills	J. スネール	春	火3	2	2	全	149
	Communication Skills	J. スネール	秋	火3	2	2	全	149
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	150
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	150
	Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	全	151
	Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	全	151
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	152
	Communication Skills	M. L. ボイル	春	水4	2	2	全	152
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	全	153
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	全	153
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	全	154
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	154
	Communication Skills	R. ダラム	春	木3	2	2	全	155
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木3	2	2	全	155
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	156
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	156
2012年度以前入学者	Communicative English	K. フォード	春	月1	2	2	全	144
	Communicative English	K. フォード	秋	月1	2	2	全	144
	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	145
	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	145
	Communicative English	M. フッド	春	月2	2	2	全	146
	Communicative English	M. フッド	秋	月2	2	2	全	146
	Communicative English	M, ダーリン	春	月3	2	2	全	147
	Communicative English	M, ダーリン	秋	月3	2	2	全	147
	Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	全	148
	Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	148
	Communicative English	J. スネール	春	火3	2	2	全	149
	Communicative English	J. スネール	秋	火3	2	2	全	149
	Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	150
	Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	150
	Communicative English	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	全	151
	Communicative English	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	全	151
	Communicative English	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	152
	Communicative English	M. L. ボイル	春	水4	2	2	全	152
	Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	全	153
	Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	全	153
	Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	全	154
	Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	154
	Communicative English	R. ダラム	春	木3	2	2	全	155
	Communicative English	R. ダラム	秋	木3	2	2	全	155
	Communicative English	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	156
	Communicative English	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	156
Discussion		P. マッケビリー	春	月1	2	2	全	157
Discussion		P. マッケビリー	秋	月1	2	2	全	157
Discussion		N. H. ジョスト	春	月3	2	2	全	158
Discussion		N. H. ジョスト	秋	月3	2	2	全	158
Discussion		E. J. ナオウミ	春	水4	2	2	全	159
Discussion		E. J. ナオウミ	秋	水4	2	2	全	159
Discussion		E. フランコ	春	木2	2	2	全	160
Discussion		E. フランコ	秋	木2	2	2	全	160
Discussion		B. D. タッチャー	春	木5	2	2	全	161
Discussion		B. D. タッチャー	秋	木5	2	2	全	161
Discussion		L. K. ハーキンス	春	金2	2	2	全	162
Discussion		L. K. ハーキンス	秋	金2	2	2	全	162
Public Speaking Ⅰ		D. マッキー	春	水2	2	2	全	163
Public Speaking Ⅰ		D. マッキー	秋	水2	2	2	全	163
Public Speaking Ⅰ		J. N. ウェンデル	春	月3	2	2	全	164
Public Speaking Ⅱ		J. N. ウェンデル	秋	月3	2	2	全	164
Debate Ⅰ		N. H. ジョスト	春	月4	2	2	全	165
Debate Ⅱ		N. H. ジョスト	秋	月4	2	2	全	165

学科共通科目

科目名		担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13年度以降	Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	春	火4	2	2	全	166
	Academic Lecture	A. ゾーリンジャー	秋	火4	2	2	全	166
	Academic Lecture	伊藤　兵馬	春	木4	2	2	全	167
	Academic Lecture	伊藤　兵馬	秋	木4	2	2	全	167
	Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水3	2	2	全	168
	Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水3	2	2	全	168
	Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水5	2	2	全	169
	英語の音声	青柳　真紀子	秋	火4	2	2	全	170
	英語の音声	中田　ひとみ	秋	水5	2	2	全	171
通訳Ⅰ		柴原　早苗	春	水1	2	2	全	172
通訳Ⅰ		柴原　早苗	秋	水1	2	2	全	172
通訳Ⅰ		柴原　早苗	春	水2	2	2	全	173
通訳Ⅰ		柴原　早苗	秋	水2	2	2	全	173
通訳Ⅰ		柴原　早苗	春	木1	2	2	全	174
通訳Ⅰ		柴原　早苗	秋	木1	2	2	全	174
通訳Ⅱ		柴原　早苗	春	木2	2	2	全	175
通訳Ⅱ		柴原　早苗	秋	木2	2	2	全	175
英語ビジネス・コミュニケーション		信　達郎	春	月1	2	2	全	176
英語ビジネス・コミュニケーション		信　達郎	秋	月1	2	2	全	176
英語ビジネス・コミュニケーション		信　達郎	春	月2	2	2	全	177
英語ビジネス・コミュニケーション		信　達郎	秋	月2	2	2	全	177
英語ビジネス・コミュニケーション		土川　孝	春	木1	2	2	全	178
英語ビジネス・コミュニケーション		土川　孝	秋	木1	2	2	全	178
英語ビジネス・コミュニケーション		土川　孝	春	木2	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション		土川　孝	秋	木2	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション		杉山　晴信	春	木3	2	2	全	180
英語ビジネス・コミュニケーション		杉山　晴信	秋	木3	2	2	全	180
英語ビジネス・コミュニケーション		杉山　晴信	春	木4	2	2	全	181
英語ビジネス・コミュニケーション		杉山　晴信	秋	木4	2	2	全	181
英語ビジネス・コミュニケーション実務		杉山　晴信	春	金1	2	2	全	182
英語ビジネス・コミュニケーション実務		杉山　晴信	秋	金1	2	2	全	182
メディア英語Ⅰ		A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	全	183
メディア英語Ⅰ		A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	全	183
メディア英語Ⅰ		関根　路代	春	水3	2	2	全	184
メディア英語Ⅰ		関根　路代	秋	水3	2	2	全	184
メディア英語Ⅰ		国見　晃子	春	木2	2	2	全	185
メディア英語Ⅰ		国見　晃子	秋	木2	2	2	全	185
メディア英語Ⅰ		土川　孝	春	木3	2	2	全	186
メディア英語Ⅰ		土川　孝	秋	木3	2	2	全	186
メディア英語Ⅰ		P. ネルム	春	金1	2	2	全	187
メディア英語Ⅰ		P. ネルム	秋	金1	2	2	全	187
メディア英語Ⅰ		東郷　公徳	春	金3	2	2	全	188
メディア英語Ⅰ		P. ネルム	秋	金2	2	2	全	188
メディア英語Ⅱ		A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	全	189
メディア英語Ⅱ		A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	全	189
メディア英語Ⅱ		関根　路代	春	水2	2	2	全	190
メディア英語Ⅱ		関根　路代	秋	水2	2	2	全	190
メディア英語Ⅱ		P. ネルム	春	金2	2	2	全	191
メディア英語Ⅱ		東郷　公徳	秋	金3	2	2	全	191
シネマ英語		高田　宣子	春	火3	2	2	全	192
シネマ英語		高田　宣子	秋	火3	2	2	全	192
シネマ英語		高田　宣子	春	火4	2	2	全	193
シネマ英語		高田　宣子	秋	火4	2	2	全	193
シネマ英語		M. L. ボイル	秋	水4	2	2	全	194
シネマ英語		国見　晃子	春	木3	2	2	全	195
シネマ英語		国見　晃子	秋	木3	2	2	全	195

学科専門科目

ツーリズム

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ツーリズム交流論	鈴木　涼太郎	秋	木5	2	2		196
ツーリズム・リスク論	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	全	197
ツーリズム文化論	鈴木　涼太郎	秋	火3	2	2	外	198
ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論） （2013年度以降入学者）/ ツーリズム・メディア論（2012年度以前入学者）	山口　誠	秋	金1	2	2	全	199
ツーリズム・マネジメント論	鈴木　涼太郎	春	火3	2	2	外	200
国際会議・イベント事業論	井上　泰日子	秋	月1	2	2	外	201
ツーリズム政策論	井上　泰日子	秋	月3	2	2	外	202
旅行・宿泊産業論	井上　泰日子	秋	木4	2	2	外	203
航空産業論	井上　泰日子	春	月3	2	2	外	203
サステイナブル・ツーリズム論	2017年度不開講						
地域開発論（2013年度以降入学者）/ 市民参加のまちづくり論（2012年度以前入学者）	北野　収	秋	火1	2	2	外・経	204
オルタナティブ・ツーリズム論	須永　和博	秋	木4	2	2	外	205
ツーリズム人類学	須永　和博	春	木4	2	2	外	205
ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論） （2013年度以降入学者）/ ツーリズム地誌論（2012年度以前入学者）	須永　和博	秋	木3	2	2	全	206
フィールドワーク論	須永　和博	春	木3	2	2	全	206
インターンシップ（2012年度以前入学者）	井上　泰日子	春	木4	2	2	全	207
インターンシップ（2013年度以降入学者）	井上　泰日子	春	木4	4	2	全	207
ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）（2013年度以降入学者）	花本　広志	春	月3	2	2	全	208
ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く）（2013年度以降入学者）	山口　誠	秋	水2	2	2	全	208

トランスナショナル文化

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
トランスナショナル文化論	高橋　雄一郎	春	木5	2	2		209
トランスナショナル・メディア論	山口　誠	春	木2	2	2	英	210
メディア・ライティング論	2017年度不開講						
トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究） （2013年度以降入学者）/ パフォーマンス研究（2012年度以前入学者）	高橋　雄一郎	秋	木5	2	2	全	211
表象文化論	高橋　雄一郎	春	木4	2	2	外	211
開発文化論	北野　収	春	月2	2	2	外・経	212
トランスナショナル社会学	北野　収	秋	火2	2	2	外	213
食の文化論	北野　収	春	月3	2	2	外	214
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと子ども）（2013年度以降入学者）	堀　芳枝	春	水2	2	2	全	215
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー）（2013年度以降入学者）	堀　芳枝	秋	水2	2	2	全	215
トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）（2013年度以降入学者）	山口　誠	秋	木2	2	2	全	216
トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論）（2013年度以降入学者）	花本　広志	秋	木3	2	2	全	217
トランスナショナル文化特殊講義 （トランスナショナルな公共圏を求めて）（2013年度以降入学者）	高橋　雄一郎	秋	木4	2	2	全	218
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル社会での平和）（2013年度以降入学者）	堀　芳枝	春	金2	2	2	全	219
トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと市民社会）（2013年度以降入学者）	堀　芳枝	秋	金2	2	2	全	219
英語圏のエリア・スタディーズa	佐藤　唯行	春	火2	2	2	全	220
英語圏のエリア・スタディーズb	P. ネルム	秋	水4	2	2	全	220
ヨーロッパの文化（ドイツ語概論a）	金井　満	春	火4	2	2	全	221
ヨーロッパの文化（ドイツ語概論b）	金井　満	秋	火4	2	2	全	221
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏文学・思想概論a）	渡部　重美	春	水2	2	2	全	222
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏文学・思想概論b）	渡部　重美	秋	水2	2	2	全	222
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏芸術・文化概論a）	山本　淳	春	木1	2	2	全	223
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏芸術・文化概論b）	山本　淳	秋	木1	2	2	全	223
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅰ）	松橋　麻利	春	木2	2	2	全	224
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅱ）	松橋　麻利	秋	木2	2	2	全	224
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅰ）	阿部　明日香	春	木3	2	2	全	225
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅱ）	阿部　明日香	秋	木3	2	2	全	225

学科専門科目

グローバル社会

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a	竹田　いさみ	春	火3	2	2	全	226
グローバル社会論a	竹田　いさみ	秋	火3	2	2	全	226
グローバル社会論b	水本　義彦	春	火3	2	2	全	227
グローバル社会論b	水本　義彦	秋	火3	2	2	全	227
国際協力論	金子　芳樹	春	火2	2	2	全	228
国際開発論	竹田　いさみ	春	月3	2	2	全	229
国際交流論	石川　幸子	春	金2	2	2	全	230
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火2	2	2	全	231
英語圏の国際関係a	永野　隆行	春	月2	2	2	全	232
英語圏の国際関係b	永野　隆行	秋	月2	2	2	全	232
グローバル・ヒストリーa(2013年度以降入学者)	水本　義彦	春	木2	2	2	全	233
グローバル・ヒストリーb(2013年度以降入学者)	水本　義彦	秋	木2	2	2	全	233
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	永野　隆行	春	水2	2	2	全	234
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	石川　幸子	秋	金2	2	2	全	234
グローバル社会文献セミナー(2013年度以降入学者)	永野　隆行	秋	水2	2	3	全	235
グローバル社会文献セミナー(2013年度以降入学者)	石川　幸子	春	金4	2	3	全	236
グローバル社会文献セミナー(2013年度以降入学者)	石川　幸子	秋	金4	2	3	全	236
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論a)	上村　敏郎	春	火1	2	2	全	237
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論b)	上村　敏郎	秋	火1	2	2	全	237
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	尾玉　剛士	春	火2	2	2	全	238
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	尾玉　剛士	秋	火2	2	2	全	238
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	廣田　愛理	春	水1	2	2	全	239
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	廣田　愛理	秋	水1	2	2	全	239

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	S. ヴィーク	春	火4	1	1	全	241
	ドイツ語(Ib 総合1)	S. ヴィーク	秋	火4	1	1	全	241
	ドイツ語(Ia 総合2)	S. ヴィーク	春	木2	1	1	全	242
	ドイツ語(Ib 総合2)	S. ヴィーク	秋	木2	1	1	全	242
	ドイツ語(Ia 総合3)	辻本　勝好	春	金4	1	1	全	243
	ドイツ語(Ib 総合3)	辻本　勝好	秋	金4	1	1	全	243
	ドイツ語(IIa 総合1)	H. J. トロル	春	月2	1	2	全	244
	ドイツ語(IIb 総合1)	H. J. トロル	秋	月2	1	2	全	244
	ドイツ語(IIa 総合2)	H. J. トロル	春	金2	1	2	全	245
	ドイツ語(IIb 総合2)	H. J. トロル	秋	金2	1	2	全	245
	ドイツ語(IIa 総合3)	井村　行子	春	火2	1	2	全	246
	ドイツ語(IIb 総合3)	井村　行子	秋	火2	1	2	全	246
	ドイツ語(IIIa 応用)	E. ビリック	春	火1	1	3	全	247
	ドイツ語(IIIb 応用)	E. ビリック	秋	火1	1	3	全	247
フランス語	フランス語(Ia 総合1)	大原　知子	春	月1	1	1	全	248
	フランス語(Ib 総合1)	大原　知子	秋	月1	1	1	全	248
	フランス語(Ia 総合2)	B. ピケ	春	金4	1	1	全	249
	フランス語(Ib 総合2)	B. ピケ	秋	金4	1	1	全	249
	フランス語(Ia 応用)	林　ゆき	春	木2	1	1	全	250
	フランス語(Ib 応用)	林　ゆき	秋	木2	1	1	全	250
	フランス語(IIa 総合1)	平井　康和	春	金2	1	2	全	251
	フランス語(IIb 総合1)	平井　康和	秋	金2	1	2	全	251
	フランス語(IIa 総合2)	F. X. レット	春	金3	1	2	全	252
	フランス語(IIb 総合2)	F. X. レット	秋	金3	1	2	全	252
	フランス語(IIa 応用)	竹内　久雄	春	月2	1	2	全	253
	フランス語(IIb 応用)	竹内　久雄	秋	月2	1	2	全	253
	フランス語(IIIa 応用)	C. ラビニャス	春	木1	1	3	全	254
	フランス語(IIIb 応用)	C. ラビニャス	秋	木1	1	3	全	254
スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	柴田　バネッサ	春	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ia 総合1)	蔦原　亮	春	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ib 総合1)	柴田　バネッサ	秋	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ib 総合1)	蔦原　亮	秋	火4	1	1	全	255
	スペイン語(Ia 総合2)	櫻井　道子	春	木2	1	1	全	256
	スペイン語(Ia 総合2)	髙橋　睦	春	金4	1	1	全	256
	スペイン語(Ib 総合2)	櫻井　道子	秋	木2	1	1	全	256
	スペイン語(Ib 総合2)	髙橋　睦	秋	金4	1	1	全	256
	スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	257
	スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリスタイン	春	月1	1	1	全	257
	スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	257
	スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリスタイン	秋	月1	1	1	全	257
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	火2	1	2	全	258
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	金2	1	2	全	258
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	火2	1	2	全	258
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	金2	1	2	全	258
	スペイン語(IIa 会話2)	P. ラゴ	春	月2	1	2	全	259
	スペイン語(IIa 会話2)	G. ベギリスタイン	春	金3	1	2	全	259
	スペイン語(IIb 会話2)	P. ラゴ	秋	月2	1	2	全	259
	スペイン語(IIb 会話2)	G. ベギリスタイン	秋	金3	1	2	全	259
	スペイン語(IIa 総合)	北岸　団	春	月2	1	2	全	260
	スペイン語(IIa 総合)	髙橋　睦	春	金3	1	2	全	260
	スペイン語(IIb 総合)	北岸　団	秋	月2	1	2	全	260
	スペイン語(IIb 総合)	髙橋　睦	秋	金3	1	2	全	260

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
スペイン語	スペイン語(IIIa 応用)	磯田　沙織	春	火1	1	3	全	261
	スペイン語(IIIa 応用)	荒沢　千賀子	春	木1	1	3	全	261
	スペイン語(IIIb 応用)	磯田　沙織	秋	火1	1	3	全	261
	スペイン語(IIIb 応用)	荒沢　千賀子	秋	木1	1	3	全	261
中国語	中国語(Ia 講読・文法)	丸山　貴士	春	木2	1	1	全	262
	中国語(Ib 講読・文法)	丸山　貴士	秋	木2	1	1	全	262
	中国語(Ia 会話1)	張　亜紅	春	月1	1	1	全	263
	中国語(Ib 会話1)	張　亜紅	秋	月1	1	1	全	263
	中国語(Ia 会話2)	蔡　暁軍	春	金4	1	1	全	264
	中国語(Ib 会話2)	蔡　暁軍	秋	金4	1	1	全	264
	中国語(IIa 講読・文法)	阿邉　淳	春	火2	1	2	全	265
	中国語(IIb 講読・文法)	阿邉　淳	秋	火2	1	2	全	265
	中国語(IIa 会話1)	星野　芳欣	春	月2	1	2	全	266
	中国語(IIb 会話1)	星野　芳欣	秋	月2	1	2	全	266
	中国語(IIa 会話2)	秦　敏	春	金2	1	2	全	267
	中国語(IIb 会話2)	秦　敏	秋	金2	1	2	全	267
	中国語(IIIa 応用)	近藤　光雄	春	木1	1	3	全	268
	中国語(IIIb 応用)	近藤　光雄	秋	木1	1	3	全	268
韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森　勇俊	春	月1	1	1	全	269
	韓国語(Ib 総合1)	森　勇俊	秋	月1	1	1	全	269
	韓国語(Ia 総合2)	柳　蓮淑	春	金4	1	1	全	270
	韓国語(Ib 総合2)	柳　蓮淑	秋	金4	1	1	全	270
	韓国語(Ia 応用)	沈　元燮	春	木2	1	1	全	271
	韓国語(Ib 応用)	沈　元燮	秋	木2	1	1	全	271
	韓国語(IIa 総合1)	沈　元燮	春	火2	1	2	全	272
	韓国語(IIb 総合1)	沈　元燮	秋	火2	1	2	全	272
	韓国語(IIa 総合2)	沈　元燮	春	金2	1	2	全	273
	韓国語(IIb 総合2)	沈　元燮	秋	金2	1	2	全	273
	韓国語(IIa 応用)	白　寅英	春	金3	1	2	全	274
	韓国語(IIb 応用)	白　寅英	秋	金3	1	2	全	274
	韓国語(IIIa 応用)	羅　一等	春	火1	1	3	全	275
	韓国語(IIIb 応用)	羅　一等	秋	火1	1	3	全	275

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	大重　光太郎	春	水3	2	1	養・経・法	277
総合講座	M. ビティヒ	秋	水3	2	1	養・経・法	277
総合講座	木村　佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	278
総合講座	木村　佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	278
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	279
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火2	2	1	養・経・法	280
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火3	2	1	養・経・法	280
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	280
(情報処理演習)[英語]	内田　富男	春	水2	2	1	養・経・法	281
(情報処理演習)[英語]	内田　富男	秋	水2	2	1	養・経・法	281
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	木2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金1	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	木2	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金1	2	1	養・経・法	282
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金2	2	1	養・経・法	282
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	283
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子　憲一	春	木3	2	1	養・経・法	283
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中　雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	283
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	283
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	284
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	284
(Word中級)	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	松山　恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	田中　雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	285
(Word中級)	松山　恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	285
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	羽山　恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	286
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/(コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	羽山　恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	286
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子　憲一	春	木4	2	1	養・経・法	287
(HTML初級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	287
(HTML初級)	田中　雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	287
(HTML初級)	金子　憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	287
(HTML中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	288
経済原論a	野村　容康	春	木3	2	2	養・経・法	289
経済原論b	野村　容康	秋	木3	2	2	養・経・法	289
社会心理学a	樋口　匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	290
社会心理学b	樋口　匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	290

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

2017 年度

交流文化学科シラバス

09 年度以降	交流文化概論 i	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、交流文化学科での学びに関する基本的な視座を身につけるための入門科目であり、学科の全教員によるオムニバス形式で行われる。交流文化学科では、「人と文化の越境現象＝ツーリズム」という理解に基づき、国家や民族、宗教や言語の壁を越えて交流する文化について研究していく。そのなかで本科目では、ツーリズムが学科の学びの基礎である語学教育を含めた多様な学問分野といかにかかわっているのかについて講義を行う。本講義の目的は、①ツーリズムをみる多様な視点の存在を知ること、②現実を理解し、知を生み出す作法としてのディシプリン（学問分野）について理解すること、③本学科の学びにおける「ツーリズム」と「語学」の意義と範囲について理解すること、④ツーリズムという現象を通して、国内外を問わず人間社会における文化的営みや政治経済の諸相について思考する態度を養うことである。	1、オリエンテーション（鈴木涼太郎） 2、キャリア／学びとしてのツーリズム（鈴木涼太郎） 3、外国人からみたツーリズム（N.H.ジョスト） 4、ツーリズムとメディア（山口誠） 5、ツーリズムと文学（島田啓一） 6、ツーリズムと移民・難民（高橋雄一郎） 7、ツーリズムと言語（府川謹也） 8、ツーリズムと言語（日野克美） 9、ツーリズムと文化（須永和博） 10、ツーリズムとジェンダー（堀芳枝） 11、ツーリズムと農業・農村（北野収） 12、ツーリズムと外交・国際関係（永野隆行） 13、ツーリズムと法（花本広志） 14、ツーリズムと観光産業（井上泰日子） 15、まとめ（鈴木涼太郎）

到達目標	広範な領域にわたるツーリズム関連科目を学ぶ者の入門編として、ツーリズムに関する基礎知識を習得し、人間の基本的欲求としての旅と観光行為の意味を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教員の指示に従い各自が必要な予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業ごとに行われる小レポートおよび小テスト（100%） 欠席回数が 4 回以上の者は単位認定の資格を失う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	交流文化概論 ii	担当者	須永　和博 山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
「トランスナショナル（越境的）」な視点で現代の社会や文化を捉える能力や態度は、これからの地球時代を生きる私たちにとっての重要なリテラシーのひとつです。「文化」「国家」「社会」など自明だとされてきた前提を離れて、異なる視点から複眼的に物事を理解するためのいくつかのヒントを提供することが本授業のねらいです。特に、人類学と社会学の理論や方法論に依拠しつつ、いくつかのトピックスをとりあげ、大学での学びにおいて必須となる基礎的な概念の理解と思考の方法について習得します。 前半は、文化人類学という学問を参照枠としながら、「異文化」を理解するための基本的な視点や感性を身につけることを目指します。 後半は、社会学の考え方を土台として、「交流」「文化」「国家」など重要概念の成り立ちと、その誕生の理由を歴史的に理解し、今後の大学生活において各自が応用できる「知の種」を手に入れることを試みます。	1. ガイダンス・人類学的思考とは 2. 自己紹介―人類学・観光・タイ（須永） 3. トランスナショナル文化とは1（須永） 4. トランスナショナル文化とは2（須永） 5. グローバリゼーションズ―ハラール産業の事例（須永） 6. 多文化社会としての日本1（須永） 7. 多文化社会としての日本2（須永） 8. 自己紹介―違和感と社会学（山口） 9. 文化とは：交流×文化＝？（山口） 10. 国家とは：ナショナルな想像力と共同体（山口） 11. 社会とは：システムと主体（山口） 12. 自由とは：個人主義と民主主義（山口） 13. 近代とは：モダンとポストモダン（山口） 14. メディアとは：「現実」と「虚構」（山口） 15. まとめ・期末試験対策

到達目標	トランスナショナル研究の役割と重要性など、トランスナショナル研究に関する基礎知識を習得し、トランスナショナルを分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の授業で示す事例や重要概念について図書館などでさらに調べ、より深く学ぶこと。
テキスト、参考文献	特に定めません。
評価方法	期末試験で評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	交流文化概論 iii	担当者	北野　収 永野　隆行 堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
交流文化学科の専門科目分野の１つである「グローバル社会」領域の導入科目です。当該分野には多様かつ有益な科目群が用意されていますが、この概論 iii は「交流文化学科での学び」という文脈性を意識して、国際関係、国際政治、国際開発、平和学等の基礎知識を習得することを目的とします。 私たちが生きるグローバル化された社会は、国際機関、各国政府、企業や NGO 等非国家行為主体、市民社会等の様々な行為主体の相互交渉、条約等の決まりごと（制度的枠組み）によって「運営」されています。にもかかわらず、戦争、紛争、貧困、環境、人権等の問題は後を絶ちません。 グローバル社会に生きる一員として、これらの問題群について主体的に思考し分析するための基礎的素養を養います。	１．全体ガイダンス ２．国際政治とは何か（永野） ３．国際政治の３つ分析レベル（永野） ４．国際政治の３つのアプローチ（永野） ５．戦後国際政治の歩み（永野） ６．国際開発史概論（北野） ７．豊かさとは、貧困とは（北野） ８．グローバル化の光と影（北野） ９．日本の開発経験と世界（北野） 10．国際政治経済とジェンダー（堀） 11．移民・難民をめぐる政治と経済（堀） 12．金融をめぐる政治と経済（堀） 13．地域統合（ASEAN）と東アジアの平和（堀） 14．まとめ１ 15．まとめ２

到達目標	国際関係研究の役割、および国際関係時事に関する基礎知識を習得し、グローバル社会を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教員の指示に従って、参考文献の指定された部分を事前に読み、授業中にレビューポイントが示された場合は、それにしたがって復習し、理解を深めておくこと。（詳細は全体ガイダンスにて説明）
テキスト、参考文献	各教員ごとに事前に文献、資料等を事前に提示する。
評価方法	毎回または各教員ごとに実施するリアクションペーパーによる。ただし、欠席４回以上は採点対象外。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
大学では受験勉強のように単に知識をつめこむのではなく、自分で疑問に思った社会の規範や常識が「本当にそうなのか」を考え、調べたり体験したりしながら、自分の価値観・ひいては人生観をつくってゆく場所です。自立して考え、行動することは、これからの国際社会で生きてゆくうえでは必要不可欠だと思います。 この授業では、まずみなさんの関心を聞いたうえでテキストを1-2冊輪読していきます。2年生以降でも必要となるレジメの作り方、論点の出し方、プレゼンテーションについて学びます。また、自分とは異なる環境で育ったほかの学生からの意見を聞くことで、多様な意見や価値を知り、自分の考えを相対化させていけたらいいなと思います。 最終レポートは、自分の問題関心に沿って調べたことを 3000 字レポートで作成することとします。 この授業を出発点として、大学が学生のみなさんにとって充実した学びの場になるようにしていきたいと思います。	1. ガイダンス～この授業の進め方についてなど 2. テキストの輪読と討論① 3. テキストの輪読と討論② 4. テキストの輪読と討論③ 5. テキストの輪読と討論④ 6. テキストの輪読と討論⑤ 7. テキストの輪読と討論⑥ 8. テキストの輪読と討論⑦ 9. テキストの輪読と討論⑧ 10. テキストの輪読と討論⑨ 11. テキストの輪読と討論⑩ 12. テキストの輪読と討論⑪ 13. テキストの輪読と討論⑫ 14. テキストの輪読と討論⑬ 15. まとめ、ならびに秋学期にむけたガイダンス

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱うテキストの箇所を読んで論点を整理し、それについて自分の意見を言えるようにしておく。わからないことは調べておく。また、授業で配布されたレジメと照らし合わせながら、復習をする。
テキスト、参考文献	初回のガイダンスで、参加者の問題関心を聞き、担当者の専門分野とのすり合わせを行った上で決定します。
評価方法	授業の参加度（40%）、最終レポート（60%）による。 なお欠席 4 回以上で「不可」。遅刻 2 回で欠席 1 回と計算します。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、自分のテーマに沿って文献を複数読んでもらい、それをまとめて個人発表を行います。参加者には発表に対して積極的にコメントすることを求めます。また脚注や参考文献の付け方も指導して、学期末には6000字程度の、ミニ論文が書けるようになるよう指導します。3年生からのゼミに自信をもって臨めるよう準備していきましょう。	1. ガイダンス ～この授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 個人発表と質疑応答① 3. 個人発表と質疑応答② 4. 個人発表と質疑応答③ 5. 個人発表と質疑応答④ 6. 個人発表と質疑応答⑤ 7. 個人発表と質疑応答⑥ 8. 個人発表と質疑応答⑦ 9. 個人発表と質疑応答⑧ 10. 個人発表と質疑応答⑨ 11. 個人発表と質疑応答⑩ 12. 個人発表と質疑応答⑪ 13. 個人発表と質疑応答⑫ 14. 個人発表と質疑応答⑬ 15. 個人発表と質疑応答⑭

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修は自分のテーマの発表の準備をすること。担当でないときは発表者のトピックについて自分でも事前に調べておくこと。復習はコメントにもとづいて、さらなる資料を調べたりまとめたりして下さい。
テキスト、参考文献	佐藤望、湯川武ほか『アカデミック・スキルズ(第 2 版)――大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2012 年。
評価方法	授業の参加度（40%）、最終レポート（60%）による。 なお欠席 4 回以上で「不可」。遅刻 2 回で欠席 1 回と計算します。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
大学での「学び」と何でしょうか。それは高校とは違い、学生の自発的、積極的な取り組みが求められるものです。大学生は、ただ教師から与えられ、教えられる知識、そしてそれをもとに出来上がっている世界を盲目的に受け入れるのではなく、それらを「批判的」に受け止める姿勢を持つことが大切です。 そして大学での「学び」を通じて、これまで当たり前だ、常識だと教えられてきた世界に疑問を持ち、真実とは何かを見極める力を身につけて欲しいと思っています。大学での「学び」を通じて獲得した能力や姿勢は、卒業後の人生にとっても大いに役立つものです。 授業では、テキスト、もしくはコピー資料を使用しながら、大学で講義を聞くこと、疑問に思うこと、調べること、読むこと、考えをまとめること、書くこと、発表することとは何かを理解し、秋学期の実践編に備えます。この授業を通じて、これから3ないし4年間の大学生活が、少しでも有意義なものとなるように願っています。 なお 4 月、5 月、6 月、7 月にそれぞれ課題を設定し、レポートの提出を義務づけます。	1. ガイダンス―この授業の進め方に関するオリエンテーション 2. テキストについての講義と討論① 3. テキストについての講義と討論② 4. テキストについての講義と討論③ 5. テキストについての講義と討論④ 6. テキストについての講義と討論⑤ 7. テキストについての講義と討論⑥ 8. テキストについての講義と討論⑦ 9. テキストについての講義と討論⑧ 10. テキストについての講義と討論⑨ 11. テキストについての講義と討論⑩ 12. テキストについての講義と討論⑪ 13. テキストについての講義と討論⑫ 14. テキストについての講義と討論⑬ 15. まとめ、ならびに秋学期にむけたガイダンス

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所を事前に読み、疑問点については、他の文献などを参考にクリアにしておくこと。また授業後は、学んだことを改めて思い起こして、内容を整理しておくこと。
テキスト、参考文献	佐藤望、湯川武ほか『アカデミック・スキルズ(第 2 版)――大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2012 年。
評価方法	授業の参加度(40%)、課題の提出状況(60%)による。なお欠席 4 回以上で「不可」。なお遅刻 2 回で欠席 1 回と計算します。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、春学期に学んだことをもとにより実践に近い形で授業を進めます。自ら問題提起を行い、それについて調査し、結果を口頭で発表し、最終的に文章にしたためます。大学生としてふさわしい一連の知的作業を行います。	1. ガイダンス―この授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 発表と質疑応答① 3. 発表と質疑応答② 4. 発表と質疑応答③ 5. 発表と質疑応答④ 6. 発表と質疑応答⑤ 7. 発表と質疑応答⑥ 8. 発表と質疑応答⑦ 9. 発表と質疑応答⑧ 10. 発表と質疑応答⑨ 11. 発表と質疑応答⑩ 12. 発表と質疑応答⑪ 13. 発表と質疑応答⑫ 14. 発表と質疑応答⑬ 15. 発表と質疑応答⑭

到達目標	「基礎演習 I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所を事前に読み、疑問点については、他の文献などを参考にクリアにしておくこと。また授業後は、学んだことを改めて思い起こして、内容を整理しておくこと。
テキスト、参考文献	佐藤望、湯川武ほか『アカデミック・スキルズ(第 2 版)――大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2012 年。
評価方法	授業の参加度(40%)、課題の提出状況(60%)による。なお欠席 4 回以上で「不可」。なお遅刻 2 回で欠席 1 回と計算します。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では､大学生に求められる基本的な考え方とスキルを学びます。第一に､「勉強」と「研究」は異なるため、大学では「研究」の考え方を習得し、卒業後も持続して成長できる「思考」の基盤をつくることを目指して､その基本的な部分を本演習で身につけます。 第二に、大学レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の4スキルを意識し､それぞれの具体的な技法を実践的な課題によって学びます。たとえば本やデータを「読む」ことは、誰でも自然とできるわけではなく､大学で学ぶべきレベルの「読み方」と、それを「思考」につなげる具体的なスキルを習得する必要があります。他の「書く」「聞く」「話す」も同じであり、本演習ではレポートの作成・情報の収集方法・グループ討論・プレゼンテーションの方法などアカデミック・スキルの基礎を実践的に学びます。 第三に、春学期では「書く」ことを重要テーマとし、作文などの文章執筆によって「思考」を明確にし、また深めていく方法を重点的にトレーニングして、秋学期の演習につなげます。	1．ガイダンス：授業の進め方について、自己紹介 2．クリティカル・リーディング①：読解の基礎 3．クリティカル・リーディング②：「比較」と「連想」 4．メディア・リテラシー①：「読む」と「読み解く」 5．文章実習①：「書く」とは何か 6．文章実習②：ノートテイキングと「聞く」思考 7．メディア・リテラシー②：「伝える」とは何か 8．文章実習③：作文の合評会（「良い文章」とは？） 9．文章実習④：「読む」と「書く」の連動に向けて 10．レジュメを作る①：レポートとレジュメの違い 11．レジュメを作る②：全員で同じ文献のレジュメを作る 12．図書館の活用方法（本と論文だけではない図書館術） 13．グループ研究①（英文記事から思考する） 14．グループ研究②（「話す」の基礎） 15．グループ研究③（口頭プレゼンテーション・マッチ）

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に予習と復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	授業の参加度、課題の提出状況、期末レポートにより総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、春学期に学んだ「読む」「書く」「聞く」「話す」の4スキルを高度化し、さらに「調べる」と「考える」の2スキルを加えて、2年次以降の大学生活において自由に思考するための基礎知力を習得し養成することを目指します。 具体的には、①アクティブ・リーディングの技法を学び、②それをグループで選定した文献において実践し､③レジュメと口頭でプレゼンテーションして他の履修者と討論し､④さらに関連する論や情報を調べてコンパクトな研究発表に挑戦する、というプログラムによって、上記の6スキルを組み合わせて実践することに取り組みます。 また春学期の「書く」ことに引き続き、秋学期では「映像分析の方法（基礎)」や「取材の方法（思考に結び付ける取材の方法)」を取り入れ､「書く」ことで「思考」するスキルの応用と高度化にも試みます。 春学期と比べてグループでの自由研究が増えるため､授業時間外での研究活動を積極的におこなうことが求められます。	1．アクティブ・リーディング①：批判的思考の基礎 2．「調べる」と「考える」：要約、解説、論説の検討 3．アクティブ・リーディング②：批判的思考の応用 4．アクティブ・リーディング③：グループ研究の方法 5．グループ・プレゼンテーションと討論① 6．グループ・プレゼンテーションと討論② 7．グループ・プレゼンテーションと討論③ 8．グループ・プレゼンテーションと討論④ 9．グループ・プレゼンテーションと討論⑤ 10．映像分析の方法（基礎） 11．自由研究発表と討論① 12．自由研究発表と討論② 13．自由研究発表と討論③ 14．自由研究発表と討論④ 15．評論文合評会、まとめ

到達目標	「基礎演習 I 」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に予習と復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	授業の参加度、課題の提出状況、期末レポートにより総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 　春学期の基礎演習では、講義と演習を織り交ぜながら図書館を利用した文献検索の方法や、レポートやレジュメなどを用いた研究発表などの基本的な作法について学ぶ。授業順は使用施設の都合などにより入れ替わることがある。	1、ガイダンス 2、大学での学びのマナー 3、大学での学びとキャリア 4、研究の倫理 5、図書館ガイダンス 6、レポートの書き方① 7、レポートの書き方② 8、レジュメの作り方 9、クリティカルリーディングとは 10、レジュメを使った発表① 11、レジュメを使った発表② 12、レジュメを使った発表③ 13、レジュメを使った発表④ 14、レジュメを使った発表⑤ 15、まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 　秋学期の基礎演習では、春学期の作業を踏まえながらグループ、個人で大テーマのもと課題を各自設定し、研究プロジェクトに取り組む。文献・資料の収集からプレゼンテーションの準備までを行い、授業後半ではクラス内で発表を行う。	1、ガイダンス 2、研究のためのプレゼンテーション 3、研究のための調査 4、課題発表① 5、課題発表② 6、課題発表③ 7、課題発表④ 8、課題発表⑤ 9、課題発表⑥ 10、課題発表⑦ 11、課題発表⑧ 12、課題発表⑨ 13、課題発表⑩ 14、課題発表⑪ 15、まとめ

到達目標	「基礎演習 I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本演習は、1. グループ・ワークによる小研究（＝実践的な学習）を通じて、大学で勉強・研究するための基礎的な考え・技法を身につけること、2. グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況のなかでの文化の動態について学問的に分析する能力を養うこと、を目的としている。 本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成法等について講義を行なう。そしてこの講義をふまえた上で、後半はグループごとに指定した課題（世界の食文化）に関する小研究を行なってもらう。 小研究の詳細については、初回授業で説明する。	1. 自己紹介 2. 趣旨説明・グループ分け 3. 講義1：研究とは何か 4. 講義2：文献資料収集の作法 5. 講義3：文献資料の読解・引用の流儀 6. 講義4：フィールドワークの技法 7. 講義5：プレゼンテーション・レポート作成技法 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をすること。
テキスト、参考文献	佐藤望ほか（編）2012『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会
評価方法	小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、グループごとの小研究・プレゼンテーションを毎回行なう。 自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養う。	1. ガイダンス 2. 発表・議論 3. 発表・議論 4. 発表・議論 5. 発表・議論 6. 発表・議論 7. 発表・議論 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ

到達目標	「基礎演習 I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をすること。
テキスト、参考文献	特に定めない。
評価方法	小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】フランケンシュタイン、アリス、ピーターパン、シャーロック・ホームズなどの名前を知らずにいる人はほとんどいないように、イギリス文学には、有名になって現代のポピュラーカルチャーにまで入り込んだものが数多くあります。この講義では、そんなメジャーな作品と、それほどでもないながら映画化されたりして一般にはよく知られている作品とを年代順に取り上げながら、文学作品の英語に親しんでもらうとともに、解釈のやりかたを学んでもらいます。 【講義概要】二回で一作品ずつ、英語の原文を交えながら作品を紹介していきます。受講者のみなさんには、原文を読んだり、日本語に訳したり、映像化されたものと原文との比較を求めたりします。	1. イントロダクション 2. 3. Jane Austen, Pride and Prejudice 4. 5. Mary Shelley, Frankenstein 6. 7. Charlotte Bronte, Jane Eyre 8. 9. Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland 10. 11. J.M. Barrie, Peter and Wendy 12. 13. Conan Doyle, The Hound of the Baskervilles 14. 15. Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go ＊取り上げる作品、進度は変更することがあります。

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：作者や作品について調べておくこと。 事後：授業内容をよく復習しておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布。 参考文献：授業内で適宜紹介します。
評価方法	毎回のコメントペーパー約３割、学期末試験約７割 ＊ただし欠席が授業回数の 1/3 を越える場合は、評価対象としません。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】フランケンシュタイン、アリス、ピーターパン、シャーロック・ホームズなどの名前を知らずにいる人はほとんどいないように、イギリス文学には、有名になって現代のポピュラーカルチャーにまで入り込んだものが数多くあります。この講義では、そんなメジャーな作品と、それほどでもないながら映画化されたりして一般にはよく知られている作品とを年代順に取り上げながら、文学作品の英語に親しんでもらうとともに、解釈のやりかたを学んでもらいます。 【講義概要】二回で一作品ずつ、英語の原文を交えながら作品を紹介していきます。受講者のみなさんには、原文を読んだり、日本語に訳したり、映像化されたものと原文との比較を求めたりします。	1. イントロダクション 2. 3. Jane Austen, Pride and Prejudice 4. 5. Mary Shelley, Frankenstein 6. 7. Charlotte Bronte, Jane Eyre 8. 9. Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland 10. 11. J.M. Barrie, Peter and Wendy 12. 13. Conan Doyle, The Hound of the Baskervilles 14. 15. Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go ＊取り上げる作品、進度は変更することがあります。

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：作者や作品について調べておくこと。 事後：授業内容をよく復習しておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布。 参考文献：授業内で適宜紹介します。
評価方法	毎回のコメントペーパー約３割、学期末試験約７割 ＊ただし欠席が授業回数の 1/3 を越える場合は、評価対象としません。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アメリカの「文学文化」を鏡にしながら、そこに映し出された、日本の「いま、ここ」に生きる私たちの姿を考える。これから学ぶ、さまざまな領域の水先案内を心がけたい。この講義の目的は、受講生に自分の日常と大学で学ぶことの意味を自ら考えてもらうことにある。 講義概要 　講義は、毎回テキストの各章の中からトピックを選び、解説を加えながら進める。そのテーマに関する、詩や歌を事前にメーリング・リストで配布し、具体的な作品も紹介しながらアメリカをコラージュしてゆく。毎回、最後の１５分はQ&Aに当てる。 　最低５回は、課題レポートを提出してもらう。	１．　ネイティヴ・アメリカンとは何か？ ２．　アメリカン・ドリーム ３．　信仰とアメリカ国民の生活 ４．　西部開拓の夢 ５．　移民の国アメリカ ６．　奴隷制とアメリカ南部 ７．　都市と経済 ８．　ハイブラウとロウブラウ ９．　冷戦とヴェトナム戦争の対抗文化 １０．環境 １１．文化の変容 １２．マルチカルチュラリズム １３．犯罪・暴力・抑圧 １４．身体文化 １５．まとめ

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料をプリントアウトし、疑問点を整理して講義に出席のこと。課題レポート（800 字程度）を PorTa にて提出。
テキスト、参考文献	笹田直人／堀真理子／外岡尚美編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房，2014 年）
評価方法	各回のレポートの総合点で決める。授業回数の３分の１以上欠席した場合は、評価の対象とはしない。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アメリカの「文学文化」を鏡にしながら、そこに映し出された、日本の「いま、ここ」に生きる私たちの姿を考える。これから学ぶ、さまざまな領域の水先案内を心がけたい。この講義の目的は、受講生に自分の日常と大学で学ぶことの意味を自ら考えてもらうことにある。 講義概要 　講義は、毎回テキストの各章の中からトピックを選び、解説を加えながら進める。そのテーマに関する、詩や歌を事前にメーリング・リストで配布し、具体的な作品も紹介しながらアメリカをコラージュしてゆく。毎回、最後の１５分はQ&Aに当てる。 　最低５回は、課題レポートを提出してもらう。	１．　ネイティヴ・アメリカンとは何か？ ２．　アメリカン・ドリーム ３．　信仰とアメリカ国民の生活 ４．　西部開拓の夢 ５．　移民の国アメリカ ６．　奴隷制とアメリカ南部 ７．　都市と経済 ８．　ハイブラウとロウブラウ ９．　冷戦とヴェトナム戦争の対抗文化 １０．環境 １１．文化の変容 １２．マルチカルチュラリズム １３．犯罪・暴力・抑圧 １４．身体文化 １５．まとめ

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料をプリントアウトし、疑問点を整理して講義に出席のこと。課題レポート（800 字程度）を PorTa にて提出。
テキスト、参考文献	笹田直人／堀真理子／外岡尚美編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房，2014 年）
評価方法	各回のレポートの総合点で決める。授業回数の３分の１以上欠席した場合は、評価の対象とはしない。

09 年度以降	英語の世界 I	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
英語という言語の仕組みを考えることを通じて、英語を話す人たちの考え方、物事の捉え方、文化を理解することがこの授業の目的です。主に語彙や文法を認知言語学的な観点から捉え、英語の持つ歴史的、文化的背景を探ります。例えば「花より団子」を “Dumpling rather than flowers.” と翻訳しても、英語を話す人たちにとって理解不能なのですが、なぜ理解不能なのかについて考えてみると、そこには文化的な問題、物事の把握の仕方の違いが大きく潜んでいることに気がつきます。また、bootにはブーツのほかに、（イギリス英語）車のトランク、さらにはコンピューターの起動という意味があります。靴とコンピューターにどんな関係があるのでしょう？英語の歴史をさかのぼると、ことばの意味だけでなく英語圏文化が見えてきます。こうした発見の悦びを言語学を通じて体感してもらいます。 授業連絡はTwitter @kura_class　にて適宜発信します。	1．講義の概要 2．多義語から考える英語の世界 3．メタファー 4．メトニミー 5．意味変化 6．PC表現 7．トイレから英語を考える 8．助動詞の多義性について考える 9．結果構文から考える英語の世界 10. 時間の捉え方 11. イギリス英語ができるまで 12. 英語と米語さらに国際語としてのEnglishes 13. 小説の翻訳を通して文化を見る 14. サピア・ウォーフの仮説とは 15. 講義のまとめ

到達目標	英語学の視点をもって、単語の意味・イントネーション・語法・構文などに関する基礎知識を習得し、英語を的確に用いることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で指示・配布する文献を事前に目を通し、必要事項を調べておく。
テキスト、参考文献	テキストは使用しないが、必要に応じてプリントを配布したり、参考文献を提示する。
評価方法	定期試験 60 パーセント、小テスト 3 回　30 パーセント、平常点 10 パーセント [注意：小テストは抜き打ちテストでノート参照可。学期末試験は持ち込み不可。]

09 年度以降	英語の世界 I	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
かつて、言語の形式の大部分は恣意的に決まっていると考えられてきましたが、ここ数十年の認知言語学の研究により、そのかなりの部分が我々の世界経験に基づいて合理的、必然的に形成されていることがわかってきました。母語話者はその原理を無意識にかつ直観的に理解できますが、非母語話者は意識的に探究し、学ぶ必要があります。本講義では、英語のさまざまな表現がなぜそのような形になっているのかを徹底的に考え、母語話者の直観に迫り、彼らに近い感覚で英語を操作する能力の足掛かりを得ることを目指します。文法を学ぶことで、正確な英語をより快適に作り出せるようになることを経験してもらい、文法学習と実用的な英語習得が実は直結していることを知ってもらいたいと思います。疑問や意見を積極的に表明することのできる明るい雰囲気の授業にしたいと思います。	1. 日本語を介さずに英語を理解する 2. 文法形式とスキーマ 3. 形が違えば意味は違う 4. 比喩の役割 5. 多義語とは何か？ 6. 単語の配列と意味 7. 特定と非特定 8. 有界性と非有界性 9. 時制は２つしかない 10. 統語的な相 11. 仮定法 12. 動詞の相 13. 並置 14. 倒置 15. さらに何をどう学ぶべきか

到達目標	英語学の視点をもって、単語の意味・イントネーション・語法・構文などに関する基礎知識を習得し、英語を的確に用いることができるようにする。
事前・事後学修の内容	予習では予告された表現のスキーマを自分なりに考え、授業後は教室で提示されたものと比較すること。
テキスト、参考文献	① 今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』開拓社 ② 担当者が用意するプリント
評価方法	小テスト 30%、レポート 20%、期末試験 50% の配分で算出する。

09 年度以降	English for Business I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
小学校高学年で英語の授業が必修となり、また、大学では学生の海外への短期留学を増加させるために、或いは、世界各国から優秀な人材を集め、競争に勝ち抜くために、4学期制を実施・検討している大学もあるようです。更に、社内公用語を英語に変更する企業が出現した現状を考えると、教育界・実業界等で、世界に通ずる英語の習得が重要課題となっていることは明らかです。 本講義では、ビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得し、上級科目である「Business Writing」、「英語ビジネス・コミュニケーション」、「英語ビジネス・コミュニケーション実務」等を履修するための予備的な実力を養成します。 **Writing**では、**ビジネス英文メール**の中でよく使用される**独特な英語表現**を勉強し、世界に通ずる実践的な学習となるよう指導していきます。**Reading** では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明や経済英語独特の表現を学び、英字新聞ビジネス記事の基本的な読み方を学習いたします。	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　Ｃ１：ビジネス英文メールの形式 ３．　Ｃ２：世界主要支社長会議のお知らせ＆練習問題 ４．　Ｃ３：同上への出席通知＆同上 ５．　Ｃ４：販売本部長の営業報告＆同上 ６．　Ｃ５：宣伝部長報告＆同上 ７．　Ｃ６：企画部長報告＆同上 ８．　中間試験と復習 ９．　Ｃ７：議事録送付＆練習問題 １０．Ｃ８：カリフォルニアワインの見本輸入＆同上 １１．Ｃ９：見本商品の発送通知＆同上 １２．Ｃ１０：引き合い＆同上 １３．Ｃ１１：オファー＆同上 １４．Ｃ１２：カウンター・オファー＆同上 １５．まとめ

到達目標	初学者を対象に、ライティング、リーディングを問わずビジネス場面において基礎レベルの英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年） Reading: プリント使用
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	English for Business Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「English for Business II」では、「English for Business I」の「講義目的・講義概要」で書かれた、**Writing**と**Reading**の続きを行い、**Writing**と**Reading**の更なる能力向上に努めます。ビジネス英文メールの書き方の習得と同時に、企業内のさまざまなことも学び、外国への留学手続き、国際的に活躍する企業への就職活動、そして就職してからの業務遂行に役立つことができるよう指導致します。国際社会に対応できるように、**Writing とReadingを関連させて総合的なビジネス英語**の基本を学んでいきます	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　Ｃ１３：カウンター・オファー受託通知＆練習問題 ３．　Ｃ１４：信用状開設準備＆同上 ４．　Ｃ１５：船積通知＆同上 ５．　Ｃ１６：クレーム＆同上 ６．　Ｃ１７：クレームの解決＆同上 ７．　Ｃ１８：国際展示会及び営業会議招待＆同上 ８．　中間試験と復習 ９．　Ｃ１９：国際展示会及び会議出席通知＆練習問題 １０．Ｃ２０：宿泊などの申し込み＆同上 １１．Ｃ２１：有力販売店主の工場視察＆同上 １２．Ｃ２２：ホテルへの苦情＆同上 １３．Ｃ２３：顧客のホテル苦情への返信＆同上 １４．Ｃ２４：有力販売店主の工場長宛礼状＆同上 １５．まとめ

到達目標	「English for Business I」の学習成果のうえに、簡単なビジネス通信文の読み書き、日常的なビジネス文書の読み書き、電話、面談等による簡単な商談、社交会話において、英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年） Reading: プリント使用
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	Listening & Speaking（火１）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. One component of the course is to study online with English Central. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review 15.Feedback

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火１）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the Listening and Speaking class, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. One component of the course will be to study online with English Central. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. TV sitcom 10. Tourism in the Lake District 11. TV sitcom 12. Festivals 13. Music 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening & Speaking（火２）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. One component of the course is to study online with English Central. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review 15.Feedback

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火２）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the Listening and Speaking class, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. One component of the course will be to study online with English Central. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. TV sitcom 10. Tourism in the Lake District 11. TV sitcom 12. Festivals 13. Music 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on class performance (30%), classroom exercises (30%) and test results (40%).

09 年度以降	Listening & Speaking	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
音声教材を用い、発音と聞き取りの演習を行う。 1.　単音 英語の母音・子音を学ぶ。特に母語にないものや別の音で代用しがちな音を理解し、その聴覚印象と調音方法を習得する。 2.　音連続 音の連結による変化を学ぶ。主に、単音の連続による同化や脱落などの音変化を理解・習得する。 3.　語アクセント 語アクセントを学ぶ。卓立性（強さ）を理解・習得し、さらに強音節での子音強化や弱音節での母音弱化など、音節の強弱に付随する母音・子音の特徴を学習する。 4.　リズムとイントネーション 句や文のリズムとイントネーションを学ぶ。	1. Introduction 2. Weak forms 3. Linking sounds 4. Weak forms & linking sounds 5. Sentence stress 6. Sentence stress & weak forms 7. Linking sounds 8. Mid term test 9. Disappearing sounds 10. Disappearing sounds & linking sounds 11. Weak forms, linking & disappearing sounds 12. Weak forms, linking & disappearing sounds 13. Strategies- Filling in the gaps 14. Strategies- Filling in the gaps 15. Review

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定された課題を行い、事後は発音法を徹底的に復習し身に付けること。
テキスト、参考文献	Alastar Graham-Marr. *Academic Listening and Speaking 2*. ABAX
評価方法	平常点(20%)、E ラーニングサイトに基づく小テスト(30%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
TOEFL®やTOEIC®のリスニング教材を用いて、実用的な英語力と発音能力を身に付けることを目的とする。 リスニング力を向上させるためには、英語をたくさん聞くことはもちろんのこと、英語の4技能や語彙力を強化し、異文化理解を深め、予測しながら聞くことが重要である。 そこで、本講義では、春学期にListening & Speakingで学習した項目を生かして、留学やビジネスに役立つリスニング能力と会話力を伸ばす練習を集中的に行う。	1. Introduction 2~7. TOEFL® & TOEIC® Listening Practice 8. Mid term test 9~14. TOEFL® & TOEIC® Listening Practice 15. Review

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定された課題を行い、事後はリスニングと発音練習を徹底的に行う。
テキスト、参考文献	授業時に配布する。
評価方法	平常点(20%)、E ラーニングサイトに基づく小テスト(30%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Listening & Speaking（火３）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の4技能（読む、書き、話し、聞く）をバランスよく身に付けながら、総合的英語力の養成を目指す。 毎回、提示するトピックに取り組み、それを基に複数の相手と対話を行う。とっさに英語にできなかったことを質問用紙に書き提出する。その際に自己分析し、自分の進歩状況を客観的及び主観的に把握する。また、毎日英語による日誌を書くことを課題とする。 自然な速さの英語、生の英語を材料として聞き取りのコツを学びながらリスニングの力を高める。教室内のPCを利用し、世界中の英語ニュースを読み取り、対話の中に取り入れる。	1．Orientation 2．Lesson 1 3．Lesson 2 4．Lesson 3 5．Lesson 4 6．Lesson 5 7．Lesson 6 8．Lesson 7 9．Lesson 8 10．Lesson 9 11．Lesson 10 12．Lesson 11 13．Lesson 12 14．Lesson 14 15．まとめ

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、重要語彙の確認をする。 事後学修：毎回提出された質問に対する回答を確認する。
テキスト、参考文献	学生の、学生による、学生のための和英辞書　新翠舎
評価方法	定期試験と課題および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火３）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的Listeningの訓練を行いTOEIC®及び TOEFL®等の試験に対応できるよう配慮する。	1．Orientation 2．Lesson 1 3．Lesson 2 4．Lesson 3 5．Lesson 4 6．Lesson 5 7．Lesson 6 8．Lesson 7 9．Lesson 8 10．Lesson 9 11．Lesson 10 12．Lesson 11 13．Lesson 12 14．Lesson 13 15．まとめ

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®やTOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、重要語彙の確認をする。 事後学修：毎回提出された質問に対する回答を確認する。
テキスト、参考文献	学生の、学生による、学生のための和英辞書　新翠舎
評価方法	定期試験と課題、および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening & Speaking（火１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の4技能（読む、書き、話し、聞く）をバランスよく身に付けながら、総合的英語力の養成を目指す。 毎回、提示するトピックに取り組み、それを基に複数の相手と対話を行う。とっさに英語にできなかったことを質問用紙に書き提出する。その際に自己分析し、自分の進歩状況を客観的及び主観的に把握する。また、毎日英語による日誌を書くことを課題とする。 自然な速さの英語、生の英語を材料として聞き取りのコツを学びながらリスニングの力を高める。教室内のPCを利用し、世界中の英語ニュースを読み取り、対話の中に取り入れる。	１．Orientation ２．Lesson 1 ３．Lesson 2 ４．Lesson 3 ５．Lesson 4 ６．Lesson 5 ７．Lesson 6 ８．Lesson 7 ９．Lesson 8 10．Lesson 9 11．Lesson 10 12．Lesson 11 13．Lesson 12 14．Lesson 14 15．まとめ

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、重要語彙の確認をする。 事後学修：毎回提出された質問に対する回答を確認する。
テキスト、参考文献	学生の、学生による、学生のための和英辞書　新翠舎
評価方法	定期試験と課題および授業における参加度による。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®（火１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的Listeningの訓練を行いTOEIC®及び TOEFL®等の試験に対応できるよう配慮する。	１．Orientation ２．Lesson 1 ３．Lesson 2 ４．Lesson 3 ５．Lesson 4 ６．Lesson 5 ７．Lesson 6 ８．Lesson 7 ９．Lesson 8 10．Lesson 9 11．Lesson 10 12．Lesson 11 13．Lesson 12 14．Lesson 13 15．まとめ

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®やTOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：毎回、重要語彙の確認をする。 事後学修：毎回提出された質問に対する回答を確認する。
テキスト、参考文献	学生の、学生による、学生のための和英辞書　新翠舎
評価方法	定期試験と課題、および授業における参加度による。

09 年度以降	Grammar for TOEFL®&TOEIC® Ⅰ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことにある。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現となって表れているのだろうかと探っていく習慣を身につけていく学習方法こそが、結局は効率の良い方法であることがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかみ、一日も早くネイティブ･スピーカーが英語を理解しているとき、その頭の中で何が起こっているのかを感じ取ってほしい。 ※この授業は 2 年次必修の「英語の世界Ⅰ」と密接な関係にある。	1. 対象のとらえ方を示す冠詞 2. 続き 3. 数詞と数量詞 4. 前置修飾と後置修飾 5. 続き 6. 代名詞と名詞節 7. テンス（時制）とアスペクト（相） 8. 続き 9. 未来を語る表現 10. 動詞のタイプ 11. 続き 12. 話し手の態度と法助動詞 13. 続き 14. 態―能動態と受動態と中間態 15. 続き

到達目標	「英語の世界Ⅰ」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを 2 回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。
テキスト、参考文献	田中茂範『表現英文法[増補改訂第 2 版]』コスモピア
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

09 年度以降	Grammar for TOEFL®&TOEIC® Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ことばを使う表現主体と文法とはけして無関係ではないという立場から、話し手を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに捉え、いかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的動機付けの仕組がわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言えてもこうは言えないのか」ということにたいして説明ができるようになるということである。 そうなると、英文法学習というのは「なるほど？」と納得しながら学ぶものであり、暗記力の良し悪しの問題ではないこともわかり、例えば現在完了形と過去形の使い分け、冠詞aとtheの使い分け、はだか名詞とaや-sが付いた名詞の違い、あるいはI'm standing on/in the street.の意味の違いがわかるようになる。	1. 動詞のスクリプトと構文 2. 続き 3. 形容詞構文 4. 副詞的表現と機能と位置 5. 豊かな意味を生み出す副詞的表現 6. 前置詞 （at/in/on/off/about/around/across/through/ along） 7. 前置詞 （over/above/beyond/below/with/to/of/from/for/against） 8. 空間副詞（up/down/out/back/away） 9. 語順（情報配列のテンプレート）・情報連結詞 10. 続き 11. 文のタイプ（存在文・付加疑問文・語順の倒置・省略） 12. 比較構文 13. 否定構文 14. 話法 15. 仮定法構文

到達目標	「英語の世界Ⅰ」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを 2 回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。
テキスト、参考文献	田中茂範『表現英文法[増補改訂第 2 版]』コスモピア
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Students enrolled in this course are expected to increase the ability to think in English, and increase English vocabulary. Furthermore, students are expected to deepen the understanding of foreign cultures and literatures. The course is also designed to prepare basic English skills for students considering to pursue academics in English speaking countries in the future. This course is conducted using the textbook indicated below. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Douglas, Nancy, David Bohlke, Helen Huntley, Bruce Rogers, and Paul MacIntyre, *Reading Explorer 5 2nd ed.* (Boston: National Geographic Learning, 2016).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading Strategies Ⅱ	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. Students are expected to further improve the skills acquired in the spring semester, by reading advanced reading materials. This course is conducted using the textbook indicated below. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Douglas, Nancy, David Bohlke, Helen Huntley, Bruce Rogers, and Paul MacIntyre, *Reading Explorer 5 2nd ed.* (Boston: National Geographic Learning, 2016).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading Strategies I （火１）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 　英語の語彙を増やしながら、最終的には日本語を介さず英語でテキストを理解する能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。 授業概要： 　短編小説を中心に、毎週、指示された範囲を予習してきてもらい、パラグラフごとに日本語や英語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳してもらいます。 時間の許す限り、RLR練習(Read, Look Up, and Repeat: テキストの英文を意味のまとまりごとに声を出して読み、テキストから目を離して、その箇所をリピートし、徐々にリピートできる範囲を長くする練習)を用いて、英語の総合力アップを図りたいと思います。	1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR練習の実習など 2. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 3-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題(語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など)を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト、参考文献	テキスト:　プリントを使用の予定 参考文献:　授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ （火１）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 　“Reading Strategies I”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading Strategies I”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。 授業概要： 　春学期の該当箇所を参照してください。	1. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 2-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題(語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など)を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト、参考文献	テキスト:　プリントを使用の予定 参考文献:　授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は，英文を精確に「読む」ための技術と姿勢を身につけることを目的としています。「読む」ことと「訳す」ことは別のことです。授業は，このことを徹底して意識しながら進めていきます。 英文を精確に読むためには，英文の構造や指示語や指示対象，修飾・被修飾の関係，接続詞・前置詞・関係詞・副詞などの論理を示す語句を正しく理解しなければなりません。また，「訳す」ことが目的ではなく，内容を「理解して学習する」ことが目的なので，記述の背景や筆者の意図なども意識しながら読んでいきます。 「読む」という行為について，日本語と外国語を区別することなく，「英語を日本語のように読む」ことを目指してください。「読む」行為は，あくまでも何かを学ぶための手段でしかありません。	1. 授業オリエンテーション 2. 「読む」とは何か（訳す≠読む）と諸概念の把握 3. Chapter 1: 英文の構造と動詞句・接続詞のかたち 4. Chapter 1: 動詞句の解釈（時制と態） 5. Chapter 1: 動詞句の解釈（相） 6. Chapter 2: 動詞句の解釈（法助動詞） 7. Chapter 2: 名詞句のかたちと主語の特定 8. Chapter 2: 修飾語句のかたちと解釈 9. Chapter 3: 等位接続詞の働き 10. Chapter 3: 従属接続詞の働き（名詞節） 11. Chapter 3: 従属接続詞の働き（副詞節） 12. Chapter 4: 従属接続詞の働き（形容詞節） 13. Chapter 4: 分詞構文の扱い 14. Chapter 4 15. 春学期のまとめ ※ 理解度により進度が変わることがあります。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること。また，既習箇所を繰り返し読み返して，自動化を図るべく徹底して復習すること。
テキスト、参考文献	Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社
評価方法	学期末試験（60%），授業レポート（20%），宿題（10%），意欲・関心・態度など（10%）で評価します。

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，春学期の学習を踏まえ，より多くの量の英文をより速く読めるようになるための技術と能力を身につけることを目的としています。 まず，パラグラフの構造を理解した上で，精確に読むべき箇所とscanningやskimmingの技術を使って読む箇所を判断し，要約できるようになることを目指します。 次に，長いエッセイについて全体の構造を理解し，「意味段落」を意識しながら全体を要約して説明できるようになることを目指します。この段階に入っても，英文を精確に読めることが求められることは言うまでもありません。 また，背景知識についての学習も，引き続き求められます。最終的には，「英語を日本語のように読む」の「自動化」を目指します。	1. Chapter 5 2. Chapter 5 3. Chapter 5 4. Chapter 6 5. Chapter 6 6. Chapter 7 7. Chapter 7 8. 中間まとめ 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Chapter 14 15. Chapter 15

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること。また，既習箇所を繰り返し読み返して，自動化を図るべく徹底して復習すること。
テキスト、参考文献	Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社
評価方法	学期末試験（60%），授業レポート（20%），宿題（10%），意欲・関心・態度など（10%）で評価します。

09 年度以降	Reading Strategies I （木４）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 　英語の語彙を増やしながら、最終的には日本語を介さず英語でテキストを理解する能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。 授業概要： 　短編小説を中心に、毎週、指示された範囲を予習してきてもらい、パラグラフごとに日本語や英語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳してもらいます。 時間の許す限り、RLR練習(Read, Look Up, and Repeat: テキストの英文を意味のまとまりごとに声を出して読み、テキストから目を離して、その箇所をリピートし、徐々にリピートできる範囲を長くする練習)を用いて、英語の総合力アップを図りたいと思います。	1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR練習の実習など 2. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 3-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題(語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など)を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト、参考文献	テキスト:　プリントを使用の予定 参考文献:　授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ（木４）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 　“Reading Strategies I”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading Strategies I”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。 授業概要： 　春学期の該当箇所を参照してください。	1. 約2ページから4ページの範囲で、使用テキストを輪読する。 2-15. 同上。随時、Web上の課外読み物についても学習したい。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前までに、指定された範囲の課題(語彙調べ、内容理解、キーセンテンスの発見など)を完了させる。 授業後は、学習した範囲の音読と書き取り、重要箇所の和訳などをノートにまとめる。
テキスト、参考文献	テキスト:　プリントを使用の予定 参考文献:　授業で随時紹介
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、英文読解のさまざまな方略を学ぶ。 1. Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語や句の意味を推測し、語の用法を学び、語彙を増やす。 2. Reading aloud: 文章の区切り目や抑揚にも注意を払うことによって、意味の単位をしっかりと把握する。 3. Previewing and Predicting: どのような内容のものを読もうとしているのか、本の表や目次、挿絵などを見て予測し、すでに持っている関連した知識や経験と結びつけることによって、これから読もうとする本の内容理解への準備をする。 4. Recognizing patterns in paragraphs: 各パラグラフにおいて、もっとも重要な、主題が現れる位置の型を知り、大意を把握する際に役立てる。 5. Recognizing patterns of text organization: 原因と結果、比較、時間の経過など、文章構成の型に気づく。	1. Introduction 2. Skimming and scanning 3. Reading practice 4. Predicting, inferring, interpreting&deducing meaning 5. Reading practice 6. Visualizing, associating, judging and summarizing 7. Reading practice 8. Review 1 9. Reading practice 10. Understanding purpose and tone 11. Reading practice 12. Separating fact from opinion 13. Reading practice 14. Understanding references 15. Review 2

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行う。
テキスト、参考文献	Carlos Islam and Carrie Steenburgh. *A Good Read 2*. Shohakusha
評価方法	平常点(20%)、オンライン学習プログラム(30%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に学習した、Reading Strategies Iの技法を生かして、さらに英文読解力を向上させる。 1. Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、語の用法を学び、使える語彙を増やす。 2. Previewing and Predicting: どのような内容のものを読もうとしているのか、本の表や目次、挿絵などを見て予測し、関連した知識や経験と結びつけることによって、これから読もうとする本の内容理解への準備をする。 3. Recognizing patterns of text organization: 原因と結果、比較、時間の経過など、文章構成の型に気づく。 4. Making inferences: 文章としてはっきりとは書かれていないが、そこに含まれる内容を推測する。 5. Outlining: 文章を構成している各パラグラフで、主題を読み取り、文章全体の構成の中での位置づけを把握する。	1. Introduction 2. Highlighting and annotating 3. Reading practice 4. Recognizing main ideas 5. Reading practice 6. Recognizing supporting ideas 7. Reading practice 8. Review 1 9. Reading practice 10. Recognizing text organization 11. Reading practice 12. Skimming and scanning 1 13. Reading practice 14. Skimming and scanning 2 15. Review 2

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行う。
テキスト、参考文献	Carlos Islam and Carrie Steenburgh. *A Good Read 2*. Shohakusha
評価方法	平常点(20%)、オンライン学習プログラム(30%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading Strategies I、IIで学習した内容を踏まえ、英文読解の方略をさらに向上させることを目的とする。 1. Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 2. Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3. Faster reading: ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの分を読むことを実践的に学ぶ。 4. Effective reading: 読む目的に合わせて精読したり、速読したりして、読み方を切り替えて用いる柔軟さを身に付ける。	1. Introduction 2. Reading for Pleasure 3. Cyber-Worlds 4. Food Safety 5. The Sex-Role Revolution 6. Solving the Job Puzzle 7. Computer-Related Jobs 8. Culture War 9. Entertainment Media 10. Cannes Loves to Hate Censorship 11. Affluenza 12. Economic Growth vs. Human Morale 13. Keeping the American Dream 14. Ethnic Boundary Markers 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行う。
テキスト、参考文献	Lindra Robinson Fellag. *Tapestry Reading 3*. Cengage Learning.
評価方法	平常点(20%)、オンライン学習プログラム(30%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading Strategies IIIに引き続き、英文読解の方略をさらに向上させることを目的とする。 1. Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 2. Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3. Faster reading: ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの分を読むことを実践的に学ぶ。 4. Effective reading: 読む目的に合わせて精読したり、速読したりして、読み方を切り替えて用いる柔軟さを身に付ける。	1. Introduction 2. Hong Kong: Two Views 3. Green Cards 4. Wilshire Bus 5. The Role of Language 6. Canada Loses Its French Accent 7. Sparring Over English Only 8. India's Young Workers 9. Illegal Child Labor 10. Nike Needs to Raise Workers' Minimum Wage 11. Rain Forest Remedies 12. Our Dying Seas 13. Global Warming 14. Everything You Could Want is Out There 15. Review

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定した課題を行い、事後に復習を行う。
テキスト、参考文献	M. E. Sokolik. *Tapestry Reading 4*. Cengage Learning.
評価方法	平常点(20%)、オンライン学習プログラム(30%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム：交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	第１回 導入 第２回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：ScanningやSkimmingの技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 オンライン学習プログラム：交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	第１回 導入 第２回～第14回 初回授業にて指示します。 第15回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading Strategies I, IIで学習したことを踏まえ、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	第１回 オリエンテーション 第2回～第14回 初回授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表と参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)、オンライン学習プログラム(30%)

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続き本講義では、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	第１回 オリエンテーション 第2回～第14回 初回授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表と参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)、オンライン学習プログラム(30%)

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水２）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　辞書は毎回必ず持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水２）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　辞書は毎回必ず持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト、課題）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ （火２）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The main purpose of this course is to help students write English sentences using correct grammar. Furthermore, the course makes students aware of commonly made mistakes and at the same time, it introduces self-help strategies to help students analyze problems and revise their writing. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.	1. Introduction 2. The Writing Process (1) 3. The Writing Process (2) 4. Introduction to the Paragraph (1) 5. Introduction to the Paragraph (2) 6. Introduction to the Paragraph (3) 7. Introduction to the Paragraph (4) 8. Midterm Examination 9. The Narrative Paragraph: Personal Reflections (1) 10. The Narrative Paragraph: Personal Reflections (2) 11. The Narrative Paragraph: Personal Reflections (3) 12. The Descriptive Paragraph: Important People, Important Places (1) 13. The Descriptive Paragraph: Important People, Important Places (2) 14. The Descriptive Paragraph: Important People, Important Places (3) 15. Course Review

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Smalley, Regina L., Mary K. Ruetten, and Joann Rishel Kozyrev, *Refining Composition Skills: Academic Writing & Grammar, 6th ed.* (Boston: National Geographic Learning, 2012).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅱ （火２）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English.	1. Introduction 2. The Expository Paragraph: Media and Entertainment (1) 3. The Expository Paragraph: Media and Entertainment (2) 4. The Expository Paragraph: Media and Entertainment (3) 5. Introduction to the Essay (1) 6. Introduction to the Essay (2) 7. Introduction to the Essay (3) 8. Midterm Examination 9. The Example Essay: The Power of Culture and Language (1) 10. The Example Essay: The Power of Culture and Language (2) 11. The Example Essay: The Power of Culture and Language (3) 12. The Argumentative Essay: Educational Excellence (1) 13. The Argumentative Essay: Educational Excellence (2) 14. The Argumentative Essay: Educational Excellence (3) 15. Course Review

到達目標	「Writing Strategies Ⅰ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Smalley, Regina L., Mary K. Ruetten, and Joann Rishel Kozyrev, *Refining Composition Skills: Academic Writing & Grammar, 6th ed.* (Boston: National Geographic Learning, 2012).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies I （月 4）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The main purpose of this course is to help students write English sentences using correct grammar. Furthermore, the course makes students aware of commonly made mistakes and at the same time, it introduces self-help strategies to help students analyze problems and revise their writing. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.	1. Introduction 2. Social Relationships (1) 3. Social Relationships (2) 4. Social Relationships (3) 5. Science and Detection (1) 6. Science and Detection (2) 7. Science and Detection (3) 8. Midterm Examination 9. City Solutions (1) 10. City Solutions (2) 11. City Solutions (3) 12. Danger Zones (1) 13. Danger Zones (2) 14. Danger Zones (3) 15. Course Review

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Vargo, Mari, and Laurie Blass, *Pathways 3: Reading, Writing, and Critical Thinking* (Boston: National Geographic Learning, 2014).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅱ （月 4）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Global Appetites (1) 3. Global Appetites (2) 4. Global Appetites (3) 5. Medical Innovators (1) 6. Medical Innovators (2) 7. Medical Innovators (3) 8. Midterm Examination 9. World Languages (1) 10. World Languages (2) 11. World Languages (3) 12. Survival Instinct (1) 13. Survival Instinct (2) 14. Survival Instinct (3) 15. Course Review

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Vargo, Mari, and Laurie Blass, *Pathways 3: Reading, Writing, and Critical Thinking* (Boston: National Geographic Learning, 2014).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week 10: StrangeStories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Course Review　Week 15: Final Evaluation

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) Report preparation (30 minutes+)
テキスト、参考文献	'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & electronic dictionary or smartphone
評価方法	30% Class work, 40% Homework Reports 30% Final Report

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Process & Pre-Writing Week 2: The Structure of a Paragraph Week 3: The Development of a Paragraph Week 4: Descriptive & Process Paragraphs Week 5: Opinion Paragraphs Week 6: Comparison & Contrast Paragraphs Week 7: Problem/Solution Paragraphs Week 8: The Structure of an Essay Week 9: Outlining an Essay Week 10: Introductions&Conclusions Week 11: Unity & Coherence Week 12: Footnotes, References & Citations Week 13: Essays for Examinations Week 14: Course Review　Week 15: Final Evaluation

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) Report preparation (30 minutes+)
テキスト、参考文献	'Writing Essays' by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & electronic dictionary or smartphone
評価方法	30% Class work, 40% Homework Reports 30% Final Report

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of paragraph writing with an emphasis on grammatical accuracy and cohesion. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students. To help develop fluency with their writing, students will be asked to write a journal. Each journal page will be approximately one page. Topics will be determined by class discussion and announced in class on a weekly basis. Ten minutes of class time will be set aside for students to exchange their journals and write comments to each other.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 – Brainstorming Week 3: Unit 1 – Expository paragraphs Week 4: Unit 1 – Topic sentences Week 5: Unit 1 – Paragraph format Week 6: Giving feedback and editing writing Week 7: Unit 2 – Analyzing a paragraph Week 8: Unit 2 – Supporting sentences Week 9: Unit 2 – Transitions Week 10: Unit 2 – Conjunctions Week 11: Unit 3 – Using facts and examples Week 12: Revising and editing paragraphs Week 13: Analyze common grammatical errors Week 14: Unit 3 – Direct and indirect speech Week 15: Review & Feedback

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the contents of the textbook covered in each lecture. Students will make weekly entries in their journal which will be read and shared in class.
テキスト、参考文献	Writing from Within 2　Curtis Kelly & Arlen Gargagliano　Cambridge
評価方法	Writing Assignments 50%　Journal Writing 25%　Quizzes 10%　Participation 15%

09 年度以降	Writing Strategies Ⅱ	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ●Students will need an English-English dictionary ●The class will be conducted completely in English.	Week 1: Unit 4 – Avoiding repetition Week 2: Unit 5 – Cause & effect paragraphs Week 3: Unit 5 – Introductory paragraphs Week 4: Unit 5 – Making an outline Week 5: Unit 6 – Using modals Week 6: Unit 6 – Process paragraphs Week 7: Unit 6 – Writing an article Week 8: Unit 6 – Using modifiers Week 9: Unit 7 – Concluding paragraphs Week 10: Unit 7 – Using commas Week 11: Unit 8 – Comparisons-contrasts Week 12: Unit 8 – Giving advice Week 13: Unit 9 – Describing personal goals Week 14: Unit 9 – Persuasive paragraphs Week 15: Review & Feedback

到達目標	「Writing Strategies I 」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the contents of the textbook covered in each lecture. Students will make weekly entries in their journal which will be read and shared in class.
テキスト、参考文献	Writing from Within 2　Curtis Kelly & Arlen Gargagliano　Cambridge
評価方法	Writing Assignments 50%　Journal Writing 25%　Quizzes 10%　Participation 15%

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students a solid understanding of how to write a well-structured paragraph through a variety of academic-style writing tasks. The students will be taught several strategies to generate and organize their writing ideas. Emphasis will be placed on composition, organization, and content of writing, however, some grammar and vocabulary building will also be covered. Overall Objectives 1. To teach how to write a well-structured paragraph. 2. To help students write about their own ideas and experiences. 3. To teach the skills necessary for students to revise their work effectively. 4. To increase student computer literacy skills.	1. Introduction 2. Opinion Paragraph / Recognizing Factors 3. The Topic Sentence 4. Paragraph Overview / Concluding Sentence 5. Revising / Avoiding Overgeneralizations 6. Descriptive Paragraph / Sense Detail 7. Cutting and Adding Detail / Mind Map 8. Concluding Sentences / Since and Because 9. Sentence Variety / Comma Splices 10. Narrative Paragraph / Spider Map 11. Analyzing a Topic Sentence / Present Perfect 12. Concluding a Narrative / Demonstratives 13. Self-evaluation / Punctuation 14. In-class Writing Test 15. Review and Wrap-up

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read text and handouts assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (brainstorming, writing drafts, doing exercises, etc.).
テキスト、参考文献	Pavlic & Segal, Interaction 2 Writing, Silver Edition. McGraw Hill
評価方法	Assignments – 60%　Test – 20%　In-class Participation – 20%

09 年度以降	Writing Startegies Ⅱ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to give students an understanding of how to write more complex compositions. Students will move from writing one-paragraph compositions to complete essays through a gradual step-by-step process. As before, emphasis will be placed on composition, organization, and content of writing, however, some grammar and vocabulary building will also be covered. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of short essay organization. 2. To make the students more aware of the editing process through peer-review. 3. To teach the skills necessary for students to revise their work effectively. 4. To increase student computer literacy skills.	1. Introduction / Narrative Essay (Anecdotes) 2. Topic and Introduction Sentence / Timeline Organizer 3. Using Two Paragraphs / Past Perfect 4. Identifying Omissions / Identifying Digressions 5. Argument Essay / Parts of an Argument 6. Making Arguments – Reasons and Supporting Detail 7. Organization an Argument / Editing for Grammar 8. Compare and Contrast Essay / Choose a Topic 9. Venn Diagrams / Introductory Paragraph 10. Concluding Paragraph / Comparatives 11. Revising / Peer Evaluation 12. Narrative Essay (Interview) / Prepare for Interview 13. Conducting the Interview / Organizing 14. In-class Writing Test 15. Review and Wrap-up

到達目標	「Writing Strategies Ⅰ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (brainstorming, writing drafts, doing exercises, etc.).
テキスト、参考文献	Pavlic & Segal, Interaction 2 Writing, Silver Edition. McGraw Hill
評価方法	Assignments – 60%　Test – 20%　In-class Participation – 20%

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The course will have as its foundation a set textbook. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. Additionally, we will look at a number of TED Talks, which will serve as a platform for discussion & presentation. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.	Week 1: Course introduction Week 2: If only: The Way Things Should Be Week 3: If only: The Way Things Should Be Week 4: Travel: Making my Way in the World Week 5: Travel: Making my Way in the World Week 6: Life's Choices: Discussion Week 7: Life's Choices: Discussion Week 8: A Look into the Future: Views Week 9: A Look into the Future: Views Week 10: Preparation for Presentations Week 11: Graded Presentations Week 12: Graded Presentations Week 13: Graded Presentations Week 14: Course Review Week 15: Final Class: Summations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare in advance the assigned topics, read all material, and prepare for class discussions and presentations. Students need to review all material covered in class.
テキスト、参考文献	Course text will be introduced during the first lesson.
評価方法	Grades are based on class in-class performance 25%, presentations 50%, and quizzes 25%.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.	Week 1: Course Introduction Week 2: Environmental Issues Week 3: Environmental Issues Week 4 Cultural Issues in Japan Week 5: Cultural Issues in Japan Week 6: Cultural Issues outside of Japan Week 7: Cultural Issues outside of Japan Week 8: Food Issues around the World Week 9: Food Issues around the World Week 10: Making a Japan a better Place to Live Week 11: Making a Japan a better Place to Live Week 12: Student Presentations Week 13: Student Presentations Week 14: Student Presentations and Review Week 15: Summations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare in advance the assigned topics, read all material, and prepare for class discussions and presentations. Students need to review all material covered in class.
テキスト、参考文献	Course text will be introduced during the first lesson.
評価方法	Grades are based on class in-class performance 25%, presentations 50%, and quizzes 25%.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ （金２）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Destinations 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations(30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ （金２）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2. Imagination, dreams, and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations (30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	Ｂ．Ｓ．ハウエル

講義目的、講義概要	授業計画
In this class students will develop the range of English language skills by applying practical communication strategies to help build on linguistic skills learned in high school. The aim of the class is to give students maximum opportunity to communicate; to build confidence in interpersonal communication; and to develop the basic study skills successfully to carry out their four years of study at this institution.	Week 1: Introduction, outline, course requirements. Week 2: Human Planet Part One Week 3: Human Planet Part Two Week 4: The Media Part One Week 5: The Media Part Two Week 6: Mid-term presentations Week 7: Natural World Part One Week 8: Natural World Part One Week 9: Society and Family Week 10: Society and Family Week 11: Science Week 12: Science Week 13: People Week 14: Final Presentations Part One Week 15: Final Presentations Part Two

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should spend at least 30-45 minutes on exercises given by the teacher. Students will also keep a regular journal to be discussed in class as well as listen to English in various media freely available on the Internet.
テキスト、参考文献	*New Language Leader Pre-Intermediate Coursebook* by Ian Lebeau and Gareth Rees, Oxford University Press.
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness. 30% homework assignments, in-class points, notebooks. 40% mid-term and final presentations.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	Ｂ．Ｓ．ハウエル

講義目的、講義概要	授業計画
In this class students will learn how to improve their English language communication skills by learning the organisational skills necessary to become a competent speaker and writer. The aim of the class is to help students develop the organisation skills of speech communication and writing; to give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills; and to build student confidence in speech communication as well as a larger group context.	Week 1: The Night Week 2: The Night Week 3: Work and Industry Week 4: Work and Industry Week 5: Global Affairs Week 6: Global Affairs Week 7: Mid-term presentation Week 8: The environment Week 9: The environment Week 10: Health Week 11: Health Week 12: Sport Week 13: Sport Week 14: Final Presentations Part One. Week 15: Final Presentations Part One.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students should spend at least 30-45 minutes on exercises given by the teacher. Students will also keep a regular journal to be discussed in class as well as listen to English in various media freely available on the Internet.
テキスト、参考文献	*New Language Leader Intermediate* by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent (Pearson Longman
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness. 30% homework assignments, in-class points, notebooks. 40% mid-term and final presentations.

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3.To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. Lessons will include practice understanding authentic spoken English, plus topic-based guided Pair and Group and group discussion, and journal writing.	Week 1 ：Course introduction and requirements Week 2 ：Interview and introduce another student. Week 3 ：Families Week 4 ：Best friends Week 5 ：House and Home Week 6 ：Time Week 7 ：School Week 8 ：Numbers Week 9 ：Money Week 10 ：Transportation Week 11 ：Books, magazines, internet, news Week 12 ：Fears Week 13 ：Beliefs Week 14 ：Opinions Week 15 ：Review, Feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be asked to keep a weekly journal
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the teacher.
評価方法	Assessment will be based on class participation 40%, short quizzes 30%, and Journal keeping 30%.

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context.	Week 1 & 2 ：course introduction, Public-Speaking basics, self-introduction speech. Week 3 & 4 ：Interview and introduce another person Week 5 & 6 ：Demonstration - teach how to do something Week 7 & 8 ：Layout speech - describing shape and location Week 9 & 10 ：Book or movie review, telling and evaluating a story Week 11 & 12 ：Show and tell - presenting and explaining data Week 13 & 14 ：Presenting and accepting an award Week 15 ：Review, Feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have homework preparing, and practicing presentations, also reviewing others' performances
テキスト、参考文献	"Getting Ready for Speech", LeBeau and Harrington, published by Language Solutions Inc. ISBN 1-929274-45-9
評価方法	Students will be continuously assessed. Assessment will be based on work done in class preparing and delivering a number of short speeches.

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	Week 1 Course introductions / foreign countries 2 Foreign countries 2 3 Education 1 4 Education 2 5 Health 1 6 Health 2 7 Technology 1 8 Technology 2 9 Intelligence & Talents 1 1 0 Poster presentation 1 1 Intelligence & Talents 2 1 2 Arts 1 1 3 Arts 2 1 4 Test topics / time / format explained / movies 1 1 5 Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre or post class study, when required, will be explained to students by the instructor.
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1 Tourism 1 2 Tourism 2 3 Japanese social issues 1 4 Japanese social issues 2 5 Work & money 1 6 Work & money 2 7 Media issues 1 8 Media issues 2 9 Global living trends 1 1 0 Global living trends 2 1 1 Poster presentation 1 2 Crime 1 1 3 Crime 2 1 4 Test groups, times , topics explained/ environment 1 1 5 Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre or post class study, when required, will be explained to students by the instructor.
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of course test

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has three overall objectives to give students maximum opportunities to communicate to build students' confidence in interpersonal communication to develop basic study skills needed for English-language courses at university level.	1 Course orientation & overview 2 Communication Skill 1 [CS 1]: first impressions 3 CS 2: cultural & communicative awareness 4 CS 3: ice-breakers 5 CS 4: asking questions 6 CS 5: responding 7 CS 6: active listening 8 Communication skills review 9 Introduction to Extensive Reading & Listening 10 About Time 11 About Time 12 SS 3: group project preparation 13 Group project presentation practice 14 Presentations 15 Course review & evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - extensive reading & writing activies (30-60mins) After - review previous week's class (20 mins)
テキスト、参考文献	About Time, Scholastic Notting Hill, Pearson
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attentiveness & attitude 50% (2) assignments 25% (3) review quizzes 25%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	D．ベイカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has three overall objectives to give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills to build students' organizational skills in writing for public-speaking to develop students' confidence in speech communication from small to larger groups.	1 Overview of the creative process 2 Choosing your topic 3 Researching 4 Rule of three：Number five 5 Outlining 6 Drafting 7 Editing 8 Practicing 9 Presentations 10 Presentations 11 Presentations 12 Love Actually 13 Love Actually 14 Love Actually 15 Presentations & feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60 mins) After - review previous week's class (20 mins)
テキスト、参考文献	*Love Actually*, Pearson
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attentiveness & attitude 50% (2) assignments 25% (3) presentation 25%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅰ （月３）	担当者	Ｋ．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Destinations 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations (30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ （月３）	担当者	Ｋ．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2. Imagination, dreams, and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), presentations (30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This course will encourage students to: communicate a LOT, in natural, spoken, Modern English; build confidence in natural interpersonal communication in English; and develop basic study skills that are necessary to study and learn English at a four-year university.	(* Note: This is a ***tentative*** weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions. Note-taking exercises. Asking *student suggestions for* **INTERNATIONAL** *topics/themes which they would like to learn & study*. Replies to the question, "How's it going?" Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment. Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with note-taking, & discussion therof. Week 5: Student hobbies, and expaining thereof, in Modern English. Pair practice. Continuous assessment. Mother's Day song and/or discussion. Week 6: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Note-taking in English. Ongoing student assessment. Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic etiquette and manners ('EQ'): asking and replying, politely. Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment. Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of ⋯ do you like?': explaining preferences, in Modern English. Pair practice. Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listenining exercise. Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos: stating your opinions clearly, in English. Presentations. Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise. Week 13: Final presentations. 'What do you think of ⋯⋯?': Giving your opinions about various topics. Week 14: Giving opinions, part two: *elaborating*. Final presentations. Ongoing assessment. Week 15: Final presentations. If time remains: discussing & explaining future plans for the Summer.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. ***IF*** a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for any reason.**

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
This course will encourage students to: communicate a LOT, in natural, spoken, Modern English; build confidence in natural interpersonal communication in English; and develop basic study skills that are necessary to study and learn English at a four-year university.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English. Week 2: Asking and giving train directions, in English. Continuous assessments. Week 3: Start of researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video. Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone; and how to politely decline invitations. Week 5: Practice with polite telephone inviations. Hallowe'en discussion, and/or video. Week 6: Restaurant ordering, in English, at a sit-down restaurant. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion. Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'. Week 8: Thanksgiving: history; and usual Thanksgiving customs & dates. 'What are you thankful for?' Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations. Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations. Week 10: Asking for, and giving, street directions, in English. Pair practice of that. Student presentations begin. Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video. Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations. Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations. Week 14: Discussing & pair-practicing 'prognosticating' [predicting future News stories] for 2018. Last opportunity for class presentations. Week 15: English discussion of a current topic of interest. *If* time remains: discussion of your future plans (for the February & March Break).

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. ***IF*** a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***summarize & present*** your topic; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be *tentatively* & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes,*** **for any reason.**

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution	Week 1－Teacher and Student Interviews and Introductions Week 2－UNIT 1 One Laptop Per Child - Part One Week 3－UNIT 1 One Laptop Per Child - Part Two Week 4－UNIT 2 Green Profits - Part One Week 5－UNIT 2 Green Profit - Part Two Week 6－UNIT 3 Well-loved Profits - Part One Week 7－UNIT 3 Well-loved Profits - Part Two Week 8－Midterm Evaluations Week 9－UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part One Week 10－UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part Two Week 11－UNIT 5 Viral Marketing - Part One Week 12－UNIT 5 Viral Marketing - Part Two Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations (Subject to change due to circumstances)

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Reading Pass (2)
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation Daily classroom participation and special group projects

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context	Week 1－Teacher and student reviews of first term activities Week 2－UNIT 6－The NBA goes Global - Part One Week 3－UNIT 6－The NBA goes global - Part Two Week 4－UNIT 7－The Gossip Media - Part One Week 5－UNIT 7－The Gossip Media - Part Two Week 6－UNIT 8－Replanting the World's Forests-(1) Week 7－UNIT 8－Replanting the World's Forest-(2) Week 8－Midterm Evaluations Week 9－UNIT 9－Adventure Tourism - Part One Week 10－UNIT 9－Adventure Tourism - Part Two Week 11－UNIT 10－The Cannes Film Festival-(1) Week 12－UNIT 10－The Cannes Film Festival-(2) Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations (Subject to change due to circumstances)

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Reading Pass (2)
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students become comfortable participating in English discussions in front of others. Students will discuss topics from the text and then extend these topics to situations in their own lives. Students will be required to regularly present in front of the class in pairs or in groups. Overall Objectives 1. To improve student reading comprehension. 2. To increase student public speaking skills. 3. To improve student ability to work in groups. 4. To give students the opportunity to use English to express their ideas on familiar topics.	1. Introduction – Speaking in Front of Others 2. Cultural Taboos / Discussing Opinions in Pairs 3. Choosing a Topic / Supporting Opinions with Reasons 4. Pair Discussion Presentations 5. Personal Values / Discussing what is Important 6. Agreeing with Others / Tone of Voice 7. Group Discussion Presentations 8. Self-improvement / Making Suggestions 9. Disagreeing with Suggestions / Eye Contact 10. Group Presentations 11. Technology Issues / Simple Debates 12. Model Debate / Researching Evidence 13. Debate Workshop 14. Group Debate Presentations 15. Review and Wrap-up

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (prepare for discussions, do research, etc.)
テキスト、参考文献	Day, Shaules, Yamanaka*, Impact Issues 1.* Pearson Longman
評価方法	Quizzes – 10%　Discussions – 60%　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to help students become comfortable and confident with giving presentations in English. Students will choose their own topics based on the text and present individually or in groups using a variety of presentation styles. Again, students will be required to regularly speak in front of the class. Overall Objectives 1. To teach students how to give speeches in a variety of presentation styles. 2. To further develop student public speaking skills. 3. To provide opportunities for students to work together using English to complete tasks. 4. To increase student confidence in their ability to give meaningful speeches in front of others in English.	1. Introduction / Personal Interests 2. Short Individual Presentation 3. Favorite Possessions / Descriptive Presentation 4. Choosing a Topic / Preparing Visual Aids 5. Writing an Attention Getter / Posture 6. Individual Presentations 7. Accomplishments / Presenting an Interview 8. Conducting Interviews / Follow-up Questions 9. Organizing a Presentation / Transitions 10. Individual Presentations 11. Life Choices / Presenting the Pro's and Con's 12. Choosing a Topic / Brainstorming 13. Ending with a Recommendation / Group Feedback 14. Group Presentations 15. Review and Wrap-up

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (prepare presentations, do research, etc.)
テキスト、参考文献	Day, Shaules, Yamanaka*, Impact Issues 1.* Pearson Longman
評価方法	Quizzes – 10%　Discussions – 60%　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class which teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve the student's individual English competency and fluency. The class activities focus reading, speaking, discussion, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5, reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class which teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve the student's individual English competency and fluency. The class activities focus reading, speaking, discussion, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5, reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' English reading comprehension and oral communication skills. Primarily, this will be achieved through structured group discussions. The students will be required to do all assigned readings, prepare topics, and actively participate in group discussions. Also, quizzes will be given throughout the course to help assess student comprehension. Overall Objectives 1. To improve student reading comprehension and increase vocabulary. 2. To teach students how to participate effectively in group discussions as both a leader and a group member. 3. To give students the opportunity to use English to express their ideas on a wide variety of topics.	1. Introduction – Discussion Procedure 2. Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors 3. Choosing a Topic / Discussion Steps 4. Role of the Discussion Leader and Group Members 5. Practice Presentations and Peer Feedback 6. Discussion Presentations 7. Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps 8. Agreeing and Disagreeing with Opinions 9. Practice Presentations and Peer Feedback 10. Discussion Presentations 11. Environment: Problem Solving / Discussion Steps 12. Identifying Causes and Solutions 13. Practice Discussions and Peer Feedback 14. Discussion Presentations 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト、参考文献	No text: The material will be provided by the teacher.
評価方法	Quizzes – 10%　　Discussions – 60%　　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' English communication skills, particularly oral communication. Students will need to work together using English to complete a variety of team based projects, including a presentation, debate, and student led discussion. Topics to be discussed, presented, and debated will be student generated to increase engagement and student responsibility. Overall Objectives 1. To give students the opportunity to generate their own topics and presentation ideas to increase student responsibility and engagement. 2. To teach the skills necessary to participate in a class discussion and debate. 3. To have students work together to complete tasks using English.	1. Introduction 2. Current Events: Discussions / Choosing a Topic 3. Summarizing an Article / Open-ended Questions 4. Practice Presentations 5. In-class Student Led Discussions 6. Informative Presentation / Choosing a Topic 7. Organizing a Presentation 8. Using PowerPoint 9. Presentation Workshop / Speaking Tips 10. In-class Presentation 11. Policy Debate / Choosing Propositions 12. Making Logical Arguments / Supporting Evidence 13. Opening Speeches / Rebuttals / Model Debate 14. In-class Debates 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト、参考文献	No text: The material will be provided by the teacher.
評価方法	Presentations and Discussions – 70%　　In-class Participation – 30%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is topic-based We study 1 topic over 2 weeks Students talk together in groups of 2 Objectives: Improve fluency, TOEFL / TOEIC vocabulary, listening, social skills There is one poster presentation, and one speaking test per semester	Week 1 Course introductions + foreign countries 2 Foreign countries 2 3 Education1 4 Education 2 5 Health 1 6 Health 2 7 Arts 1 8 Arts 2 9 Poster presentation 10 Technology 1 11 Technology 2 12 Intelligence & Talents 1 13 Intelligence & Talents 2 14 test topics, times format explained / movies 1 15 test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre or post class study, when required, will be explained to students by the instructor.
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
Objectives are the same as semester 1 Topics, vocabulary, and poster presentation are more challenging than semester 1	Week 1 Tourism 1 2 Tourism 2 3 Work / money issues 1 4 Work / money issues 2 5 Media issues 1 6 Media issues 2 7 Rights 1 8 Rights 2 9 Global living trends 1 10 Global living trends 2 11 Poster presentation 12 Crime 1 13 Crime 2 14 Test topics , times explained / ecology 1 15 Test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre or post class study, when required, will be explained to students by the instructor.
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of course test

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class which teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve the student's individual English competency and fluency. The class activities focus reading, speaking, discussion, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5, reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class which teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve the student's individual English competency and fluency. The class activities focus reading, speaking, discussion, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5, reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to develop students' listening skills by exposing them to authentic scripts of interviews and news documentaries. Students will be provided ample opportunities to discuss the various listening materials and thereby develop their oral fluency.	Week 1: Course Introduction Week 2: Personality types Week 3: Saving money Week 4: Urban life vs rural life Week 5: Advertising Week 6: Being a better parent Week 7: News sources – fake news Week 8: The work obsession Week 9: Group presentations Week 10: Group presentations & vocabulary quiz Week 11: Group presentations Week 12: Group presentations Week 13:Group presentations Week 14: Listening test Week 15: Review & Feedback

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the vocabulary learned at each class. Students will do weekly independent listening from sites provided by the instructor.
テキスト、参考文献	None. Materials will be provided by the instructor.
評価方法	Discussion leader 25% Listening reports 25% Tests 30% Participation 20%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ●Students will need an English-English dictionary ●The class will be conducted completely in English. ●Students are expected to use only English in class	Week 1: Introduce presentation topics and form groups Week 2: Researching topics Week 3: Making a presentation outline Week 4: Using visual aids Week 5: Presentation practice Week 6: Group presentations & discussions Week 7: Group presentations & discussions Week 8: Group presentations & discussions Week 9: Group presentations & discussions Week 10: Article & discussion – suicide in Japan Week 11: Video – suicide in Japan Week 12: Airport security Week 13: Judging people by physical characteristics Week 14: Test Week 15: Review & Feedback

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will review vocabulary and submit reports from their self-study listening sites. Research, organize, write, prepare and practice a presentation.
テキスト、参考文献	None. Materials will be provided by the instructor.
評価方法	Group presentation 30% Report 20% Listening test 30% Participation 20%

09 年度以降	E-learning Ⅰ	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、①ALC、CentralEnglish、Dokkyo Linguaporta などの Web 教材の自律学習を通じて英語力を高めてもらうため、Web 教材の効果的な使い方の情報交換をすること、②毎週 ALC や EnglishCentral などについての進度チェックのクイズや小テストを実施して学修モチベーションの維持を図ることで、毎日 30 分の授業外学修を習慣にすることです。 なお、最初の授業で Web 教材使用方法のオリエンテーションを実施するので、必ず出席してください。それ以降は、ほぼ毎回の ALC の語彙テストと英語についての話と、時間が許せばペアワークによる EnglishCentral のモノローグや会話の練習、そしてクイズを行います。 卒業するまでに、最低、TOEIC®850 点を取得できるよう、教室外でもしっかり練習しましょう。	1. Web 教材のオリエンテーション 2. EnglishCentral 練習紹介 3. テスト 1：ALC 4. テスト 2：ALC　クイズ 1 ：EnglishCentral 5. テスト 3：ALC 6. テスト 4：ALC　クイズ 2：EnglishCentral 7. テスト 5：ALC 8. テスト 6：ALC　クイズ 3：EnglishCentral 9. テスト 7：ALC 10. テスト 8：ALC　クイズ 4：EnglishCentral 11. テスト 9：ALC 12. テスト 10：ALC　クイズ 5：EnglishCentral 13. テスト 11：ALC 14. テスト 12：ALC　クイズ 6：EnglishCentral 15. テスト 13：ALC　クイズ 7：EnglishCentral

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分学習することを習慣づけて、毎週 180 分以上の事前、事後学習により 授業内小テストとクイズの準備に備える
テキスト、参考文献	Web 教材：ALC NetAcademy, EnglishCentral, (optional: Dokkyo Linguaporta)
評価方法	13 回の小テスト(50%)と 6 回のクイズ(50%)により評価するが、追加選択教材学習者については、その学習結果も加味して、総合的に評価する。

09 年度以降	E-learning Ⅱ	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
ことばを使う表現主体と文法とはけして無関係ではないという立場から、話し手を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに捉え、いかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的動機付けの仕組がわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言えてもこうは言えないのか」という説明ができるようになるということである。 そうなると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなくなり、「なるほど？」と納得しながら学ぶものであることがわかり、例えば現在完了形と過去形の使い分け、冠詞aとtheの使い分け、はだか名詞とaや-sが付いた名詞の違い、あるいはI'm standing on/in the street.の意味の違いがわかるようになる。	1. Web 教材のオリエンテーション 2. Dokkyo Linguaporta 練習紹介 3. テスト 1：ALC 4. テスト 2：ALC　クイズ 1 ：EnglishCentral 5. テスト 3：ALC 6. テスト 4：ALC　クイズ 2：EnglishCentral 7. テスト 5：ALC 8. テスト 6：ALC　クイズ 3：EnglishCentral 9. テスト 7：ALC 10. テスト 8：ALC　クイズ 4：EnglishCentral 11. テスト 9：ALC 12. テスト 10：ALC　クイズ 5：EnglishCentral 13. テスト 11：ALC 14. テスト 12：ALC　クイズ 6：EnglishCentral 15. テスト 13：ALC　クイズ 7：EnglishCentral

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分学習することを習慣づけて、毎週 180 分以上の事前、事後学習により 授業内小テストとクイズの準備に備える
テキスト、参考文献	Web 教材：ALC NetAcademy, EnglishCentral, Dokkyo Linguaporta
評価方法	13 回の小テスト(50%)と 6 回のクイズ(50%)により評価するが、追加選択教材学習者については、その学習結果も加味して、総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （Cool Japan: 1900-1960）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1.If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4.NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course Introduction 2. Japan in the World (Exhibitions) 3. Meiji: to be or not to be (Japanese) 4. Moga 5. Modern Tokaido [Reserch Paper Topic Due] 6. Issei, Nisei, Sansei [RP Outline Due] 7. Nippon (magazine) 8. Department Store Miracle [RP Introduction Due] 9. Chiune Sugihara [RP Body Paragraph I Due] 10. Shashin Shuho [RP Body Paragraph II Due] 11. Transport: rush to the city [RP Body Paragraph III Due] 12. Made in Japan [RP Conclusion Due] 13. Protest or Compliance [Research Paper Final Due] 14. Final Exam 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

09 年度以降	英語専門講読 II （Cool Japan: 1960-2016）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work Attendance Policy: 1.If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence. 2. Turn off your cell phones in class. 3. Report your absence in advance whenever possible. 4.NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).	1. Course introduction 2. Made in Japan and admired 3. The Bubble 4. Western Japan - Eastern Japan 5. Japanese in the world [Research Paper Topic Due] 6. The world in Japan [RP Outline] 7. Images of Japan 8. Manga [RP Introduction Due] 9. J-pop [RP Body Paragraph I Due] 10. 21st century Japonism [RP Body Paragraph II Due] 11. Ryugaku [RP Body Paragraph III Due] 12. Japan First [RP Conclusion Due] 13. Final Exam [Research Paper Final Due] 14. Review I 15. Review II

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, ,(5) Use MyDOC to receive notices from me
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)

09 年度以降	英語専門講読 I （生成文法理論と英語統語論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 世界的に著名な言語学者Noam Chomskyの名著『言語の知識（*Knowledge of Language*）』の核心部分を精読し，Chomsky理論の真髄を理解するとともに，英語の読解力を向上させることを目的とする. **講義概要**: Chomskyは本書で「プラトンの問題」すなわち人間の子供がどのようにして不十分な状況の下でいとも簡単に母語を完璧に獲得できるかという問題の解決を試みている. この授業では，多くの例文を用いて論じている“Chapter 3. Facing Plato's Problem.”（「プラトンの問題に取り組む」）を取り上げる. 春学期には「第3.3節 規則体系の種類を制限する」を読み，変形部門，句構造部門，普遍文法の一般的原理，語彙目録の特徴などを学ぶ.	**Week** 1-2. プラトンの問題とは何か（What is Plato's problem?） 3-4. 規則体系（Rule Systems） 5. 規則体系の制限（Restricting the variety of rule systems） 6-7. 変形部門（The Transformational Component） 8. 普遍文法（Universal Grammar）の一般的原理《中間試験》 9. 投射原理（The Projection Principle） 10. 空範疇（Empty Categories） 11. 語彙目録の諸特徴（Some Properties of the Lexicon） 12. 範疇選択・意味選択（c-selection & s-selection） 13-14. 主題基準・格フィルター（Θ-Criterion & Case Filter） 15. 完全解釈原理（Full Interpretation Principle）《期末試験》

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること. 授業開始前に，鈴木英一（1990）『統語論』8章「生成統語論概説」（pp.318-71）を読むことを勧めます. なお，授業の最初に生成文法理論の概要を説明します.
テキスト、参考文献	テキスト：Noam Chomsky (1986) *Knowledge of Language*. Chapter 3. Facing Plato's Problem. 参考文献：鈴木英一（1990）『統語論』8章「生成統語論概説」
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表（10%）と中間試験（45%）と期末試験（45%）に基づいて評価する.

09 年度以降	英語専門講読 II （生成文法理論と英語統語論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 世界的に著名な言語学者Noam Chomskyの名著『言語の知識（*Knowledge of Language*）』の核心部分を精読し，Chomsky理論の真髄を理解するとともに，英語の読解力を向上させることを目的とする. **講義概要**: Chomskyは本書で「プラトンの問題」すなわち人間の子供がどのようにして不十分な状況の下でいとも簡単に母語を完璧に獲得できるかという問題の解決を試みている. この授業では，多くの例文を用いて論じている“Chapter 3. Facing Plato's Problem.”（「プラトンの問題に取り組む」）を取り上げる. 秋学期では「第3.4節 原理・媒介変数理論における説明」を読み，認可原理，主要部媒介変数，空範疇PRO，語彙情報と一般原理との関係などを学ぶ.	**Week** 1-2. 生成文法の枠組み（Framework of Generative Grammar） 3-4. 空範疇 PRO（Empty Category PRO） 5-6. 束縛理論と指定主語条件（Binding Theory & SSC） 7-8. Tough 構文（*Tough*-Construction）《中間試験》 9. PRO と空演算子（PRO & Empty Operator） 10-12. 寄生的空所構文（The Projection Principle） 13-14. 空所と目的構文（Gap & Purposive Construction） 15. まとめ－認可原理と語彙情報《期末試験》

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること. 必要に応じて，Chomsky（1975）『言語論－人間科学的省察（Reflections on Language）』（大修館書店）や Chomsky（1995）『ミニマリスト・プログラム』（翔泳社）を参照すること.
テキスト、参考文献	テキスト：Noam Chomsky (1986) *Knowledge of Language*. Chapter 3. Facing Plato's Problem. 参考文献：Chomsky（1975）『言語論－人間科学的省察』, Chomsky（1995）『ミニマリスト・プログラム』
評価方法	出席は単位認定の前提とし，授業での発表（10%）と中間試験（45%）と期末試験（45%）に基づいて評価する.

09 年度以降	英語専門講読 I （Immigration, Social Change & Education）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This class will explore immigration as it relates to labor migration, immigration, and transnationalism. During the spring term the course looks at the history of human migration across the globe. The course then distinguishes between terms related to immigration and develops an understanding of the various types of immigration, by considering the political, social, cultural, global and environmental forces that drive people to leave their home countries and make a home for themselves in foreign lands. Lastly, the course will look at a particular case of a so-called immigrant nation: America, and consider the history, policies and paths that led to the growth of this multicultural nation.	Week 1 –Introduction to Course & Terms Week 2 – Humans on the Move Week 3 –Type of Immigration/Migration Week 4 – Reasons for Leaving Week 5 – Busting the Myths of Immigration Week 6 – Mid-Term Presentations (Policy Case Study) Week 7 – Mid-Term Presentations (Policy Case Study) Week 8 – Nationalism & Immigration Week 9 – Us vs. Them Week 10 – Immigration & America Week 11 – Immigration & America (cont'd) Week 12 – Global Forces & Shifting Views of Immigrants Week 13 – Diasporas Around the World Week 14 – Final Poster Presentation Week 15 – Final Poster Presentation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided
評価方法	In-class participation & homework (40%), Article summary x 2 (20%), Mid-Term Presentation (20%), Final Poster Presentation (20%)

09 年度以降	英語専門講読 II （Immigration, Social Change & Education）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
In the second term of this course the focus shifts to specifically consider how immigration and immigrants cause economic, political, social and cultural shifts, within the receiving nation. Specifically, the fall term will look at how immigrants, and their descendants, and will consider policies related to: assimilation/incorporation, education, language and bilingualism. Additionally, the course will consider shifting racial and ethnic identities and the questions that are raised with regard to nationhood and civic participation and the tensions that arise with an influx of immigrants and migrants into the receiving nation.	Week 1 – Introduction to Fall Course Week 2 – Who is an Immigrant? Week 3 –1st, 1.5 and 2nd Generations Week 4 –Immigration Stories Week 5 – A refugees journey Week 6 – Mid-Term Paper/Presentation Week 7 – Education, Immigration & Social Disparity Week 8 – Education, Immigration Week 9 – Education, Immigration (cont'd) Week 10 – The Case of Japan Week 11 – The Case of Japan Week 12 – Over Stayers (film) Week 13 – Over Stayers (discussion) Week 14 – Final Presentations Week 15 – Final Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided
評価方法	In-class participation & homework (40%), Midterm Paper/presentation (20%), Case Study Packet & small group presentation (20%), Final Presentation & paper (20%)

09 年度以降	英語専門講読 I （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates. All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the teacher training program.	1. Introduction 2. Reflecting on your own language learning 3. Myth 1: Language learning and age 4. Presentation and discussion 5. Presentation and discussion 6. Myth 2: Bilingualism 7. Presentation and discussion 8. Presentation and discussion 9. Myth 3: Input, output, and interaction 10. Presentation and discussion 11. Presentation and discussion 12. Myth 4: Attention and noticing 13. Presentation and discussion 14. Presentation and discussion 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	reading assignments, preparation for presentations, reading journals
テキスト、参考文献	*Second Language Acquisition Myths* S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)

09 年度以降	英語専門講読 II （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates. All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the teacher training program.	1. Introduction 2. Reviewing myths 1 to 4 3. Myth 5: Explicit and implicit learning 4. Presentation and discussion 5. Presentation and discussion 6. Myth 6: Correction and recasts 7. Presentation and discussion 8. Presentation and discussion 9. Myth 7: Individual differences 10. Presentation and discussion 11. Presentation and discussion 12. Myth 8: Social approaches 13. Presentation and discussion 14. Presentation and discussion 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	reading assignments, preparation for presentations, reading journals
テキスト、参考文献	*Second Language Acquisition Myths* S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)

09 年度以降	英語専門講読 I （ポストモダン文化とは何か）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
「ポストモダン」という文化概念を多角的・複眼的に理解することで、現代文化の様々な事象に含意されていることを読み解くことを試みます。授業は受講生のファシリテーションを部分的に取り入れながら進めます。また、各回のテーマに合わせたミニ課題も出されます。 ※春学期 (I) のみの開講となります。この続き (II) は2018年度の秋学期に開講される予定です。	1. Overview; Group formation 2. Warm-up exercise; Approaches to college-level readings 3. Mini-Lecture on “Postmodernism: A Preface” 4. Modernity — An Incomplete Project 5. Towards a Critical Regionalism 6. Sculpture in the Expanded Field: Six Points … 7. Quiz (1); Presentation (1) 8. On the Museum’s Ruins 9. The Discourse of Others: Feminists & Postmodernism 10. The Object of Post-Criticism 11. Quiz (2); Presentation (2) 12. Postmodernism and Consumer Society 13. The Ecstasy of Communication 14. Opponents, Audiences, Constituencies & Community 15. Quiz (3); Presentation (3)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。
テキスト、参考文献	Hal Foster, *Postmodern Culture* (Pluto Classic)
評価方法	発表・発言：40%（理由にかかわらず欠席５回で学期成績が F となります。）、クイズ：60%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	英語専門講読 I （芝居の台本を読んで観る）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、vocabulary を build up する。 生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで 60%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。

09 年度以降	英語専門講読 II （芝居の台本を読んで観る）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、vocabulary を build up する。 生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1. 導入とテキスト精読 2. テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. テキスト精読 11. テキスト精読 12. テキスト精読 13. テキスト精読 14. テキスト精読 15. テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで 60%、観劇レポート（500～600 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。

09 年度以降	英語専門講読 I （ナーサリー・ライムズを読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. As I was Going to Saint Ives 他 3. Frère Jaques 他 4. Here We Go Around the Mulberry Bush 他 5. Hickory Dickory Dock 他 6. Hot Cross Buns 他 7. Humpty Dumpty 他 8. Jack and Jill 他 9. Jack Sprat 他 10. The Lion and Unicorn 他 11. Little Boy Blue 他 12. Little Miss Muffet 他 13. London Bridge Is Falling Down 他 14. Mary had a Little Lamb 他 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約してくること。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。
テキスト、参考文献	テキスト: Albert Jack. Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes. Perigee Trade, 2009
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%

09 年度以降	英語専門講読 II （ナーサリー・ライムズを読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. Old King Cole 他 3. The Owl and the Pussycat 他 4. Pop Goes the Weasel 他 5. Pussy Cat, Pussy Cat 他 6. Rain, Rain, Go Away 他 7. Rock-a-Bye, Baby 他 8. Sing a Song of Sixpence 他 9. Three Blind Mice 他 10. Twinkle, Twinkle, Little Star 他 11. Who Killed Cock Robin? 他 12. God Save the Queen 他 13. The Star-Spangled Banner 他 14. Yankee Doodle Dandy 他 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約してくること。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。
テキスト、参考文献	テキスト: Albert Jack. Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes. Perigee Trade, 2009
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%

09 年度以降	英語専門講読 I （イギリス児童文学）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
*Alice's Adventures in Wonderland*を精読し、言葉遊びやイギリスらしい表現などへの理解を深めることを目的とする。 Aliceの名前は日本でもよく知られているが、翻訳ではわからないナンセンスの面白さを英語で味わうことをこの授業では目指す。またこの児童文学が書かれたヴィクトリア朝の時代背景や、作者Lweis Carroll (Charles Lutwidge Dodgson)についても知識を広げる機会としたい。意味や言葉の使いかただけではなく、音の面白さもこの物語の魅力の一つである。それを経験するために音声教材も授業中には使用する。	1. イントロダクション 2. Chapter I 3. Chapter II 4. Chapter III 5. Chapter IV 6. Chapter V 7. Chapter VI 8. Chapter VII 9. Chapter VIII 10. Chapter IX 11. Chapter X 12. Chapter XI 13. Chapter XII 14. まとめ 15. 課題

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前に毎回、指定された範囲を読んでくること。
テキスト、参考文献	Lewis Carroll, *Alice's Adventures in Wonderland*. (MacMillan Alice) ISBN: 978-1447279990
評価方法	毎回の小テストの結果によって評価する。

09 年度以降	英語専門講読 II （イギリス児童文学）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
J. K. Rowling, *Harry Potter and the Philosopher's Stone* (1997) を読む。 すでに世界的な現象になっているHarry Potterの第 1 作であるが、映画や翻訳で楽しむことと原文で読むことの違いをあらためて確かめてみる。児童文学とはいえ、英語は必ずしも平易というわけではない。イギリスらしい表現や語彙、人物によって異なる口調など、丹念に読むことによって、ストーリー展開を伝える媒介となる「英語」の面白さがわかってくる。 「翻訳ではわからない面白さ」を実感することがこの授業の目標である。毎週、10ページ分ほどを精読してきてもらい、毎回、その範囲について小テストを行う。	1. イントロダクション 2. Chapter 1 3. Chapters 1-2 4. Chapter 2 5. Chapter 3 6. Chapter 4 7. Chapter 5 8. Chapter 5 9. Chapter 6 10. Chapter 6 11. Chapter 7 12. Chapters 7-8 13. Chapter 8 14. まとめ 15. 課題

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前に毎回、指定された範囲を読んでくること。
テキスト、参考文献	J. K. Rowling, *Harry Potter and the Philosopher's Stone*, London: Bloomsbury, 2014. ISBN: 978-1408855652
評価方法	毎回の小テストの結果によって評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （日本社会・文化の再確認）	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・「よき日本人こそ真の世界人」：これは1968年3月27日、第一回卒業式の式辞で天野貞祐学長が言われたことばである。 ・「世界人」という考えに必要なものの一つは＜軸＞である。 ・その軸を作るための第一歩として「日本人の社会的・文化的コミュニケーション行動」の諸側面を知ろう。 ・テキストの前半	１．　序章：概要説明 ２．　講義：コミュニケーション論 ３．　講義：社会・文化を考える ４．　テキスト会読 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　同上 ９．　同上 １０．同上 １１．同上 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．終章：まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：各章のキーワードを探る／事後：配付資料などを再読する。
テキスト、参考文献	*The Japanese Mind*：*Understanding Contemporary Japanese Culture* by **Roger Davis & Osamu Ikeno**, Tuttle, ￥1,700　＊各自で購入すること。
評価方法	グループワーク：15%／学期末個人レポート 35%／各章の内容に関する寸評：50%

09 年度以降	英語専門講読 II （日本社会・文化の再確認）	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・同上 ・テキストの後半	１．　序章：概要説明 ２．　テキスト会読 ３．　同上 ４．　同上 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　同上 ９．　同上 １０．同上 １１．同上 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．終章：まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期に同じ
テキスト、参考文献	春学期に同じ
評価方法	春学期に同じ

09 年度以降	英語専門講読 I （Situating Your Eating Habit in the Social Context）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
食文化について歴史、社会、経済活動、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などさまざまな視点から検討していく。 普段、当たり前に食べているものを意識してみる。食習慣に向き合い、食を通してみえてくる自分や自文化の価値観を社会的な文脈に位置づけてみる。 課題とされたテーマをもとに、各自英語の文献を探して、自分の言葉で要約する。調べる、読む、まとめる、話すすべて英語で行う。	1. ガイダンス 2. 世界の食文化 3. エスニック食とは何か 4. グループプレゼンテーション 1 5. グループプレゼンテーション 2 6. グループプレゼンテーション 3 7. アフリカ系アメリカ人の食文化 1 8. アフリカ系アメリカ人の食文化 2 9. ラティーノの食文化 1 10. ラティーノの食文化 2 11. 映画/音楽のなかの食　1 12. 映画/音楽のなかの食　2 13. お話しのなかの食　1 14. お話しのなかの食　2 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	授業への参加度 20%　グループプレゼンテーション 30%　試験 50%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （Situating your Eating Habit in the Social Context）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も、春学期と同様のトピックを扱うが、さらに深く社会変化とのかかわりから、食について考察する。 食について書かれた英語の学術論文も読んでいく。	1. ガイダンス 2. 世界の食文化 3. エスニック食 4. グループプレゼンテーション 1 5. グループプレゼンテーション 2 6. グループプレゼンテーション 3 7. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 1 8. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 2 9. ラティーノの食文化とシンボリズム 1 10. ラティーノの食文化 とシンボリズム2 11. 映画/音楽のなかの食　1 12. 映画/音楽のなかの食　2 13. お話しのなかの食　1 14. お話しのなかの食　2 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	授業への参加度 20%　グループプレゼンテーション 30%　試験 50%

09 年度以降	英語専門講読 I (A Geek in Japan: Discovering the land…) (Culture)	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
A Geek in Japan: Discovering the Land of Manga, Anime, Zen, and the Tea Ceremony is written by a Spanish researcher who developed a keen interest in Japan and its history, its culture, and its people. This books lets students learn about a foreign person's perspective on Japan. What makes this book appealing for students is the way in the author presents different aspects of Japan whether they are modern or traditional in nature. The aim of this course is to explore Japan through the eyes of a foreign researcher. Class time will be divided between lectures, discussion, and presentations. Students considering the course should have a keen interest in (re)learning about Japan, particularly in comparison to US of A, my country.	Week 1: Introduction Week 2: The Origins of Japanese Culture Week 3: eadem Week 4: Traditional Arts & Disciplines Week 5: eadem Week 6: The Unique Japanese Character Week 7: eadem Week 8: Curiosities & Symbols Week 9: eadem Week 10: The Japanese at Work Week 11: eadem Week 12: Japanese Society & Daily Life Week 13: eadem Week 14: Japan Today Week 15: Summation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, and to consider the topics presented in the previous lesson.
テキスト、参考文献	**A Geek in Japan: Discovering the Land of Manga, Anime, Zen, and the Tea Ceremony** **ISBN-13:** 978-4805311295 **ISBN-10:** 4805311290 by Hector Garcia
評価方法	Grades are based on in-class performance (40%), quizzes (10%) and a final report (50%).

09 年度以降	英語専門講読 II (A Geek in Japan: Discovering the land…) (Culture)	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The same text will be used again this semester. The text for this course is titled: A Geek in Japan: Discovering the Land of Manga, Anime, Zen, and the Tea Ceremony **ISBN-13:** 978-4805311295 **ISBN-10:** 4805311290 by Hector Garcia It is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson. Kindle users keep in mind that there may be issues with pagination. Kindle: ASIN: B008BSJEGO	Week 1: Introduction Week 2: The World of Manga & Anime Week 3: eadem Week 4: Modern Japanese Music Week 5: eadem Week 6: Movies & Television Week 7: eadem Week 8: Visiting Tokyo Week 9: eadem Week 10: Traveling Around Week 11: eadem Week 12: Epilogue Week 13: eadem Week 14: Summation Week 15: Summation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, and to consider the topics presented in the previous lesson.
テキスト、参考文献	**A Geek in Japan: Discovering the Land of Manga, Anime, Zen, and the Tea Ceremony** **ISBN-13:** 978-4805311295 **ISBN-10:** 4805311290 by Hector Garcia
評価方法	Grades are based on in-class performance (40%), quizzes (10%) and a final report (50%).

09 年度以降	英語専門講読 I （戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は注意して欲しい。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、**第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと。**	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト、参考文献	Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.
評価方法	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読 II （戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。 ＊なお、**第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと**	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。
テキスト、参考文献	Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.
評価方法	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト（70%）。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。

09 年度以降	英語専門講読 I （英語教育・SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得（SLA）は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。 この授業ではSLA研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文（一つの論文は十数頁）を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問（Research question(s)）に対する答えを求める際に、実際にデータをとって、数量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては､Research questionの答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究方法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらうことも含めます。	1.　【ガイダンス】実証研究とは何か 2.　実証研究論文の一例（練習用日本語論文） 3.　論文（1-1）：イントロダクション（実証研究体験） 4.　論文（1-2）：内容理解の確認 5.　論文（1-3）：内容理解の確認 6.　論文（1-4）：ディスカッション 7.　論文（2-1）：イントロダクション（実証研究体験） 8.　論文（2-2）：内容理解の確認 9.　論文（2-3）：内容理解の確認 10.　論文（2-4）：ディスカッション 11.　論文（3-1）：イントロダクション（実証研究体験） 12.　論文（3-2）：内容理解の確認 13.　論文（3-3）：内容理解の確認 14.　論文（3-4）：ディスカッション 15.　【まとめ】学期末レポートの課題説明

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙（論文を読み取るポイント）に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト、参考文献	配付資料：日本国内で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文（英文）
評価方法	毎回の授業中での活動（55%）、学期末レポート（45%）

09 年度以降	英語専門講読 II （英語教育・SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様、SLA実証研究論文を講読していきます。秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びます。海外におけるSLA研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。 論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。	1.　【ガイダンス】 2.　論文（1-1）：イントロダクション（実証研究体験） 3.　論文（1-2）：内容理解の確認 4.　論文（1-3）：内容理解の確認 5.　論文（1-4）：内容理解の確認 6.　論文（1-5）：内容理解の確認 7.　論文（1-6）：Summary 8.　論文（1-7）：Discussion 9.　論文（2-1）：イントロダクション（実証研究体験） 10.　論文（2-2）：内容理解の確認 11.　論文（2-3）：内容理解の確認 12.　論文（2-4）：内容理解の確認 13.　論文（2-5）：内容理解の確認 14.　論文（2-6）：Summary 15.　論文（2-7）：Discussion

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙（論文を読み取るポイント）に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト、参考文献	配付資料：海外で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文（英文）
評価方法	毎回の授業中での活動（55%）、学期末レポート（45%）

09 年度以降	英語専門講読 I （The History of Language）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to first to America. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: My America Week 3: My America Week 4: Wild West Words Week 5: Wild West Words Week 6: Sold Down the River Week 7: Sold Down the River Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: Mastering the Language Week 10: Mastering the Language Week 11: The Proper Way to Talk Week 12: The Proper Way to Talk Week 13: Steam, Streets and Slang Week 14: Steam, Streets and Slang Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.
テキスト、参考文献	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre, 2011)
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	英語専門講読 II （The History of Language）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to India, Australia, and elsewhere. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.	Week 1: Introduction Week 2: Indian Takeover Week 3: Indian Takeover Week 4: The West Indies Week 5: The West Indies Week 6: Advance Australia Week 7: Advance Australia Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: Warts and All Week 10: Warts and All Week 11: All Over the World Week 12: All Over the World Week 13: And Now…? Week 14: And Now…? Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.
テキスト、参考文献	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*. (Sceptre, 2011)
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （子供のことば獲得の基礎）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
子供がことばを獲得する際は、耳から聞いたinput順にひとつひとつ覚えて積み重ねていくのだろうか。それとも、生まれながらに持っていることばの種のようなものにinputが刺激となり発芽、成長するのだろうか。 本授業では、子供の母語獲得について、音、文法、意味などの観点からこれまでにわかっている事柄を平易に解説した書籍を読み理解を深め、また、適宜関連する研究論文にも触れてみる。 テキストは平易な英文で読みやすい。毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。	1. Introduction, 1st Lang Acquisition（乳幼児の母語獲得） 2. Ch 2-1 Where are the words? （語彙習得） 3. Ch 2-2 How children find words（音と語の発見） 4. Ch 2-3 Learning inflection（規則と不規則） 5. Ch 3-2 What's the meaning of this?（意味範疇の形成） 6. Ch 3-6 Learning adjectives（形容詞） 7. Ch 6-1 An ear for lang, 6-2 Can you hear that?（音声知覚） 8. Ch 6-3 Babbling, 6-4 Early vowels and consonants（発話） 9. Ch 6-5 Making adjustments（有標性と獲得順序） 10. Supplemental readings（音声知覚の喪失、音韻の獲得） 11. Ch 5-1 What a word can do, 5-2 Two is better than 1（統語） 12. Ch 5-3 Passive Tenses（音の並び≠語の並び） 13. Ch 5-4 Understand things that aren't there（痕跡） 14. Ch 5-5 Understand proNs, Ch 5-6 ProNs & stories（先行詞） 15. Ch 5-7 Can you quantify that? （Every/Someの難しさ）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題をこなし、論点や疑問点をもって授業に臨むことが求められる。
テキスト、参考文献	O'Grady, William. (2005) *How Children Learn Language.* Cambridge University Press.（ISBN: 10: 0521531926） その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）：約 30%、小テスト・まとめ課題/試験：約 70%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	英語専門講読 I （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。 講義概要 　ユダヤ系作家（Bernard Malamud等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。	1.　授業の進め方などについての説明と「質問表」にもとづく討論による体験授業。 2.　前週に配布した質問表による討論。 3-15.　同様な方法で毎週平均ほぼ5から10ページ程度読んでいく予定。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は、次のサイトを参照：The Unofficial Bernard Malamud Home Page http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/malamud/index2.htm
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。 講義概要 　ユダヤ系作家（Bernard Malamud等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。	1.　春学期定期試験問題の返却と講評。春学期と同じく、質問表による討論。 2.　質問表による討論。 3-15.　同様な方法で毎週平均ほぼ5から10ページ程度読んでいく予定。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は、次のサイトを参照：The Unofficial Bernard Malamud Home Page http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/malamud/index2.htm
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読 I （異文化コミュニケーションの基礎）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は，コミュニケーション論分野の基礎的な文献を読み，コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とします． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションです．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図ります．また，学んだことを実践することも求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1.　授業オリエンテーション 2.　文献を「読む」とは何か（訳す≠読む） 3.　プレゼンテーションとは何か（準備と方法） 4.　グループの決定 5.　グループプレゼンテーション（1） 6.　グループプレゼンテーション（2） 7.　グループプレゼンテーション（3） 8.　グループプレゼンテーション（4） 9.　グループプレゼンテーション（5） 10.　グループプレゼンテーション（6） 11.　グループプレゼンテーション（7） 12.　グループプレゼンテーション（8） 13.　グループプレゼンテーション（9） 14.　グループプレゼンテーション（10） 15.　春学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト、参考文献	授業で読む文献はコピーとして配布する．この他，コミュニケーション論，心理学，社会学，統計学に関する辞典・文献．Reading Assignment あり（別途指示）．
評価方法	グループワークの評価（50%），授業への貢献度（20%），学期末レポート（30%）により評価する．

09 年度以降	英語専門講読 II （異文化コミュニケーションの理論）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，春学期の内容を踏まえ，特に「異文化」に焦点を当てながら理論的な文献を読み，その内容を理解することを目的とします．また，特殊講義として，ムスリムの文化を扱う文献を読みます． 授業形式は，3～4人のグループによるプレゼンテーションです．学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して，文献の内容に関する理解の共有を図ります．また，学んだことを実践することも求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．学生諸君の活発な議論を通して，活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください．そして，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりしながら，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1.　秋学期授業の確認と体験発表会 2.　イスラーム・ムスリムの文化（1） 3.　イスラーム・ムスリムの文化（2） 4.　イスラーム・ムスリムの文化（3） 5.　グループプレゼンテーション（1） 6.　グループプレゼンテーション（2） 7.　グループプレゼンテーション（3） 8.　グループプレゼンテーション（4） 9.　グループプレゼンテーション（5） 10.　グループプレゼンテーション（6） 11.　グループプレゼンテーション（7） 12.　グループプレゼンテーション（8） 13.　グループプレゼンテーション（9） 14.　グループプレゼンテーション（10） 15.　秋学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する．プレゼンターは資料等の準備，プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく．学習内容に基づき，日常のコミュニケーション現象を観察・分析する．
テキスト、参考文献	授業で読む文献はコピーとして配布する．この他，コミュニケーション論，心理学，社会学，統計学に関する辞典・文献．
評価方法	グループワークの評価（50%），授業への貢献度（20%），学期末レポート（30%）により評価する．

09 年度以降	英語専門講読 I （アメリカ現代詩）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(This Present Moment, 2015) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席してください。スナイダーについては、http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master を参照。レポートの書き方については、下記を参照。http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. An Introduction 2. Claws / Cause 3. Hai-en Temple South Korea . . . 4. Young David in Florence, Before the Kill 5. Mu Ch'i's Persimmons 6. The Bend in the Vlatava 7. The Shrine at Delphi 8. Wildfire News 9. Otzi Crosses Over 10. Inupiaq Values 11. Seven Brief Poems from Italia 12. Askesis, Praxis, Theôria of the Wild 13. Go Now 14. Gnarly 15. The Earth's Wild Places

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプリゼンの準備をし、資料をメーリングリストで受講者に送る。
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. This Present Moment. Berkeley: Counterpoint, 2015.（ISBN 978-1-61902-738-1） ＊各自 amazon.co.jp などで購入のこと。
評価方法	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしない。

09 年度以降	英語専門講読 II （アメリカ現代詩）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(This Present Moment, 2015) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席してください。スナイダーについては、http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master を参照。レポートの書き方については、下記を参照。http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html	1. Siberian Outpost 2. Walking the Long and Shady Elwha 3. Charles Freer in a Sierra Snowstorm 4. Why I Take Good Care of My Macintosh 5. Artemis and Pan 6. Anger, Cattle, and Achilles 7. A Letter to M.A. Who Lives Far Away 8. The Names of Actaeon's Hounds 9. Old New Mexican Genetics 10. Polyandry 11. Stages of the End of Night and Coming Day 12. Why California Will Never Be Like Tuscany 13. Michael des Tombe at the Edge of the Canyon . . . 14. Chiura Obata's Moon 15. How to Know Birds

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプリゼンの準備をし、資料をメーリングリストで受講者に送る。
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. This Present Moment. Berkeley: Counterpoint, 2015.（ISBN 978-1-61902-738-1） ＊各自 amazon.co.jp などで購入のこと。
評価方法	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしない。

09 年度以降	英語専門講読 I （日英語の再帰形の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語の再帰形は「代名詞＋self」の形をしており、selfだけでは再帰形として使えません。一方、日本語には「代名詞＋自身」の他に、「自分」と「自分自身」という再帰形複合語があり、どれも(1), (2)に見られるように英語の*himself*などと同じように主語を指すことができます。 (1) ジョンは自分/自分自身/彼自身が嫌いだ。 (2) John hates himself. では、(4)の*himself*は目的語*John*を指せますが、(3)の３種類の再帰形はどうでしょうか？ (3) メアリはジョンに自分/自分自身/彼自身の話をした。 (4) Mary told John a story about himself. 同一指示が義務的な表現はどの言語にも見られますが、その間には一定の類似点があり、違う場合にも全くばらばらでは無く、規則性が見られます。日英語を中心に再帰形の振る舞いについて詳しくみていくことにより、言語の普遍性について理解したいと思います。 なお、「シンタクスa,b」の既修もしくは同時履修が、この授業の理解の助けになります。	Week 1: 授業概要・グループ分け Weeks 2~6: Aikawa, Takako (1999) “Reflexives.” In N. Tsujimura (ed.) *The Handbook of Japanese Linguistics*. Blackwell. Week 7: グループ発表１ Weeks 8-14: Truswell, Robert (2014) “Binding Theory.” In A. Carnie et al. (eds.) *The Routledge Handbook of Syntax*. Routledge. Weeks 15: グループ発表２

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト、参考文献	授業計画を参照
評価方法	毎回の授業での言語分析及び２つの論文のまとめ(70%)、グループ発表(30%)

09 年度以降	英語専門講読 II （日英語の移動現象の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語で疑問文を作る時、主語とwillなどの助動詞を倒置しますが、helpなどの語彙的動詞は倒置せず、do/does/didを使うことは中学校で習ったはずです。 (1) Will John help Mary? (2) *Helped John Mary? (*は非文法的であることを示す) (3) Did John help Mary? 一方、二外でフランス語、ドイツ語、スペイン語を学んでいる人は、(2)に当たる表現が疑問文として文法的であることを既に学んでいますよね!? 実は、古い英語では(2)に当たる表現が文法的で、didなどが使われるようになったのはシェークスピアの時代あたりからです。英語の(1)や(2)に当たるフランス語などの疑問文と平叙文との対応は主要部移動(Head Movement)と呼ばれています。またwh-句は上記の言語で常に節の左端に移動しますが日本語ではどうでしょうか？ (4) Who will/did John help? (5) 誰をジョンは/ジョンは誰を 助けましたか。 以上のような移動現象の違いについて日英語を中心に考察し、人間言語の共通性および一定範囲の多様性について理解したいと思います。	Week 1: 授業概要・グループ分け Weeks 2~6: Roberts, Ian (2001) “Head Movement.” In M. Baltin and C. Collins (eds.) *The Handbook of Contemporary Syntactic Theory*. Blackwell. Week 7: グループ発表１ Weeks 8-14: Rizzi, Luigi (2001) “Relativized Minimality Effects.” In M. Baltin and C. Collins (eds.). Weeks 15: グループ発表２

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト、参考文献	授業計画を参照
評価方法	毎回の授業での言語分析及び２つの論文のまとめ(70%)、グループ発表(30%)

09 年度以降	英語専門講読 I （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(The Grapes of Wrath, 1939)、『エデンの東』(The East of Eden, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、彼の最初のベストセラーである『トーティーヤ台地』(Tortilla Flat, 1935)を読解してゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。 授業には予習をして臨んで下さい。	1:　Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介 2:　小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3:　Tortilla Flat　Introduction 4:　Tortilla Flat 読解　Chapter 1 5:　Tortilla Flat 読解　Chapter 2 6:　Tortilla Flat 読解　Chapter 3 7:　Tortilla Flat 読解　Chapter 4 8:　Review Chapter 1~4 9:　Tortilla Flat 読解　Chapter 5 10: Tortilla Flat 読解　Chapter 6 11: Tortilla Flat 読解　Chapter 7 12: Tortilla Flat 読解　Chapter 8 13: Review Chapter 5~8について 14: Review 15: テスト／期末レポート回収

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる
テキスト、参考文献	テキスト：John Steinbeck,　*Tortilla Flat* (Penguin Modern Classics)
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

09 年度以降	英語専門講読 II （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、*Tortilla Flat* を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1: 前期レポートについてグループ発表 2:　Tortilla Flat 読解　Chapter 9 3:　Tortilla Flat 読解　Chapter 10 4:　Tortilla Flat 読解　Chapter 11 5:　Review Chapter 9~11 6:　Tortilla Flat 読解　Chapter 12 7:　Tortilla Flat 読解　Chapter 13 8:　Tortilla Flat 読解　Chapter 14 9:　Review Chapter 13~16 10: Tortilla Flat 読解　Chapter 15 11: Tortilla Flat 読解　Chapter 16 12: Tortilla Flat 読解　Chapter 17 13: Review Chapter 15~17 14: Review 15: テスト／期末レポート回収

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる
テキスト、参考文献	テキスト：John Steinbeck, *Tortilla Flat* (Penguin Modern Classics)
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

09 年度以降	英語専門講読 I （現代東南アジアの政治・経済・社会）（火４）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の３点です。 ①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③効果的なプレゼンテーション・スキルを身につける。 これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（次週）を行います。 ①ISEAS, ISEAS Monitor Series, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, Southeast Asian Affairs 2016, ISEAS, 2016。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト、参考文献	ISEAS, ISEAS Monitor Series（各号）と ISEAS, Southeast Asian Affairs 2016 を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （現代東南アジアの政治・経済・社会）（火４）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、春学期の英語専門講読Ｉと同様です。 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、金子担当の英語専門講読（現代東南アジアの政治・経済・社会）Ｉ（春）と同Ⅱ（秋）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のＩを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（次週）を行います。 ①ISEAS, ISEAS Monitor Series, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, Southeast Asian Affairs 2016, ISEAS, 2016。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト、参考文献	ISEAS, ISEAS Monitor Series（各号）と ISEAS, Southeast Asian Affairs 2016 を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （Introduction to Fair Trade: Ethics and Solidarity in the Global Economy）（火４）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生（班）がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。	１．授業の進め方について、２．教員によるレクチャー（予定） ３．Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? ４．Fish don't know they are wet or how trading influences our lives ５．Why is Fair Trade so popular? ６．Fair Trade principles and practices ７．Fair Trade histories ８．ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 ９．Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジュメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。
テキスト、参考文献	テキスト Jacqueline Decarlo, *Fair Trade: A Beginner's Guide* (Oneworld Publications) ※各自で DUO で購入して下さい。
評価方法	レジュメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各１回。

09 年度以降	英語専門講読 II （Introduction to Fair Trade: Ethics and Solidarity in the Global Economy）（火４）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジュメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。	担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをする。 １．秋学期のねらい、進め方、グループ作り ２．教員による講義　３．グループ発表と議論 ４．グループ発表と議論　５．グループ発表と議論 ６．グループ発表と議論　７．グループ発表と議論 ８．教員による講義（またはDVDと議論） ９．グループ発表と議論　10．グループ発表と議論 11．グループ発表と議論　12．グループ発表と議論 13．グループ発表と議論　14．教員による講義 15．全体まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジュメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は配布された英語論文を事後に熟読。
テキスト、参考文献	毎回、英語論文が配布される。併せて、次の本もテキストとして使用：フランツ・ヴァンデルホフ著、北野収訳『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社（各自 DUO で購入のこと）。
評価方法	レジュメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各１回。

09 年度以降	英語専門講読 I （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	1. *Jews of Britain* 1～ 5 ページを講読 2. 同上 6～10 ページを講読 3. 同上 11～15 ページを講読 4. 同上 16～20 ページを講読 5. 同上 21～25 ページを講読 6. 同上 26～30 ページを講読 7. 同上 31～35 ページを講読 8. 同上 36～40 ページを講読 9. 同上 41～45 ページを講読 10. 同上 46～50 ページを講読 11. 同上 51～55 ページを講読 12. 同上 56～60 ページを講読 13. 同上 61～65 ページを講読 14. 同上 66～70 ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト、参考文献	高価なため、コピーを配布します。
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。 遅刻２回で欠席１回にカウント。（筆記試験が 70%、平常点が 30%）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
英国ユダヤ人史の概説書を使用します。 講義目的、講義概要は春学期と同じです。	1. *Jews of Britain* 71～ 75ページを講読 2. 同上 76～ 80ページを講読 3. 同上 81～ 85ページを講読 4. 同上 86～ 90ページを講読 5. 同上 91～ 95ページを講読 6. 同上 96～100ページを講読 7. 同上 101～105ページを講読 8. 同上 106～110ページを講読 9. 同上 111～115ページを講読 10. 同上 116～120ページを講読 11. 同上 121～125ページを講読 12. 同上 126～130ページを講読 13. 同上 131～135ページを講読 14. 同上 136～140ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト、参考文献	春学期と同じ
評価方法	春学期と同じ

09 年度以降	英語専門講読 I （世界ブランドとグローバル社会）（火４）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　グローバル社会 7　同上 8　同上 9　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006).*
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読 II （世界ブランドとグローバル社会）（火４）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　グローバル社会 7　同上 8　同上 9　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006).*
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読 I （比較統語論）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。 さまざまな言語データに基づいて、データからどのように記述的一般化を行えば良いのか、一般化を理論的に説明することによってどのような理論的予測が得られるのか、さらには理論的予測の検証をどのようなデータに基づいて行えば良いのかなど、科学的な言語研究の方法論を自分で実際に体験することによって習得してもらいます。 授業の基本的構成は、前半に講師による講義および学生自身によるデータ分析を、後半でグループミーティングを行います。グループミーティングでは、学期末のグループプレゼンテーションのためのディスカッションを行ってもらいます。グループプレゼンテーションでは、英語で書かれた入門書の一部の内容をまとめて発表してもらいます（発表自体は日本語で良い）。 ＊統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。1度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。	1. オリエンテーション 2. 言語データとは？・科学的仮説とは？ 3. 品詞・下位範疇 4. 句構造１ 5. 句構造２ 6. 構造関係 7. 束縛理論 8. 原理とパラメータ１：補文標識痕跡効果 9. 原理とパラメータ２：空主語言語 10. 原理とパラメータ３：階層性 11. グループプレゼンテーション１ 12. グループプレゼンテーション２ 13. グループプレゼンテーション３ 14. グループプレゼンテーション４ 15. まとめ （受講者の様子を見て、スケジュールを変更することがあります）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループミーティングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること
テキスト、参考文献	ハンドアウトを毎回配布します。グループプレゼンテーションには Larson, Richard (2010) Grammar as science. MIT Press を使います。統語論の基礎知識に不安がある人は、参考文献として Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell 社をお勧めします。
評価方法	期末試験（４０%）＋グループプレゼンテーション（３０%）＋授業への参加度・貢献度（３０%）（期末試験は持ち込み不可）

09 年度以降	英語専門講読 II （比較統語論）	担当者	船越　健志

講義目的、講義概要	授業計画
＊生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。 ＊また同一講師の英語専門講読 I（春学期）も前提としているので、連続して履修することが望ましい。 講義目的および講義概要は英語専門講読 I（春学期）を参照してください。 春学期のグループプレゼンテーションでは入門書の一部を読みますが、秋学期はより本格的なリサーチペーパーを読んでもらいます。 ＊統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。１度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。	1. オリエンテーション 2. X-bar理論１ 3. X-bar理論２ 4. 機能範疇 5. 句構造に対する制約 6. 主要部移動１ 7. 主要部移動２ 8. DP移動 9. Wh移動１ 10. Wh移動２ 11. グループプレゼンテーション１ 12. グループプレゼンテーション２ 13. グループプレゼンテーション３ 14. グループプレゼンテーション４ 15. まとめ （受講者の様子を見て、スケジュールを変更することがあります）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	グループミーティングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること
テキスト、参考文献	ハンドアウトを毎回配布します。統語論の基礎知識に不安がある人は、参考文献として Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell 社をお勧めします。
評価方法	期末試験（４０%）＋グループプレゼンテーション（３０%）＋授業への参加度・貢献度（３０%）（期末試験は持ち込み不可）

09 年度以降	英語専門講読 I （ヒッチコック映画批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、コミュニケーション研究において重要な批判的・哲学的概念について、ヒッチコック映画の批評を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とします。 映像が理論的・哲学的概念を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を読み込み理解していきます。この講義の目的は、映画から始めて哲学や理論の探究という今まできちんと意識してこなかったかもしれない「読み」を行うことです。 授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②全体で討論するという手順で行います。履修者には主体的に課題に取り組むこと、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することが必要とされます。 テクストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め各自で観ておくことが必須となります。 履修者は文献をきちんと理解し発表する為に、参考文献を図書館等で入手し活用することも求められます。積極的に授業に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発言をすることに意欲的な方の受講を大いに歓迎します。	1. Course Orientation 2. Sabotage: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia 3. Sabotage: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia 4. Rope: Nietzsche and the Art of Murder 5. Rope: Nietzsche and the Art of Murder 6. Psycho: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil 7. Psycho: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil 8. The Birds: Plato and Romantic Love 9. The Birds: Plato and Romantic Love 10. Featherless Bipeds: The Concept of Humanity in The Birds 11. Featherless Bipeds: The Concept of Humanity in The Birds 12. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in Breakdown 13. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in Breakdown 14. Review of chapters 15. Wrap up **第１回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト、参考文献	*Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics*. ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2007)
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 II （ヒッチコック映画批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ **第１回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**	1. Course Orientation 2. Veritigo and the Pathologies of Romantic Love 3. Veritigo and the Pathologies of Romantic Love 4. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in North by Northwest 5. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in North by Northwest 6. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in North by Northwest 7. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in North by Northwest 8. Democracy Adrift in Lifeboat 9. Democracy Adrift in Lifeboat 10. Rear Window: Hitchcock's Allegory of the Cave 11. Rear Window: Hitchcock's Allegory of the Cave 12. Rear Window: Looking at Things Ethically 13. Rear Window: Looking at Things Ethically 14. Review of chapters 15. Wrap up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。
テキスト、参考文献	*Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics*. ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2007)
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）（水１）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定されたパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。 初回の授業で英文読解力を計るためのテスト（国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし）を実施します。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの最新のarticles中から10回分を選択して順次取り上げる。 ISEAS, ISEAS Perspective Series, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト、参考文献	ISEAS, ISEAS Perspective Series（各号）を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （アジア太平洋地域の国際関係・政治経済）（水１）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春学期）と同Ⅱ（秋学期）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のⅠを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの最新のarticles中から10回分を選択して順次取り上げる。 ISEAS, ISEAS Perspective Series, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト、参考文献	ISEAS, ISEAS Perspective Series（各号）を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I （International Development Studies: Global Political Economy and Sustainable Development）（水 1）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
国際開発学の入門的知識を英文テキストを用い、輪読、プレゼン、議論をしながら学びます。どうして南北格差が生まれ、富める人々と貧しい人々がいるのでしょうか。国際社会および私たちは、今までどのような開発協力をしてきたのでしょうか。そもそも「開発」とは何でしょうか。こうした事柄について、とりわけ、「グローバル・ポリティカルエコノミー」から、「持続可能な開発」について掘り下げて考えていきます。	1．授業の進め方について 2．教員レクチャー 3．What is Development? 4．History of Development 5．Globalization 6．Political Economy of Development 7．Politics of Development 8．教員レクチャーまたはビデオ 9．Religion and Development 10. The Natural Environment 11. Human Rights and Gender 12. Development in the 21 Century: The New Issues and Approaches 13. 持続可能な開発目標（SDGs）について(予定) 14. 教員レクチャー 15. 全体まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジュメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。
テキスト、参考文献	Jeffrey Haynes (2008) *Development Studies*, Polity. ※各自で DUO 等で購入して下さい。
評価方法	レジュメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

09 年度以降	英語専門講読 II (International Development Studies: Global Political Economy and Sustainable Development)（水 1）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は国際協力、ODA、NGO、ジェンダーと開発、教育開発、BOP、開発と倫理等、国際開発学に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジュメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。	担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをする。 1．秋学期のねらい、進め方、グループ作り 2．教員による講義　3．グループ発表と議論 4．グループ発表と議論　5．グループ発表と議論 6．グループ発表と議論　7．グループ発表と議論 8．教員による講義（またはDVDと議論） 9．グループ発表と議論　10. グループ発表と議論 11. グループ発表と議論　12. グループ発表と議論 13. グループ発表と議論　14. 教員による講義 15. 全体まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジュメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は配布された英語論文を事後に熟読。
テキスト、参考文献	毎回、英語論文が配布される。 併せて、次の本もテキストとして使用：北野収『国際協力の誕生』創成社新書（各自 DUO で購入のこと）。
評価方法	レジュメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

09 年度以降	英語専門講読 I （現代社会における国際組織）	担当者	松村　尚子

講義目的、講義概要	授業計画
目的：この授業は、現代社会における国際組織の役割と日本の貢献をテーマに、以下の目標を達成することを目的とします。 1. 英語の専門書籍や雑誌記事を読む力を身につけること 2. 国際組織､及び背景にある国際問題や日本の貢献について基礎的な知識を得ること 3. プレゼンテーションの力を身につけること **内容：**春学期（I）は、主に国際連合（国連）を取り上げ、国連の歴史的発展、国連の意思決定、国連の活動、国連と日本のかかわりについて、文献と参考資料（国連の刊行物など）を基に検討します。加えて、背景となる国際情勢や問題についても考察します。 **進め方：** 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑・応答を軸に進めます。文献の英語表現などについても適宜解説します。 **課題：** プレゼンテーションのほか、毎週、文献の指定箇所の和訳をレポートとして提出することが求められます。 **その他：** シラバスは変更される可能性があります。授業について質問・不安がある方は、担当教員までお気軽にメールで問い合わせてください。履修には国際政治の前提知識は必要ありません。	１．イントロダクション：授業の内容や課題について説明します。 ２．国際組織とは何か？（プレゼンの担当者を決めます。） ３．国際組織はなぜ必要とされるのか？ ４．国際連盟の誕生と崩壊 ５．国際連盟と日本 ６．国際連合（国連）の誕生、国連憲章 ７．国連の意思決定１　安全保障理事会 ８．国連の意思決定２　総会 ９．国連の意思決定３　経済社会理事会 １０．国連の集団安全保障１ １１．国連の集団安全保障２ １２．国連の平和維持活動とは何か？ １３．国連の活動と日本：　平和維持活動１ １４．国連の活動と日本：　平和維持活動２ １５．まとめ（予備日）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	プレゼンテーション担当の有無にかかわらず、指定される文献を読んだ上で授業に参加してください。 また、毎週、指定文献の和訳を作成することが求められます（手書き不可）。
テキスト、参考文献	Hanhimaki, Jussi M., *The United Nations: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2015). 加えて、必要に応じて、プリントあるいは PDF を配布します。
評価方法	和訳レポート 60%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 20%（ただし 4回を越えて欠席した場合は評価対象としません。）

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （現代社会における国際組織）	担当者	松村　尚子

講義目的、講義概要	授業計画
目的：この授業は、現代社会における国際組織の役割と日本の貢献をテーマに、以下の目標を達成することを目的とします。 1. 英語の専門書籍や雑誌記事を読む力を身につけること 2. 国際組織､及び背景にある国際問題や日本の貢献について基礎的な知識を得ること 3. プレゼンテーションの力を身につけること **内容：** 秋学期（Ⅱ）は、現代の国際社会で解決が必要とされている重要な問題を取り上げ、関係する国際組織の役割・効果・問題点について、文献と参考資料（国際組織の刊行物など）を基に検討します。加えて、背景となる国際情勢や問題についても考察します。 **進め方：** 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑・応答を軸に進めます。文献の英語表現などについても適宜解説します。 **課題：** プレゼンテーションのほか、毎週、文献の指定箇所の和訳をレポートとして提出することが求められます。 **その他：** シラバスは変更される可能性があります。授業について質問・不安がある方は、担当教員までお気軽にメールで問い合わせてください。履修には国際政治の前提知識は必要ありません。	１．イントロダクション（プレゼンの担当者を決めます。） ２．国際組織とは何か？ ３．領土問題と国際機関：領土をめぐる紛争はなぜ起こるのか？ ４．領土問題と国際機関：世界と日本にはどんな領土紛争があるのか？ ５．領土問題と国際機関：国際司法裁判所（ICJ） ６．人権問題と国際機関：現代における戦争犯罪とは何か? ７．人権問題と国際機関：国際社会は戦争犯罪者を裁くべきか？ ８．人権問題と国際機関：国際刑事裁判所（ICC） ９．貿易をめぐる問題と国際機関：なぜ貿易をするのか？なぜ保護主義は生まれるか？ １０．貿易をめぐる問題と国際機関：世界貿易機関 １１．貿易をめぐる問題と国際機関：自由貿易協定 １２．貧困をめぐる問題と国際機関：世界における貧困の現状はいかなるものか？ １３．貧困をめぐる問題と国際機関：世界銀行 １４．貧困をめぐる問題と国際機関：多国間援助と二国間援助、日本のODA １５．まとめ（予備日）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	プレゼンテーション担当の有無にかかわらず、指定される文献を読んだ上で授業に参加してください。 また、毎週、指定文献の和訳を作成することが求められます（手書き不可）。
テキスト、参考文献	適宜、プリントあるいは PDF を配布します。
評価方法	和訳レポート 60%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 20%（ただし 4回を越えて欠席した場合は評価対象としません。）

09 年度以降	英語専門講読 I （Language, Thought, and Culture）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
There is a centuries-long debate about the influence of language on thought and a culture's world view. Some scholars have said that the effects of language on thought are minimal, while others have said that the effects dominate all aspects of thought (and consequently world view). This course will survey the history of this debate and examine some recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture.	1. Orientation 2. Naming the rainbow 3. Naming the rainbow 4. A long-wave herring 5. A long-wave herring 6. A long-wave herring 7. The rude populations 8. The rude populations 9. The rude populations 10. Those who said things before us 11. Those who said things before us 12. Those who said things before us 13. Plato and the Macedonian swineherd 14. Plato and the Macedonian swineherd 15. Test

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)
テキスト、参考文献	*Through The Language Glass*, by Guy Deutscher. (2010) Picador Press.
評価方法	Three reaction papers: 2 essays = 40%; Notebook,& participation: 40%.; Test = 20%

09 年度以降	英語専門講読 II （Language, Thought, and Culture）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
A continuation of the first semester. There is a centuries-long debate about the influence of language on thought and a culture's world view. Some scholars have said that the effects of language on thought are minimal, while others have said that the effects dominate all aspects of thought (and consequently world view). This course will survey the history of this debate and examine some recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture.	1. Orientation 2. Crying Whorf 3. Crying Whort 4. Where the sun doesn't rise 5. Where the sun doesn't rise 6. Where the sun doesn't rise 7. Sex and syntax 8. Sex and syntax 9. Sex and syntax 10. Russian blues 11. Russian blues 12. Russian blues 13. Forgive us our ignorances 14. Forgive us our ignorances 15. Test

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)
テキスト、参考文献	*Through The Language Glass*, by Guy Deutscher. (2010) Picador Press.
評価方法	Three reaction papers: 2 essays = 40%; Notebook,& participation: 40%.; Test = 20%

09 年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の文化や社会の動態について､エスニシティやジェンダー、地域的多様性、ポップカルチャーなどを題材に考えてみたいと思います。 従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し､マルチカルチュラルな視点から現代日本の現状を捉えることを目指します。 教材として扱うのは､社会学者によって書かれた日本研究の基本的な（＝英語圏の大学生向け）文献です。 授業の進め方は､受講生数によって適宜調整しますが､基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます｡そのため､ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。 なお､教材については､各自アマゾン等で購入するか､各自図書館で必要な箇所をコピーしてください。	1. 趣旨説明･グループ分け(初回授業で発表スケジュール等を決めるので、必ず出席すること。万が一、出席できない場合は、メールで履修の意思を担当教員に伝えること。) 2. 本授業で扱うテーマについての解説1（講義） 3. 本授業で扱うテーマについての解説2（講義） 4~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15. まとめ ※ この授業では、テキストの中から、以下の5つの章を扱います。 1. Japan Phenomenon and the Social Sciences 3. Geographical and Generational Variations 6. Gender Stratification and the Family System 7. Minority Groups: Ethnicity and Discrimination 9. Popular Culture and Everyday Life

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	一定の社会学的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。
テキスト、参考文献	Sugimoto, Yoshio 2014. An Introduction to Japanese Society (Forth Edition). Cambridge and New York: Cambridge University Press. 【版に注意すること】
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の多民族・多文化状況をテーマに、長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌（エスノグラフィ）の読解・議論を通じて、多文化共生の可能性や課題について考えます。 班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性などについて書かれたてテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウンにて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をしてもらいます。 授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日的状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会学的思考を養うことを目的とします。	1. 講義 2~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15.　総合討論・まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておくこと。
テキスト、参考文献	初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。入手困難なものについては、担当者が配布する。
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ （ディズニーと世界情勢）（水２）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。 この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のＤＶＤ、企業のＰＲ動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。	第１週　オリエンテーション、グループの編成 第２週～１５週 毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。 ①　モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います。 ②　グループによるプレゼン ③　ディズニー作品やディズニーＰＲ動画、 ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞 ④　グループ・ディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	B. Capodagli & L.Jackson, *The Disney Way*,(2007); J. Wasko, *Understanding Disney* (2001) に加えて、海外の資料をプリント配布します。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （ディズニーと世界情勢）（水２）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。 この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のＤＶＤ、企業のＰＲ動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。 映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。	第１週　オリエンテーション、グループの編成 第２週～１５週 毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。 ①　モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います。 ②　グループによるプレゼン ③　ディズニー作品やディズニーＰＲ動画、 ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞 ④　グループ・ディスカッション

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	B. Capodagli & L.Jackson, *The Disney Way*,(2007); J. Wasko, *Understanding Disney* (2001) に加えて、海外の資料をプリント配布します。
評価方法	プレゼン資料＋プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%

09 年度以降	英語専門講読 I （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Introduction（教科書 viii-xv）： いわゆる「アクセント」とは何か？等 3. Unit 1：シラブル（音節）とは 4. Unit 2：母音のルール 5. Unit 3：強勢と母音長との関係１ 6. Unit 4：強勢と母音長との関係２ 7. Unit 1 - 4 のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン 10. Unit 6：内容語の文における役割 11. Unit 7：機能語の役割（音としては弱いが重要） 12. 教材作成タスク　① 13. 教材作成タスク　② 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト、参考文献	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

09 年度以降	英語専門講読 II （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。後半はペアあるいはグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材作成」に取り組む予定。	1. コース概要１：オリエンテーション 2. Unit 8：文のなかで強調される部分 3. Unit 9：機能語をあえて強調する 4. Unit 10：英語の /s/と/t/ 5. Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/ 6. Unit 12：有声音・無声音について 7. Unit 8 ～12 のまとめ 8. ＜中間テスト＞ 9. Unit 13：シラブルの長さと有声・無声音との関係 10. Unit 14：　‘Sibilants’ 11. Lecture for Listening Practice 12. 教材作成（グループワーク）① 13. 教材作成（グループワーク）② 14. ＜期末テスト＞ 15. Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認
テキスト、参考文献	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （国際取引契約法入門 I）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ契約法は国際取引契約において参照されることが多く、重要な位置を占めます。そこで、この授業では、国際取引契約に関する法の入門編として、アメリカ契約法の入門書である下記テキストのうち、「第２章　契約の成立」の部分（pp.23-177）を講読していきます（コピー配布。なお、下記は７版ですが、最近改版されたことから、授業開始までに入手できた場合は、最新版の８版に差し替えます)。もっとも、科目の性質上、この授業の目的は、アメリカ契約法に関する専門的な知識を修得することよりも、法律英語を読んでみてその特徴をつかむこと、契約法をめぐる日米での発想や考え方の違いに気が付いたり、意外な共通点を発見したりするなど、「法という文化現象」の現れ方を考察することに置きたいと思います。 第１回のオリエンテーションでは、授業の運営方法や成績評価の方法・基準などについて詳しく説明します。また、テキストを読むうえで必要なアメリカ法の基礎知識について講義をしますので、受講希望者は、できるだけ第１回の授業に出席するようにしてください。	1.　オリエンテーション、アメリカ法の基礎知識（講義） 2. ～ 14.　テキストの内容について報告と質疑 15.　まとめと振り返り（予備日）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テキストの指定箇所を読むことと、各自に割り当てられた役割（内容報告係、法律用語調査係、日本法調査係など）に応じた準備をすること、事後には授業日誌を書くことを求めます（詳細はオリエンテーションで説明します)。
テキスト、参考文献	Rohwer, C. D.,　Skrocki, A. M., Contracts in a Nutshell 7th ed., West Academic 2010. 参考書（上記第３版の翻訳書）：シェーバー／ローワー著／内藤加代子訳『アメリカ契約法』（木鐸社、2001 年）
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （国際取引契約法入門Ⅱ）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の I に引き続き、アメリカ契約法の入門書である下記テキストのうち、「第６章　免責事由」～「第９章　救済」の部分（pp.312-458）を講読します（コピー配布)。ただし、春学期の I で、「第２章　契約の成立」を読了していない場合は、その続きからとします（その場合、第２章については下記テキストの旧版（７版)、第６章～第９章については下記テキスト（８版）を使用します)。 授業の目的は、I と同様ですが、I で学習する内容が前提となることがありますので、できるだけ、I を履修してからⅡを履修するようにしてください。	1.　オリエンテーション 2. ～ 14.　テキストの内容について報告と質疑 15.　まとめと振り返り（予備を兼ねる）

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テキストの指定箇所を読むことと、各自に割り当てられた役割（内容報告係、法律用語調査係、日本法調査係など）に応じた準備をすること、事後には授業日誌を書くことを求めます（詳細はオリエンテーションで説明します)。
テキスト、参考文献	Rohwer, C. D.,　Skrocki, A. M., Malloy, M. P., Contracts in a Nutshell 8th ed., West Academic 2016. 参考書（上記第３版の翻訳書）：シェーバー／ローワー著／内藤加代子訳『アメリカ契約法』（木鐸社、2001 年）
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。

09 年度以降	英語専門講読 I （外国人が旅する Japan①：Lonely Planet 編）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
訪日外国人の増加を伝えるニュースに接する機会が多くなっていますが、彼らはどのようなJapanに関する情報をもとに、この東アジアの島国を旅するのでしょうか。 この授業では、世界で最も読まれている観光ガイドブック・シリーズLonely PlanetのJapan編を取り上げ、日本の歴史、文化、建築、映画、マンガ、ポピュラー・カルチャー、そして和食などを紹介した部分を批判的に読み解き、「外国人が旅するJapan」の一断面を理解することを目的とします。 Lonely Planetは英語版をはじめ、中国語や韓国語などにも翻訳されており、おもに個人旅行者が使うガイドブックとして世界的に知られています。そのJapan編は数年ごとに不定期改訂されるため、最新版を初回の授業で確認し、購入するか該当部分をコピーするか希望を募ります。 授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②トピックを一つ選び調査報告し、③全体で討論する、という方法をとります。履修者には主体的に課題に取り組み、積極的に関連資料の収集や調査を試み、そして討論に参加することを期待します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2.　講義：観光ガイドブックのメディア特性について 補助資料の集め方と分析方法について 3.～14.　発表、ディスカッション 15.　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト、参考文献	Lonely Planet, Japan, ほか。授業開始の直前に最新版が刊行されることもあるため、初回の授業で確認するまでテキストの購入は控えてください（なお授業で講読する個所は配布する予定です）。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （外国人が旅する Japan②：Michelin＆比較分析編）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、前期の「英語専門講読 I （外国人が旅するJapan①）」で取り組んだ講読の方法を応用し、フランスのタイヤメーカーであり著名な観光ガイドブック・ブランドを有するMichelin（ミシュラン）社のJapan編（英語版）を批判的に読み解くことを目的とします。 そして授業の後半では、日本のいくつかの「まち」（たとえば京都、東京、広島、鎌倉など）を取り上げ、Lonely PlanetとMichelinとその他のガイド・メディア（日本の「るるぶ」やネットのTripAdvisorなど）を比較し、いかなる「外国人が旅するJapan」が観察できるのかを分析します。 前期の授業と同様に、観光ガイドブックは比較的読みやすいテキストですが、履修者には「文献を要約発表すること」と同等に「トピックを自ら選び調査報告すること（とくに英語文献を図書館やネットで入手し活用すること）」が求められます。そのため積極的に自由研究に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発表を実現することに意欲的な方の受講を歓迎します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2.～10.　発表、ディスカッション 11.～14.「まち」分析比較（場所は初回授業で発表） 15.　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト、参考文献	Michelin, Japan (The Green Guide, English Edition)ほか。前期と同様に初回の授業で最新版を確認するまでテキストの購入は控えてください（なお授業で講読する個所は配布する予定です）。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO **before the first class.**	1. Introduction 2. Evolution of Diplomacy (1) 3. Evolution of Diplomacy (2) 4. Evolution of Diplomacy (3) 5. Diplomacy of the American Revolution (1) 6. Diplomacy of the American Revolution (2) 7. Diplomacy of the American Revolution (3) 8. Midterm Examination 9. Diplomacy of the American Revolution (4) 10. Diplomacy of the American Revolution (5) 11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (1) 12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (2) 13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (3) 14. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (4) 15. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (5)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読 II (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.	1. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (1) 2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (2) 3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (3) 4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (4) 5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (5) 6. The ANZUS Treaty (1) 7. The ANZUS Treaty (2) 8. Midterm Examination 9. The ANZUS Treaty (3) 10. The ANZUS Treaty (4) 11. Diplomacy in the Age of Globalization (1) 12. Diplomacy in the Age of Globalization (2) 13. Diplomacy in the Age of Globalization (3) 14. Diplomacy in the Age of Globalization (4) 15. Course Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読 I （途上国の子どもの問題を知ろう）（木２）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、途上国の子どもたちがどのような問題を抱えているのか統計資料などを含めて理解をする。また、子どもたちをめぐる国際関係、政治・経済、開発などを勉強・理解するために不可欠な社会科学的な知識や考え方を身につける。さらに、英語でのプレゼンテーション・スキルを身につけていきます。したがって、授業では単に訳す作業に追われるだけでなく、内容理解も重視しながら資料を読み進めます。 授業は、学生が中心になってプレゼンテーションをし、それに対して内容のチェックや、質疑応答、討論をしていきたいと思います。テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。この授業は春・秋継続して専門用語と内容、考え方について慣れて行ってほしいと思います。	1. ガイダンス　授業の方法と担当者を決める 2. 途上国の子どもの問題についての講義（堀） 3-15. 学生のプレゼンテーション、内容チェック、質疑応答、討論など

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は次回行う部分を訳して、わからないことは調べる。復習はプレゼンテーションの資料の振り返り
テキスト、参考文献	UNICEF, *the State of the World's Children* ほか、授業で資料を配布します
評価方法	プレゼンテーションの内容 40%、授業に積極的に参加し、発言したか 30%、課題の提出 30%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （途上国の子どもの問題を知ろう）（木２）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、途上国の子どもたちが抱える問題について資料を読んでいきます。できうれば、学生たちが自分の関心あるテーマに従って資料を読み込むことで、英語でコンテンツをより深く理解できるようになるといいと思います。 また、子どもの問題を解決するために、国連やNGOが果たす役割についても考えます。特に1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」についての文献を読めるようにしていきたいと思います。	1. ガイダンス　授業の方法と担当者を決める 2-15. 学生のプレゼンテーション、内容チェック、質疑応答、討論など

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は次回行う部分を訳して、わからないことは調べる。復習はプレゼンテーションの資料の振り返り
テキスト、参考文献	Holzscheiter　A, Children's Rights in International Politics, ,Palgrave Macmillam UK など。
評価方法	プレゼンテーションの内容 40%、授業に積極的に参加し、発言したか 30%、課題の提出 30%

09 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズムの現状と課題）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはいまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。 講義概要： 　本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．Outline of Tourism in Japan ３．Japan’s World Heritage Site ４．Presentation & Discussion 1-(1) ５．Presentation & Discussion 1-(2) ６．Presentation & Discussion 1-(3) ７．Presentation & Discussion 1-(4) ８．Culture of Japan & “Cool Japan” ９．Travel & Tourism Competitiveness １０．Japanese National Culture １１．Pros and Cons of Japanese Tourism １２．Presentation & Discussion 2-(1) １３．Presentation & Discussion 2-(2) １４．Presentation & Discussion 2-(3) １５．Presentation & Discussion 2-(4)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０%、プレゼンテーションとレポート３０%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （航空の現状と歴史）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義においては、航空産業の現状と歴史について学習する。航空産業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その背景にある様々な出来事を忘れがちである。よって、航空産業の現状に加え、現状に至る経緯や、現在の航空産業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。 講義概要： 　本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．The Airline Business in Japan(1) ３．The Airline Business in Japan(2) ４．The Airline Business in Japan(3) ５．The Airline Business in Japan(4) ６．The Airline Business in Japan(5) ７．The History of The Airline Business(1) ８．The History of The Airline Business(2) ９．The History of The Airline Business(3) １０．The History of The Airline Business(4) １１．Presentation & Discussion (1) １２．Presentation & Discussion (2) １３．Presentation & Discussion (3) １４．Presentation & Discussion (4) １５．Presentation & Discussion (5)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画７０%、プレゼンテーションとレポート３０%

09 年度以降	英語専門講読 I （Jane からはじめて−文学とフェミニズム）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
女性の成長を描いた英語の文学作品を読み、映画を観て、そこに現れる女性の問題に焦点をあてながら、過去から現在までの女性の課題を考えるのがこの講義の一つ目の目的である。前期のメインテクストは1848年に出版された古典、Charlotte Brontë のJane Eyre。現在でも広く読まれ、幾度も映画化されている（最新の映画化は2012年）作品である。映画を使用しつつ、毎回適切な量の原文テクストも読んでいく。その過程において、19世紀中頃から興隆してきたフェミニズムの流れも見ていこう。前期では選挙権獲得を焦点とした第一フェミニズムから始め、第二次世界大戦後にふたたび大きなうねりとしてフェミニズムの波がたちあがるところまで、つまり第二次フェミニズムのはじまりまでを見る。 また、文学テクストが、異なった歴史・社会の中でどのように受容されるのかを検討していく。これにより、複眼的、かつ歴史的なものの見方を身につけるのが、本講義の二つ目の目的である。	1. Jane Eyre （イントロダクション＋18歳まで） 2. Discussion 1 + Jane Eyre (自立、恋愛、破局) 3. Discussion 2 + Jane Eyre (試練と大団円) 4. Discussion 3 + 当時の批判 (秩序破壊者としてのJane) 5. Historical Context（19世紀半ばのイングランドとは） 6. フェミニストヒロインとしてのJane.1 ―解説と精読 7. フェミニストヒロインとしてのJane.2 ―解説と精読 8. フェミニズムの胎動 9. 第一次フェミニズム 1 10. 第一次フェミニズム 2 11. フェミニズム小説としてのJane Eyre 1―解説と精読 12. フェミニズム小説としてのJane Eyre 2―解説と精読 13. 第二次フェミニズムのはじまり 1 14. 第二次フェミニズムのはじまり 2 15. Assessment

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテクストを配布、あるいはポータルにアップするので、十分に準備をしておくこと。事後については、個々人の理解度と興味に応じて適切に実施してほしい。
テキスト、参考文献	テクストはハンドアウトを配布する。参考文献については、授業内で紹介する。
評価方法	授業貢献　30%　提出物　30%　学期末試験　40%

09 年度以降	英語専門講読 II （Jane からはじめて−文学とフェミニズム）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は前期と同じ。後期は、第二次フェミニズムの展開を若干紹介した後に、メインテクストへと移る。後期のメインテクストは1966年に出版されたJean Rhysの The Wide Sargasso Sea (授業計画ではWSSと表記する)である。本作品は、Jane Eyreにおいては自分自身の言葉を与えられていないBerthaを主人公としたものである。彼女は、Janeが恋に落ち、やがて結ばれるRochesterの最初の妻で、精神疾患を煩うジャマイカ出身の女性である。Rochesterは、この大金持ちの農園主の娘と、親に騙されて結婚させられた、という設定になっている。Jane Eyreが帝国の娘の自我の闘いとその成功の物語りであるならば、こちらは植民地の娘、クレオールの女の崩れゆく自我の物語りである。 後期にフィーチャーされるのは、第二の目的、「複眼的、かつ歴史的に」という部分での、ポストコロニアルの問題である。フェミニズムとの関連では、有色女性のフェミニズム、第三世界とフェミニズムの問題と結びついていく。	1. イントロダクション 2. 第二次フェミニズムの展開−Personal is Political 3. WSS 執筆の動機 4. WSS reading 1 5. WSS reading 2 6. WSS reading 3 7. WSS discussion 1 + 解説（ポストコロニアル文学） 8. WSS reading 4 9. WSS reading 5 10. WSS reading 6 11. Discussion 2（イズムで人を語れるか？文学の意味。） 12. 第二次フェミニズムの展開−ブラック・フェミニズム 13. フェミニズム？ウーマニズム？ 14. Discussion 3 + 解説 15. Assessment

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテクストを配布、あるいはポータルにアップするので、十分に準備をしておくこと。事後については、個々人の理解度と興味に応じて適切に実施してほしい。
テキスト、参考文献	Rhys, Jean. The Wide Sargasso Sea (London: Penguin, 2011) 希望に応じて前期の後半に共同購入する。（個人での購入も自由）。その他についてはハンドアウトを事前配布、あるいはポータルにアップする。
評価方法	授業貢献　30%　提出物　30%　学期末試験　40%

09 年度以降	英語専門講読 I （前期 Bob Dylan の歌詞を読む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
2016年にノーベル文学賞を受けた Bob Dylan の歌詞を精読する。まずは、「ポップスター」に対してノーベル文学賞が与えられたことに対して、違和感を覚える学生もいるだろうから、まずは、その違和感を解いていきたい。そこで、ディランがどれだけ伝統に則って歌詞を書いていたか、それをまずは検証してみる。春学期では、ディランのロック期へと移行するまでの代表曲の歌詞を愚直に読んでいく。それなしには、「詩」という文芸自体を、そしてロックへと移行するディランの中期、後期を理解することができないからだ。 それから、ディランの多彩な歌詞の世界を渉猟することを、春学期では目的とする。	1) introduction 2) “Song to Woody,” “Last Thoughts on Woody” 3) Woody Guthrie “This Land Is Your Land” 4) “John Brown” 5) “Blowin’ in the Wind” 映画『フォレストガンプ』 6) “Girl from the North Country” その他。 7) “Masters of War,” “Talkin’ World War III Blues” 8) “A Hard Rain’s A-Gonna Fall” その他。 9) “Don’t Think Twice, It’s Alright,” “I Shall Be Free” 10) “The Times They Are A-Changin’” 11) “When the Ships Comes in,” “Chimes of Freedom” 12) “My Back Pages,” Simon & Garfunkel “The Boxer” 13) “It Ain’t Me, Babe” その他。 14) “Subterranean Homesick Blues” 15) “Maggie’s Farm”

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、読む詩のわからない単語を調べ、それが詩全体としてどのような意味合いを持つのか、しっかりと考えてくること。それが「解釈」ということである。
テキスト、参考文献	Bob Dylan *Lyrics 1961-2012,* Simon & Schuster。参考文献は、山ほどあるので、自分で調べること。授業内でも適宜、紹介する。
評価方法	毎回のプレゼンテーション、そして学期末のレポート

09 年度以降	英語専門講読 II （Bob Dylan のロック期以降の歌詞を読む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期では、ディラン前期の歌詞を読んだ。そこで秋学期では、ロック期以降のディランの歌詞を読む。 　とはいえ、漫然と詩を読んでいるだけでは、つまらない。そこで、秋学期の前半では、ロック期のヒット作を読むが、それ以降は、アルバム *Desire* 収録の曲の歌詞をすべて読むことを目標とする。その意図は、「アルバム」というひとつの枠の中で、ディランがどのようなことを考えて、ひとつの「アルバム」という作品へと仕上げていったか、ということを考えることである。現在は、音楽を享受する場合には、「ダウンロード」というツールがあるため、聞きたい曲をピンポイントで聞くことができるが、作り手は「アルバム」という枠内で作品を考えていた。「コンセプト・アルバム」という、ひとつの「アルバム」単位でのアートのあり方を知ってもらいたい。	1） 春学期のレポートの講評 2) “Mr. Tambourine Man” 3) “Like a Rolling Stone” 4) “Ballad of a Thin Man” 5) “Desolation Row” 6) “Just Like a Woman” 7) “Hurricane” 8) “Isis” 9) “One More Cup of Coffee” 10) “Oh, Sister” 11) “Joey” 12) “Romance in Durango” 13) “Black Diamond Bay” 14) “Sara” 15） 春、秋学期の総評

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じように、単語調べ、そしてその単語がひとつの歌詞の中でどのように機能するか、それを授業前に自分で考えてから、授業に臨むこと。それが「予習」というものである。
テキスト、参考文献	春学期と同じ。
評価方法	毎回のプレゼンテーション、そして学期末のレポート。

09 年度以降	英語専門講読 I （コミュニケーションの諸モデル）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 コミュニケーション現象を客観的に理解し、分析できるようになる。 **講義概要** まずコミュニケーションのダイナミックなプロセス性を学んだ後、具体的なコミュニケーションモデルを10件くらい学び、その学びを定着させるためにそれらのモデルを利用して具体的なコミュニケーション現象を分析し発表してもらいます。	1. 導入 2. コミュニケーションのプロセスの概念 3. コミュニケーションの要素１（送り手・受け手） 4. コミュニケーションの要素２（メディア） 5. コミュニケーションの要素３（メッセージ） 6. 線形モデル１（ラスウェルのモデル、他） 7. 線形モデル２（ＡＢＣモデル、他） 8. 線形モデル３（議題設定モデル、他） 9. 春学期中間発表 10. 循環モデル１（オズグッドのモデル､ヘリカルモデル） 11. 循環モデル２（利用と満足モデル、他） 12. その他のモデル１（ABX モデル、他） 13. その他のモデル２（遠慮察しモデル、他） 14. その他のモデル３（沈黙の螺旋モデル、他 15. 春学期最終発表

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト、参考文献	*Communication Models*, Longman.
評価方法	授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （イノベーションの普及プロセス）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 イノベーション（技術革新）が普及していく過程を客観的に理解し、分析できるようになる。 **講義概要** イノベーション（技術革新）が普及していくプロセスはコミュニケーションプロセスの一形態であると捉えることができる。本講義ではイノベーションの定義を行った後、イノベーションが普及・伝達していく上で重要な要因である、1)イノベーションの採用過程、2)イノベーションの特徴、3)イノベーションの採用者類型、4)オピニオンリーダーやチェンジエージェントの特徴と役割などについて学んでいく。そして、授業での学びを定着させるために具体的なイノベーションを取り上げ、その普及戦略について発表してもらいます。	1. 導入 2. イノベーションとは 3. イノベーションのコミュニケーションに関わる要素 4. イノベーションの採用過程１ 5. イノベーションの採用過程２ 6. イノベーションの採用課程３ 7. イノベーションの特徴１ 8. イノベーションの特徴２ 9. 秋学期中間発表 10. イノベーションの採用者類型１ 11. イノベーションの採用者類型２ 12. オピニオンリーダーの特徴と役割 13. チェンジエージェントの特徴と役割 14. 秋学期最終発表 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、グループ発表やプレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト、参考文献	Rogers, E.M. (2003) . *Diffusion of Innovations(5th Ed.)*, Free press
評価方法	授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%

09 年度以降	英語専門講読 I （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。 講義概要： 1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関する英字新聞やウェブサイト記事など幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。「通訳I」および「通訳II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 政治 3. 政治 4. 技術 5. 技術 6. 犯罪 7. 犯罪 8. IT通信 9. IT通信 10. 産業 11. 産業 12. 医療厚生 13. 医療厚生 14. 期末テスト 15. 春学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト、参考文献	テキスト：適宜資料を配布します 参考文献：適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読 II （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。 講義概要： 春学期に学んだ方法を応用しながら引き続き1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関して幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましいです。「通訳I」および「通訳II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 教育 3. 教育 4. 国際関係 5. 国際関係 6. 環境 7. 環境 8. 軍事 9. 軍事 10. 医学 11. 医学 12. 経済 13. 経済 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト、参考文献	テキスト：適宜資料を配布します 参考文献：適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究における主要な方法や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Economics of Tourism 4、Planning Tourism 5、Carrying Capacity 6、Regeneration 7、Experience Economy 8、Destination Management 9、Authenticity 10、Tourist Gaze 11、Identity 12、Mobility 13、Post Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト、参考文献	Smith, M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage. Robinson, P. ed. (2012) *Tourism the key concepts*. Routledge
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末試験 40%

09 年度以降	英語専門講読 II （ツーリズム研究の現代的課題）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究の対象となる諸事象について、基礎的な理解を得ることを目的とする。とくに、春学期に学んだ観光研究の基礎概念をもとに、近年関心が寄せられている主要な観光形態について批判的に考察することを目指したい。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Sustainable Tourism 4、Eco Tourism 5、Cultural Tourism 6、Heritage Tourism 7、Art Tourism/ Gastronomic Tourism 8、Film and TV Tourism/ Literary Tourism 9、Rural Tourism 10、Urban Tourism 11、Sex Tourism 12、Dark Tourism 13、Ethical Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト、参考文献	Smith, M.N.、 Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage. Robinson, P. ed. (2012) *Tourism the key concepts*. Routledge
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 40%　期末試験 40%

09 年度以降	英語専門講読 I （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこことする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献１－① 2　文献１－② 3　文献１－③ 4　文献２－① 5　文献２－② 6　文献２－③ 7　文献３－① 8　文献３－② 9　文献３－③ 10　文献４－① 11　文献４－② 12　文献４－③ 13　文献５－① 14　文献５－② 15　文献５－③

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト、参考文献	課題文献のプリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 4 回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこことする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　文献６－① 2　文献６－② 3　文献６－③ 4　文献７－① 5　文献７－② 6　文献７－③ 7　文献８－① 8　文献８－② 9　文献８－③ 10　文献９－① 11　文献９－② 12　文献９－③ 13　文献１０－① 14　文献１０－② 15　文献１０－③

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）
テキスト、参考文献	課題文献のプリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が 4 回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。

09 年度以降	英語専門講読 I （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
変化が目まぐるしい状況の中で、「**詩を学ぶ**」ことは、時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、**詩を学ぶことも実用的**だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「**言葉の力」を体感**することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「**詩を学ぶ＝生き方を学ぶ**」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージがあるとしたら、詩を一面的にみているのではないでしょうか。詩は、案外、もっと生活に密接しているものだと思います。（↓に続きます。）	1.　講義の概要 2.　履修確定の学生との確認、グループ＆担当箇所の決定、講義 3-4.　オーストラリアの歴史①② 5-6.　アボリジニの歴史①② 7-8.　アボリジニの神話・伝説①② 9-10.　英訳されたアボリジニの詩①② 11-14. 英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15.　講義のまとめ **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	英語専門講読 II （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
（↑からの続きです） 「**オーストラリアを学ぶ**」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。現在でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないでしょうか。 また、比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。） 講義目的をまとめて書くと、「**言葉の力を体感する**」「**オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す**」「**オーストラリアを通して己を考える**」また、発表形式の授業ですので「**自分の言葉で考え、語る**」ことになります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「**自分の意見を他人に正確に伝える**」ことも学んでほしい大事なことです。 それでは、熱意ある方、楽しみにお待ちしております！	春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。 春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。 1.　講義の概要 2～14. オーストラリアの詩、精読 15. 講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	英語専門講読 I （認知英文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、英語の読解力を高めることと英文法についての理解を深めることである。使用するテキストは、認知言語学の考え方に基づく英文法の書である。 授業では、下記のテキストの第1章“Categories in thought and language”を読んでゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. Overview 3. Categories and their internal structure 1 4. Categories and their internal structure 2 5. Categories and their internal structure 3 6. Conceptual groupings of categories 1 7. Conceptual groupings of categories 2 8. Conceptual groupings of categories 3 9. Category extension 1 10. Category extension 2 11. Category extension 3 12. Summary 1 13. Summary 2 14. 春学期のまとめ 15. 春学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。
テキスト、参考文献	Radden, Günter and René Dirven (2007) *Cognitive English Grammar*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読 II （認知英文法）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、英語の読解力を高めることと英文法についての理解を深めることである。使用するテキストは、認知言語学の考え方に基づく英文法の書である。 授業では、下記のテキストの第2章“Cognitive operations in thought and language”を読んでゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. Overview 3. Construals 1 4. Construals 2 5. Construals 3 6. Construals 4 7. Construals 5 8. Mental spaces 1 9. Mental spaces 2 10. Inferences 1 11. Inferences 2 12. Summary 1 13. Summary 2 14. 秋学期のまとめ 15. 秋学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。
テキスト、参考文献	Radden, Günter and René Dirven (2007) *Cognitive English Grammar*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読 I （Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the spring semester include: internationalisation of the student experience ‘at home’; paradigms of qualitative and quantitative research; the place of the literature in qualitative research; pros and cons of interviewing; writing a research proposal; and ethics in human research. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with ‘the other’.	1. Introduction to course: ‘Why can’t we become friends?’ 2. Internationalisation of the student experience ‘at home’ 3. Qualitative and quantitative research 4. ‘Us’ and ‘them’ separatism in the classroom 5. The use of the literature in qualitative research 6. Friendship networks of university students 7. Research interviewing: Pros and cons 8. Intercultural relationships 1: Critical incidents 9. Writing a research proposal 10. Intercultural relationships 2: A longitudinal approach 11. Ethics in human research 12. Intercultural friendship formation 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000語程度の英文資料を読み、200語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including a group research presentation.
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

09 年度以降	英語専門講読 II （Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to *conduct a small research project* on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the fall semester include: keeping a research diary; interview variations; conducting an interview; transcribing an interview; data analysis; and writing up. This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with ‘the other’.	1. Introduction to course 2. Keeping a research diary 3. Interview variations 4. Conducting an interview 5. Transcribing an interview 6. Using the literature 1 7. Using the literature 2 8. Data analysis 9. Using the literature 3 10. Writing up 11. Using the literature 4 12. Tutorial 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up 【受講生は毎週の課題として、5,000語程度の英文資料を読み、200語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including a group research presentation.
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%

09 年度以降	英語専門講読 I （国境を越えるアジアの女性の移住労働）（金１）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アジアの女性の移住労働について英語の文献を通して理解してゆく。特に女性が移住労働をする際の特徴、女性ならではの家庭や子どもの問題についても考えてゆく。またアジアの女性をめぐる国際関係、政治・経済、開発などを勉強・理解するために不可欠な社会科学的な知識や考え方を身につける。さらに、英語でのプレゼンテーション・スキルを身につけていきます。したがって、授業では単に訳す作業に追われるだけでなく、内容理解も重視しながら資料を読み進めます。 授業は、学生が中心になってプレゼンテーションをし、それに対して内容のチェックや、質疑応答、討論をしていきたいと思います。テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。この授業は春・秋継続して専門用語と内容、考え方について慣れて行ってほしいと思います。	1. ガイダンス　授業の方法と担当者を決める 2. 女性の移移住働についての講義（堀） 3-15. 学生のプレゼンテーション、内容チェック、質疑応答、討論など

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は次回行う部分を訳して、わからないことは調べる。復習はプレゼンテーションの資料の振り返り
テキスト、参考文献	Parrenas, Thacel Salzar, *Servants of Globalization: Women, Migration and Domestic Work, Stanford Calif: Stanford Univ Press*,2001.ほか
評価方法	プレゼンテーションの内容 40%、授業に積極的に参加し、発言したか 30%、課題の提出 30%

09 年度以降	英語専門講読 II （国境を越えるアジアの女性の移住労働）（金１）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、女性の移住労働について資料を読んでいきます。できうれば、英語でコンテンツをより深く理解できるようになるといいと思います。 また、秋学期はバングラディシュの女性がイギリスに行ってどうなったのか、一方で国内の縫製工場にとどまった女性たちの生き方はどうかわったのか、生き方の選択について詳しいエスノグラフィーを読みながら、アジアの女性の移住労働と、社会のジェンダー規範の変容について考えていきたいと思います。	1. ガイダンス　授業の方法と担当者を決める 2-15. 学生のプレゼンテーション、内容チェック、質疑応答、討論など

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習は次回行う部分を訳して、わからないことは調べる。復習はプレゼンテーションの資料の振り返り
テキスト、参考文献	Kabeer, Naila, *Power to choose:Bangladeshi women and labour market decisions in London and Dhaka*, Verso,2002.　ほか
評価方法	プレゼンテーションの内容 40%、授業に積極的に参加し、発言したか 30%、課題の提出 30%

09 年度以降	英語専門講読 I （Virginia Woolf を読む）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】イギリスの小説家Virginia Woolf (1882-1941) は、モダニズム文学の書き手としても、フェミニズムの理論家としても知られています。その文章はみずみずしく、作品には知的な仕掛けが凝らされています。でも、英語が「みずみずしい」とはどんなことでしょうか。「知的な仕掛け」とは？　この講義ではそんな疑問を考えつつ、Woolf の作品を読みこなすことを目指します。そうすることで、英文からただ情報を取ってくるだけではなく、深い読み取りができるようにトレーニングします。 【講義概要】Woolf の代表作は複数ありますが、「I」では中期の代表作、「II」では遺作を読みます。どちらも戦前から戦争へといたる社会が、ある一日に凝縮して象徴的に書かれているという点で共通しており、いま、先行きのわからない激変の時代を生きているわたしたちに（下へ続く）	１．イントロダクション ２～１３．To the Lighthouse 抜粋の精読 １４～１５．まとめ ＊ To the Lighthouse は、1927年に発表された小説で、第一次世界大戦以前の一日が描かれ、そのあと戦中／戦後の変化が示されています。原文はGoogleなどで「To the Lighthouse full text」などと検索すれば見ることができるので、参考にしてください。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：英文を精読し、プリントをやってきてください。 事後：プリントを見返しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布します。 参考文献：ウルフ『灯台へ』御輿哲也訳（岩波文庫, 2002）　＊既訳は複数あります。
評価方法	プリント４割、発言毎の加点４割、試験２割 ＊ただし欠席が授業回数の 1/3 を越える場合、授業評価の対象としません。

09 年度以降	英語専門講読 II （Virginia Woolf を読む）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
（上から続き）語りかけてくれるものが多いにありそうです。 毎回A4で１～２枚のプリントを事前に配るので、英文を精読して問いに答えてきてください。文法を考えたり、単語のニュアンスを検討したり、授業中のディスカッションに備えて答えを用意したりします。 その上で、授業では、プリントをもとに答えを確認しあい、考えたこと、思いついたことを積極的に発言してもらいます。文学作品は正解がないもの。ある程度の精度で英文が読み込めたなら、その先の解釈は自由で、自分に引きつけるなどしてオリジナルな解釈をしたほうがむしろ楽しめるというものです。担当者のほうでも従来の解釈にはこういうものがあると紹介をしますが、それにとどまらず、受講者みんなで新しい解釈を探りましょう。	１．イントロダクション ２～１３．Between the Acts 抜粋の精読 １４～１５．まとめ ＊ Between the Acts は、Woolfの死後の1941年に出版された小説で、第二次世界大戦の最中に書かれたもの。1939年、いまにも戦争が始まるかという国際情勢の中で、ある村で野外劇が行われる……という話です。こちらも「Between the Acts full text」などでインターネット上に原文が出てきます。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：英文を精読し、プリントをやってきてください。 事後：プリントを見返しておいてください。
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布します。 参考文献：ウルフ『幕間』外山弥生訳（みすず書房, 1977）
評価方法	プリント４割、発言毎の加点４割、試験２割 ＊ただし欠席が授業回数の 1/3 を越える場合、授業評価の対象としません。

09 年度以降	英語専門講読 I （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
インコタームズ®（Incoterms®）とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、実践的な貿易実務のスキルを身につけることを目的とします。春学期は、Incoterms®2000が規定する４類型・１３条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲（価格の構成要素）、危険負担の分岐点（貨物の引渡し場所）、適用可能な運送手段などの点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練を行います。また、特に米国との貿易で混乱を生じやすい「改正米国貿易定義」の貿易条件についても学習する機会をもうけます。	1.　授業内容および授業計画の説明 2.　Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件の概略 3.　E 類型（出荷地条件）の概略 4.　F 類型（主要運賃買主負担条件）の概略 5-6.　F 類例の各貿易条件（FAS、FOB、FCA） 7.　C 類型（主要運賃込み条件）の概略 8-9.　C 類型の各貿易条件（CFR、CIF、CPT、CIP） 10.　D 類型（到着条件）の概略 11.　類型の各貿易条件（DAF、DES、DEQ、DDU、DDP） 12.　改正米国貿易定義(1941)と Incoterms®2000 の比較 13.　主要貿易条件を用いた輸出価格の積算訓練 14.　主要貿易条件を用いた輸入価格の積算訓練 15.　総復習および質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト、参考文献	Catherine J. Petersen (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review* , Global Training Center および配布プリント
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語専門講読 II （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
（上欄から続く） 秋学期は、Incoterms®2010 が規定する 2 分類・１１条件について、Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各々の貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス（logistics）の観点から自社に有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。 この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの業界への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。くれぐれも熟慮して履修の決定をして下さい。	1.　秋学期の授業内容および授業計画の説明 2.　Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点 3.　Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略 4-7.　「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件（EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP）の詳細 8-10.　「海上および内陸水路輸送のための」4 条件（FAS, FOB, CFR, CIF）の詳細 11-12.　各貿易条件の売主側および買主側からみた長所と短所の検討 13.　貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討 14.　国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討 15.　秋学期の総復習および質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト、参考文献	Catherine J. Petersen (2011); *Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review* , Global Training Center および配布プリント
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ･オーエルの小説 Nineteen Eighty-four（1948年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ･ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は３つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。受講生と共に、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。 **受講を希望する学生は初回の授業に必ず出席すること。**	初回の授業はイントロダクション、その後は１５回目まで、毎回講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。 学期末課題を課す。 第１回　イントロダクション 第２回～１５回 上記の授業内容を毎回行う

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト、参考文献	George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*. Penguin.
評価方法	授業参加　４０％　期末課題　６０％　欠席が５回を越えると原則として単位は取れない。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き。	春学期に同じ。ただし初回から平常の講読を行う。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。
テキスト、参考文献	George Orwell, Nineteen Eighty-Four. Penguin.
評価方法	授業参加　４０％　期末課題　６０％　欠席が５回を越えると原則として単位は取れない。

09 年度以降	英語専門講読 I （Conflict and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、 1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます。 2. 主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。 授業の流れは以下のとおりです。プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチ。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等 2. Introduction 3. The evolution of development theory 4. The evolution of conflict theory 5. Poverty, profit and the political economy of conflict 6. Poverty, profit and the political economy of conflict 7. Poverty, profit and the political economy of conflict 8. Institutions: hardware and software 1 9. Institutions: hardware and software 2 10. Institutions: hardware and software 3 11. People: participation, civil society & gender 1 12. People: participation, civil society & gender 2 13. People: participation, civil society & gender 3 14. 課題スピーチ 15. Review of the studied chapters

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。
テキスト、参考文献	*Conflict and Development*（Routledge Perspective on Development) Mac Ginty &Roger, Routledge, 2016。詳細については、最初の授業で説明します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度８５％。課題スピーチ１５%。

09 年度以降	英語専門講読 II （Conflict and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、 1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます 2. 主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。 授業の流れは以下のとおりです。プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチ。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等 2. Conflict transformation & development 1 3. Conflict transformation & development 2 4. Conflict transformation & development 3 5. Post-conflict reconstruction, democratization 1 6. Post-conflict reconstruction, democratization 2 7. Post-conflict reconstruction, democratization 3 8. Development, aid & violent conflict 1 9. Development, aid & violent conflict 2 10. Development, aid & violent conflict 3 11. Conclusion 1 12. Conclusion 2 13. Review of the studied chapters 14. 課題スピーチ 15. １年間の講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。
テキスト、参考文献	*Conflict and Development*（Routledge Perspective on Development) Mac Ginty &Roger, Routledge, 2016。詳細については、最初の授業で説明します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度８５％。課題スピーチ１５%。

09 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、B. L. ウォーフ（Benjamin Lee Whorf）の言う「好まれる言い回し」（“fashions of speaking”）という観点から英語と日本語を比較対照し、両者の間に存在する共通点と相違点を捉える枠組みを構築することを目指すものである。 その足がかりとして、英語と日本語の異同に関する多くのデータを取り上げることになるが、これらを個々に覚えることそのものが目的ではないことに注意されたい。一見したところ無秩序にも思えるデータの背後に、法則ないし傾向を見てとる目を養うことが目的である。 そのような理解の仕方をして初めて、表現のレベルでも流暢な英語を身につけられるであろうし、多くの者にとっての母語である日本語への自覚も芽生えることであろう。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 好まれる言い回し（“fashions of speaking”） 3. 人間中心 対 状況中心 4. 人間の全体 対 人間の一部 5. 所有表現 対 存在表現 6. 移動表現 対 推移表現 7. 知覚表現 対 存在表現 8. 他動詞構文 対 自動詞構文 9. 受動構文 対 自動詞構文 10. 個体への注目 対 状況全体への注目 11. 結果志向 対 過程志向 12. 「する」的言語 対 「なる」的言語 13. 客観的把握 対 主観的把握 14. 公的自己 対 私的自己 15. まとめ

到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。
テキスト、参考文献	授業は板書や配布資料による。
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
受講者はTOEIC®900点以上の取得者からplay guitarとplay the guitarの使い分けのできない人までさまざまいますが、受講者には教諭免許取得希望者がかなりいることから、授業の狙いは、（認知）言語学の最近の研究成果を踏まえ、英語の母語話者(native speakers)が頭の中に収めている英語の仕組の本当の姿がどのようなものかを探り、それを「なるほど！」と理屈から理解できるようしっかり身につけてもらうことにあります。 ということで授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「なるほど！」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。したがって、この授業を受ければ、I {will/am going to} be 20 next monthの違いや、angryがwithを取ってもtoを取らないけれどkindは逆にtoを取ってもwithは取らないことや、play tennisとplay at tennisの使い分けもできるようになります。	1. モノの捉え方と表現の仕方 2. 前置詞の意味 3. 不定冠詞 vs. はだか名詞 4. 英語と日本語の情報構造 5. 情報の新旧と冠詞 6. 自動詞構文と他動詞構文 7. BE 受動文の使い方 8. GET 受身と BE 受身･動詞的受身と形容詞的受身 9. 再帰代名詞の使い方 10. 動詞の意味と構文（結果構文） 11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文･ほか） 12. 否定の意味 13. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） 14. 助動詞の使い方 15. 存在を表すthere構文とはだか存在文

到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを 2 回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。
テキスト、参考文献	プリントをグーグルドライブからダウンロードする。 なお、授業前には必ずツイッターsemantics@gamba_dokkyo を見てください。
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。 詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明されるか、上のツイッターで告知されます。

09 年度以降	観光英語 I	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
国際化の時代、海外に旅行したり滞在したりしている日本人、海外から来日する外国人の数も急激に増えています。この講義では、将来観光業、旅行業、エアライン業、ホテルレストラン業などの各種業界で自分の語学力、特に英語を使って活躍を考えている人を対象としています。このような業界では、英語の一般的能力ばかりでなく、その業界の専門用語や独特の言い回しを身につけなければなりません。そこで、この講義では主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」の2級合格の実力を目指します。 観光英語 I では、海外の世界遺産や観光地の話題を取り上げて、旅行と観光の分野に関する用語や表現を学びながら、文化の違いなども研究することを目標とします。また、観光に関する最新のニュースがある場合は、授業の中に随時取り入れていきます。	1. Orientation 2. 観光英語検定試験2級の問題研究(1) 3. 観光英語検定試験2級の問題研究(2) 4. ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究(1) 5. 通常授業＋小テスト(30分) 6. ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究(2) 7. ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究(3) 8. 北米・南米の世界遺産や観光地の研究(1) 9. 北米・南米の世界遺産や観光地の研究(2) 10. 通常授業＋小テスト(30分) 11. 北米・南米の世界遺産や観光地の研究(3) 12. アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究(1) 13. アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究(2) 14. アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究(3) 15. 春学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト、参考文献	テキスト：なし　参考文献：観光英検や通訳ガイドに関する語彙集や問題集（研究社、三修社など）
評価方法	定期試験(50%)、課題・小テスト(40%)、授業貢献度(10%)

09 年度以降	観光英語Ⅱ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
2019年のラグビーワールドカップ､2020年の東京オリンピックの開催、日本への外国人訪問客数2000万人突破という話題は、少子化による日本経済の先細りが心配されている中、観光業の波及効果への期待はとても大きなものになっています。来日する外国人旅行者は、もちろんいろいろな言葉を使いますが、英語のグローバル性を考慮すれば、英語がその中心的な役割を果たしていることは間違いありません。そこで、この講義では、主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」の1級合格の実力を目指します。 観光英語Ⅱでは、国内の自然景観、文化遺産、伝統工芸、行事、祭りなどに加えて、日本の文化・観光・産業に貢献してくれた歴史上の人物も取り上げます。また、観光に関する最新のニュースがある場合は、授業の中に随時取り入れていきます。	1. Orientation 2. 観光英語検定試験1級の問題研究(1) 3. 観光英語検定試験1級の問題研究(2) 4. 国内の観光・文化・歴史に関する問題(1) 5. 通常授業＋小テスト(30分) 6. 国内の観光・文化・歴史に関する問題(2) 7. 国内の観光・文化・歴史に関する問題(3) 8. 英語での日本観光名所案内(1) 9. 英語での日本観光名所案内(2) 10. 通常授業＋小テスト(30分) 11. 英語による国内の行事・祭りの紹介(1) 12. 英語による国内の行事・祭りの紹介(2) 13. 日本の文化・観光・産業に貢献した外国人(1) 14. 日本の文化・観光・産業に貢献した外国人(2) 15. 秋学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト、参考文献	テキスト：なし　参考文献：観光英検や通訳ガイドに関する語彙集や問題集（研究社、三修社など）
評価方法	定期試験(50%)、課題・小テスト(40%)、授業貢献度(10%)

09 年度以降	通訳案内士の英語 I	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
【授業のテーマ】 通常通訳ガイドとして最低限求められる読解力、説明力、語彙力等、口述力以外の総合的な語学能力を身につけることを目的とし、具体的には通訳案内士試験の第一次試験の合格を目指すことを目標とする。 第１次試験の出題に沿い、その受験対策となるような実践的学習を行う。 【授業の概要】 明確な目標の下、問題演習を多くこなしてゆく。また集中的訓練を中心とした Pair-work, Group-work の形式で柔軟な対応を身につける相互訓練、及び Communication 訓練を行う。	第１回：ガイダンス 第２回：Orientation （出席者の異文化体験･外国旅行体験等々調査を含む） 第３回：実際の通訳案内士試験問題に取り組む 第４回：必要とされる英語レベルの確認を行いながら、 自己の英語総合力を認識させる 第５回：幅広い理解力運用力涵養のため、 様々な英語（各国の訛・特徴）を知る 第６回：Speakingの訓練方法を紹介実践 第７回：Listeningの訓練方法を紹介実践 第８回：Writingの訓練方法の紹介実践 第９回：Extensive/Intensive Readingの紹介実践 第10回：模擬通訳案内士試験問題取り組み 第11回：英字新聞を利用し、時事問題について 簡潔に伝える練習を行う 第12回：映画を利用して名場面を英語で紹介する練習を行う 第13回：日本の名所旧跡を選び印象的に紹介する練習をする 第14回：日本一週のガイドに挑戦 第15回：まとめ

到達目標	中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に習得し、通訳案内士として実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：通訳案内士の試験問題を通覧する。 事後学修：授業で学んだ表現・語彙の復習をする。
テキスト、参考文献	テキスト：なし　参考書：『英語で読む日本史』講談社、 『翻訳力練成テキストブック』日外アソシエーツ、『学生の、学生による、学生のための和英辞書』新翠舎
評価方法	授業内活動 30%　課題 20%　試験 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	通訳案内士の英語Ⅱ	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
【授業のテーマ】 「通訳案内士の英語 I」の続きの授業であるが、「通訳案内士の英語 I」で目標とした英語力に加え、通訳案内士の第２次口述試験を合格するのに必要な実践的コミュニケーション能力の訓練を行う。 【概要】 「通訳案内士の英語 I」の授業の方式を踏襲しつつ、更に高度な応用能力を涵養すべく、擬似口述試験の練習を定期的に取り入れる。クラス内でゲストを招き実際の通訳案内の体験を行う。	第１回：ガイダンス 第２回：Orientation （通訳案内士の英語 I で身につけた総合力の確認） 第３回：Project（観光案内の計画）大テーマ策定 第４回：各グループに分かれ、テーマを絞り、観光計画策定 第５回：各グループで調査･演習活動（１）具体的計画策定 第６回：各グループで調査･演習活動（２） 計画実行及び反省・検討 第７回：各グループ発表（審査･検討会） 第８回：新しいテーマと新しいグループによる観光案内計画策定 第９回：各グループで調査･演習活動（１） 前回の計画・実行の反省・検討を基に計画策定 第10回：各グループで調査･演習活動（２） 計画実行及び反省・検討 第11回：各グループ発表（審査･検討会） 第12回：模擬試験 第13回：模擬試験検討会 第14回：各人による観光案内計画発表 第15回：まとめ

到達目標	「通訳案内士の英語Ⅱ」の学習成果のうえに、中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に向上させ、通訳案内士試験の第２次口述試験を合格するのに必要な、実践的なコミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：通訳案内士の試験問題を通覧する。 事後学修：授業で学んだ表現・語彙の復習をする。
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考書：*Communicating with the Japanese*　J.V.Neustupny　The Japan Times
評価方法	授業内活動 30%　課題 20%　試験 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では本格的なビジネスレターの書き方を分かり易く解説して指導します。外資系企業、航空業界、国際物流業界、製造業の輸出入担当部門、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を駆使して活躍したい学生を対象に講義を進めて行きます。業務遂行に役立つ実践的な講義であり且つアカデミックな講義を目指します。 具体的には英文貿易の基本について教科書を使用して取引関係の成立・履行・求償・解決までを講義し同時に英文ビジネスレターの書き方を指導します。また外資系企業への就職活動や外国の大学・大学院入学に必要な履歴書と表紙の書き方も指導します。 English for BusinessとBusiness Writingを併せて履修すれば実業界でも十分に通用するBusiness Englishを総合的に学習することになります。	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　ビジネスレターの形式&練習問題 ３．　効果的なビジネスレターの書き方（１）&同上 ４．　同上（２）&同上 ５．　取引の申し込み&同上 ６．　申し込みに対する応答&同上 ７．　引き合い（具体的な問い合わせ）&同上 ８．　中間試験と復習 ９．　オファー（売り手からの申し込み）&同上 １０．オファーに対する応答&練習問題 １１．信用状&同上 １２．積み出し&同上 １３．クレーム申し出&同上 １４．クレームに対する応答&同上 １５．まとめ

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎著　「Business Writing―英文ビジネスレター入門」（金星堂：2007 年・2011 年重版）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では本格的なビジネスレターの書き方を分かり易く解説して指導します。外資系企業、航空業界、国際物流業界、製造業の輸出入担当部門、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を駆使して活躍したい学生を対象に講義を進めて行きます。業務遂行に役立つ実践的な講義であり且つアカデミックな講義を目指します。 具体的には英文貿易の基本について教科書を使用して取引関係の成立・履行・求償・解決までを講義し同時に英文ビジネスレターの書き方を指導します。また外資系企業への就職活動や外国の大学・大学院入学に必要な履歴書と表紙の書き方も指導します。 English for BusinessとBusiness Writingを併せて履修すれば実業界でも十分に通用するBusiness Englishを総合的に学習することになります。	１．　講義概要（詳細は各担当教員が説明します） ２．　ビジネスレターの形式&練習問題 ３．　効果的なビジネスレターの書き方（１）&同上 ４．　同上（２）&同上 ５．　取引の申し込み&同上 ６．　申し込みに対する応答&同上 ７．　引き合い（具体的な問い合わせ）&同上 ８．　中間試験と復習 ９．　オファー（売り手からの申し込み）&同上 １０．オファーに対する応答&練習問題 １１．信用状&同上 １２．積み出し&同上 １３．クレーム申し出&同上 １４．クレームに対する応答&同上 １５．まとめ

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎著　「Business Writing―英文ビジネスレター入門」（金星堂：2007 年・2011 年重版）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research)（月 4） Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research 3. Deciding on a topic 4. Sourcing Information 5. Developing a Project 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus 8. Introductions and Conclusions 9. Avoiding Plagiarism 10. Writing a bibliography 11. Giving Critical Feedback 12. Preparing for Presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Longer term research projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research)（月 4） Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research 3. Deciding on a topic 4. Sourcing Information 5. Developing a Project 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus 8. Introductions and Conclusions 9. Avoiding Plagiarism 10. Writing a bibliography 11. Giving Critical Feedback 12. Preparing for Presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Longer term research projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.	1. Introduction to the course 2. Workshop – what is academic writing? 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic -mid-term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources -topic for the final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments by the deadlines and revise them.
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the instructor
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 50%

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.	1. Introduction to the course 2. Workshop – what is academic writing? 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic -mid-term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources -topic for the final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments and revise them.
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 50%

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace. We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations. By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment. We will do half the material in the book in the spring term.	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Mergers: writing a press release 5. Meetings: writing a memo 6. Technology: writing a formal email 7. Negotiating: writing a letter 8. Review and writing a report 9. Investment: writing a letter 10. Company finance: writing a recommendation letter 11. Banking: writing a policy choice letter 12. Consulting: writing a formal email 13. Business quiz and writing a report 14. Review 15. Feedback

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト、参考文献	Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate by Tonya Trappe and Graham Tullis, published by Pearson. ISBN: 978-1-4082-5601-5
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are the same as in the spring course and the procedures largely similar. It will in effect be a parallel course using the materials not used in the spring. For anyone wanting to do a whole year they can get extensive practice without repeating the same material.	1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Projects: writing an informal email 5. Information: writing a letter 6. Advertising: writing a fax 7. Brands: writing a formal email 8. Review and writing a report 9. Energy: writing an email 10. Competition: writing a press release 11. Company training: writing an email 12. Review and writing a report 13. Business quiz 14. Review 15. Feedback

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト、参考文献	Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate by Tonya Trappe and Graham Tullis, published by Pearson. ISBN: 978-1-4082-5601-5
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively. The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.	1. Introductions and course outline 2. Getting to know you - conversation activities 3. Writing and you. The creative process. 4. Creative space. 5. Narratives. 6. Forms of creative writing. 7. Workshop - peer review. 8. Aspects of genre. 9. The creative process 2. 10. Workshop - peer review. 11. Building ideas. 12. First draft peer review. 13. Second draft peer review. 14. Final portfolio submission and course review. 15. Exam period.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research)（水３） Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research 3. Deciding on a topic 4. Sourcing Information 5. Developing a Project 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus 8. Introductions and Conclusions 9. Avoiding Plagiarism 10. Writing a bibliography 11. Giving Critical Feedback 12. Preparing for Presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Longer term research projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research)（水３） Academic Writing	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research 3. Deciding on a topic 4. Sourcing Information 5. Developing a Project 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus 8. Introductions and Conclusions 9. Avoiding Plagiarism 10. Writing a bibliography 11. Giving Critical Feedback 12. Preparing for Presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Longer term research projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) *Basic Steps to Writing Research Papers,* Cengage Learning K.K
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Creative） Academic Writing	担当者	Ｊ．ハレスキ

講義目的、講義概要	授業計画
This course addresses the craft of writing poetry and methods of creative engagement. We will explore multiple forms of poetry from free verse to sonnets. We will read the work of modern and contemporary poets in tandem with generating our own poems. Students are asked to read assigned material from the perspective of a writer. Classes will include writing exercises, discussions of assigned reading, and peer feedback writing workshops.	1. Introduction 2. In-class writing activity 3. Read around, workshop group 1 4. Read around, workshop group 2 5. Read around, workshop group 1 6. Read around, workshop group 2 7. Read around, workshop group 1, journal meeting. 8. Read around, workshop group 2 9. Read around, workshop group 1 10. Read around, workshop group 2 11. Read around, workshop group 1 12. Read around, workshop group 2 13. Read around, workshop group 1 14. Read around, workshop group 2 15. Class reading, journal meeting.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Each week, students are required to read poetry, write 300 words in their creative writing journal and bring a draft of a new poem to class.
テキスト、参考文献	Students will refer to online poetry archives of the Poetry Foundation (https://www.poetryfoundation.org/) and the Academy of American poets (https://www.poets.org/)
評価方法	Contributions to in-class discussion (25%), Weekly assignments (25%), Poems submitted in final portfolio (25%), Creative Writing journal (25%)

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of the Research Writing course is to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses to write academic essays by enhancing critical reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revision will be emphasized. APA style will be used.	1. Course Introduction 2. Paragraph /Essay Review 3. Introduction to research essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Draft writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using citations 9. Draft Writing and Revision 10. The Reference Page 11. Draft Writing and Revision 12. Draft Writing and Revision 13. Draft Writing and Revision 14. Research Essay due 15. Course Wrap-up

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of steps to Research Writing
テキスト、参考文献	*Academic Writing Skills,* Book 3, Chin, Peter, *et al.,* Cambridge, 2013
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of the Research Writing course is to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses to write academic essays by enhancing critical reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revision will be emphasized. APA style will be used.	1. Course Introduction 2. Paragraph /Essay Review 3. Introduction to research essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Draft writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using citations 9. Draft Writing and Revision 10. The Reference Page 11. Draft Writing and Revision 12. Draft Writing and Revision 13. Draft Writing and Revision 14. Research Essay due 15. Course Wrap-up

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing
テキスト、参考文献	*Academic Writing Skills,* Book 3, Chin, Peter, *et al.,* Cambridge, 2013
評価方法	Classwork, Homework, and Essays

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1 Course introduction / review of the basics 2 Essay 1 select topic / general v specific information 3 Introduction & conclusion technique 4 Introduction to internet research (part 1) 5 How to write the body / referencing 6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7 Editing essay 1 draft 8 Internet research (part2) / essay 1 final due 9 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10 How to write an essay plan page in note style 11 How to write a bibliography 12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13 Editing essay 2 draft 14 Essay 2 final due / problem areas discussion 15 Essay 2 - collect essay / man-to man : final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト、参考文献	No textbook . All materials provided by the teacher. Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1 Course introduction / review of the basics 2 Essay 1 select topic / general v specific information 3 Introduction & conclusion technique 4 Introduction to internet research (part 1) 5 How to write the body / referencing 6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7 Editing essay 1 draft 8 Internet research (part2) / essay 1 final due 9 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10 How to write an essay plan page in note style 11 How to write a bibliography 12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13 Editing essay 2 draft 14 Essay 2 final due / problem areas discussion 15 Essay 2 - collect essay / man-to man : final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments
テキスト、参考文献	No textbook . All materials provided by the teacher. Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト、参考文献	No textbook is required
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class
テキスト、参考文献	No textbook is required
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。 授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。 また、履修人数にもよりますが、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。	第 1 回　ガイダンス　辞書について 第 2 回　翻訳の難しさと面白さについて 第 3 回　機械翻訳の可能性について 第 4 回　翻訳の実例比較検討 第 5 回　復習テスト 第 6～8 回　翻訳テキスト分析と発表内容チェック 第 9~14 回　学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第 15 回 まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。 授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第 1 回　前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第 2 回　日英および英日翻訳の実例検討　その１ 第 3 回　日英および英日翻訳の実例検討　その２ 第 4～5 回 翻訳テキスト分析および発表のテーマ設定検討 第 6 回　復習テストと発表内容確認 第 7～9 回　翻訳テキスト分析および発表内容チェック 第 10~14 回 学生による翻訳プレゼンテーションおよびディスカッション 第 15 回 まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント２０％、プレゼンテーション２０％、翻訳実習３０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	翻訳 I	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが､「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。 問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。 受講生に求める英語力のレベルは、たとえばGuardian紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。(時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません）そこに達していない方は､「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。	＊授業はひとつの教材について次の流れで行います。 教材の紹介（授業1）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題1）→不明点を解決する（授業2）→訳了＋提出（課題2）→添削返却＋解説（授業3)。 *ひとつの教材について3回の授業で完了となります。3回目以降は、上記の(授業１)、(授業2)、(授業3）の三つのプロセスが同時進行します。 ＊紙幅の都合によりここに提示できない詳細については、1回目の授業で説明します。 ＿＿＿＿＿＿15回の授業は以下のとおり＿＿＿＿＿ 1.導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材１の紹介 2～15. 様々な性質のテクスト（ニュース、使用説明書、学術書、短編小説など）を教材としてとりあげ、徹底した読解と訳文解説を行います。

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	実際に読み、翻訳に取り組む授業ですので、事前学習が必須です。また翻訳力をつけるには、授業後にポータルに掲載されるモデル文などを使い復習してください。
テキスト、参考文献	ハンドアウトを用意します。
評価方法	授業への貢献　20%、課題の総合　80%

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいだけではなく、作品自体を味わい、文化的背景まで読み込む必要があります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。 授業では、積極的な参加と発言が求められます。主に短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループまたはペアで発表します。共訳づくりを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　演習 3　演習 4　演習 5　演習 6　演習 7　演習 8　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15　演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳（1～2 ページ）を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。
テキスト、参考文献	課題文は授業で配布。参考文献: Robert Shapard, James Thomas 編 *New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond* Norton (2007 年)
評価方法	課題・授業参加度（50%）、レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいだけではなく、作品自体を味わい、文化的背景まで読み込む必要があります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。 授業では、積極的な参加と発言が求められます。主に短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループまたはペアで発表します。共訳づくりを楽しみましょう。	1　イントロダクション 2　演習 3　演習 4　演習 5　演習 6　演習 7　演習 8　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14　演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15　演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳（1～2 ページ）を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。
テキスト、参考文献	課題文は授業で配布。参考文献: Robert Shapard, James Thomas 編 *New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond* Norton (2007 年)
評価方法	課題・授業参加度（50%）、レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC®高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 51 番から 75 番を扱います。	１．翻訳という仕事① ２．イギリス人① ３．イギリス人② ４．イギリス人③ ５．イギリス人④ ６．中年の思いごと ７．目の見える有難さ ８．機械と人間 ９．忘れっぽさ 10．友情論 11．幸福論 12．外国語を学ぶ効用① 13．外国語を学ぶ効用② 14．日本人論 15．翻訳のための文法① ＊各回、他に1題を扱います

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC®高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋学期は 76 番から 100 番を扱います。	１．翻訳という仕事② ２．試練に立つ文明 ３．文体と内容 ４．技師の親指 ５．過激の効用 ６．正確さへのこだわり ７．独立独歩 ８．詩人の役割 ９．文化の伝達 10．孤独の楽しさ 11．若者への教訓 12．偏愛の危険 13．歴史の皮肉 14．自分なりの価値基準 15．翻訳のための文法② ＊各回とも上記ほか１編を扱う

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 今回から文章力練磨のため、市販の翻訳書の誤訳・悪訳部分を訂正する訓練を取り入れます。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限(木 4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	1．英語の規則　① 2．英語の規則　② 3．訳文校正　① 4．訳文校正　② 5．訳文校正　③ 6．児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ 7．児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ 8．子供百科「フクロウの目」 9．子供百科「恐竜」 10．子供百科「宇宙」 11．ミュージカル「オクラホマ」 12．詩「虹の歌」 13．小説「マダム・ロゼット」 14．歴史「トロイ戦争」 15．歴史「ミノタウロス」

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤読みやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600 ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の受講を期待します。 木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちた学生でも、意欲のある人は歓迎します。聴講を希望する方は相談して下さい。	1．辞書の引き方 2．小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」① 3．小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」② 4．スポーツ「1959年合衆国アマチュアチャンピオン」 5．美術「古代の芸術」 6．ゴルフ「ジャック・ニコラウス自伝」 7．ドキュメンタリー「生き残りし者」 8．科学「重力の問題」 9．造形「心の庭」 10．音楽「オーケストラを指揮する」 11．評伝「二都物語」 12．動物「人間と動物の絆」 13．歴史「そして水は引かなかった」 14．観光「コルシカへの招待」 15．アンドとカンマ

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと　事後：重要ポイントを復習し納得すること
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤読みやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水４）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.)newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14/15 Final Examination and Self-Evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水３）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, NatsumeSoseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors' works, and Japanese animated features(looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14/15 Final Examination and Self-evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳と英語学習で使われている英文和訳とは、大きく違います。翻訳はその違いをしっかりと認識することから始まります。この講義では目的に応じて等価の翻訳をするための枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけます。 講義概要 　パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 　テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英文和訳と翻訳とはどう違うのか。翻訳の心がまえを学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。 講義概要 　パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 　テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括、レポートの発表

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・Be動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義(前期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義(後期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be動詞の機能（１） 13・Be動詞の機能（２） 14・Be動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義(前期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC構文の下位区分（１） ６・SVOC構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義(後期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	College Grammar	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
英語力の基盤となる「文法力」を身につけることを目的としています。そのときに闇雲に文法用語や文法事項を暗記するのではなく、「なるほど」と理解をしながら身につけていくことで、英語という言語の仕組みだけではなく、英語を話している人たちがどのように物事を捉えているかまで理解することができるのです。難しいことばで言うと＜事態把握＞の仕方が日本語と英語を話す人では異なっているので、その相違を認知言語学的側面から解き明かすことが毎回の授業に通底した理念です。 授業は授業計画に従って、講義とグループワークを組み合わせて行っていきます。 なお、授業連絡はTwitter @kura_class　にて発信しています。	1. オリエンテーション 2. 日本語の訳語には限界がある 3. 似たもの「動詞」 4. 前置詞のコア 5. 現在形と現在進行形 6. 現在完了形と過去形 7. 英語には未来形はない 8. 助動詞の役割 9. 受動態のコア 10. 準動詞のコア 11. 文型のコア 12. 冠詞のコア 13. コアの応用力 14. 認知言語学と文法論 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業内で出される課題は次回に提出する。
テキスト、参考文献	テキスト：田中茂範・弓桁太平著『イメージでわかる表現英文法』（学研、2016 年） 参考文献：田中茂範著『わかるから使えるへ　表現英文法』（コスモピア、2017 年）
評価方法	定期試験　80 パーセント、授業内課題 20 パーセント

09 年度以降	College Grammar	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。英文法についてのこのような理解の仕方は、自ずと検定試験等の準備・対策にもなるはずである。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 場所扱いか道具扱いか 1 3. 場所扱いか道具扱いか 2 4. 自動詞＋前置詞は他動詞か 1 5. 自動詞＋前置詞は他動詞か 2 6. 〈道具〉はいつ主語になれるか 1 7. 〈道具〉はいつ主語になれるか 2 8. 再帰代名詞の不思議 1 9. 再帰代名詞の不思議 2 10. EAT ATはEATとどう違うのか 1 11. EAT ATはEATとどう違うのか 2 12. Mary hit John on the head.の構文 1 13. Mary hit John on the head.の構文 2 14. I did the book.＝「私はその本をした」？ 1 15. I did the book.＝「私はその本をした」？ 2

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。
テキスト、参考文献	中右実（1995-1998）「発見の英文法 連載 1～7」『高校英語展望』第 8 号～第 14 号．小学館・尚学図書.
評価方法	試験（100%）による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	College Grammar	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。英文法についてのこのような理解の仕方は、自ずと検定試験等の準備・対策にもなるはずである。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 「数の一致」はどのように決まるか 1 3. 「数の一致」はどのように決まるか 2 4. 絶対複数名詞trousersの不思議 1 5. 絶対複数名詞trousersの不思議 2 6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 1 7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 2 8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 3 9. 秤の変遷：scalesからscaleへの道 1 10. 秤の変遷：scalesからscaleへの道 2 11. なぜin a carなのにon a busなのか 1 12. なぜin a carなのにon a busなのか 2 13. なぜin a carなのにon a busなのか 3 14. なぜat nightというのにat dayとはいわないか 1 15. なぜat nightというのにat dayとはいわないか 2

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。
テキスト、参考文献	中右実（1998-2001）「発見の英文法 連載 8～20」『高校英語展望』第 15 号～第 20 号．小学館・尚学図書.
評価方法	試験（100%）による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学や認知言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。春学期は文の構成を中心として講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 文の構成(1)：文の種類、文と節の違い 3. 文の構成(2)：文の種類（続き）、文の形態と伝達内容 4. 文の構成(3)：文を構成する要素、品詞、文型 5. 動詞と時制(1)：動詞の分類、時と時制、相と時制 6. 動詞と時制(2)：時制各論（現在時制、過去時制） 7. 動詞と時制(3)：相各論（進行相、完了相） 8. 法助動詞(1)：2種類の法助動詞、その文法的特徴 9. 法助動詞(2)：法助動詞各論（用法上の違いなど） 10. 法助動詞(3)：法助動詞各論（続き） 11. 未来表現(1)：文法、表現形式、形式と意味 12. 未来表現(2)：形式と意味（続き） 13. 受動態(1)：「態」とは何か、受動態の文法的特徴など 14. 受動態(2)：過去分詞の性質、be受動文とget受動文 15. 春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト、参考文献	テキスト：水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。
評価方法	定期試験（90%）に、授業への取り組みなど（10%）を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心として講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、文構成の上で重要となる個別要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 仮定法(1)：「法」とは何か、直説法と仮定法 3. 仮定法(2)：直説法と仮定法（続き）、仮定法の特徴 4. 仮定法(3)：仮定法とshould、注意すべき語法など 5. 節構造(1)：節の種類、句と節の違い、節の機能 6. 節構造(2)：節の機能（続き）、その注意点など 7. 節構造(3)：動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴 8. 節構造(4)：動詞・形容詞に続く節形式の特徴（続き） 9. 関係節(1)：関係節の文法的特徴、関係代名詞の特徴 10. 関係節(2)：関係形容詞・副詞の特徴、自由関係詞など 11. 関係節(3)：不定関係節の特徴、強調構文の特徴 12. 比較構文(1)：「比較」とは、比較の文法的特徴 13. 比較構文(2)：比較級・最上級の特徴、絶対比較など 14. 否定：否定の種類、否定の作用域、否定の注意点など 15. 秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト、参考文献	テキスト：水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。
評価方法	定期試験（90%）に、授業への取り組みなど（10%）を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水５）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学や認知言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。春学期は文の構成を中心として講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 文の構成(1)：文の種類、文と節の違い 3. 文の構成(2)：文の種類（続き）、文の形態と伝達内容 4. 文の構成(3)：文を構成する要素、品詞、文型 5. 動詞と時制(1)：動詞の分類、時と時制、相と時制 6. 動詞と時制(2)：時制各論（現在時制、過去時制） 7. 動詞と時制(3)：相各論（進行相、完了相） 8. 法助動詞(1)：2種類の法助動詞、その文法的特徴 9. 法助動詞(2)：法助動詞各論（用法上の違いなど） 10. 法助動詞(3)：法助動詞各論（続き） 11. 未来表現(1)：文法、表現形式、形式と意味 12. 未来表現(2)：形式と意味（続き） 13. 受動態(1)：「態」とは何か、受動態の文法的特徴など 14. 受動態(2)：過去分詞の性質、be受動文とget受動文 15. 春学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト、参考文献	テキスト：水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。
評価方法	定期試験（90%）に、授業への取り組みなど（10%）を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar（水５）	担当者	水口　学

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。 **【講義概要】**本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心として講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、文構成の上で重要となる個別要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。	1. 講義の説明、英文法への導入 2. 仮定法(1)：「法」とは何か、直説法と仮定法 3. 仮定法(2)：直説法と仮定法（続き）、仮定法の特徴 4. 仮定法(3)：仮定法とshould、注意すべき語法など 5. 節構造(1)：節の種類、句と節の違い、節の機能 6. 節構造(2)：節の機能（続き）、その注意点など 7. 節構造(3)：動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴 8. 節構造(4)：動詞・形容詞に続く節形式の特徴（続き） 9. 関係節(1)：関係節の文法的特徴、関係代名詞の特徴 10. 関係節(2)：関係形容詞・副詞の特徴、自由関係詞など 11. 関係節(3)：不定関係節の特徴、強調構文の特徴 12. 比較構文(1)：「比較」とは、比較の文法的特徴 13. 比較構文(2)：比較級・最上級の特徴、絶対比較など 14. 否定：否定の種類、否定の作用域、否定の注意点など 15. 秋学期のまとめ ※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレヴューすること。
テキスト、参考文献	テキスト：水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。
評価方法	定期試験（90%）に、授業への取り組みなど（10%）を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の 2/3 以上に出席していることが必要である。

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことにある。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現となって表れているのだろうかと探っていく習慣を身につけていく学習方法こそが、結局はもっとも効率の良い方法であるということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかみ、一日も早くネイティブ･スピーカーが英語を理解しているとき、その頭の中で何が起こっているのかを感じ取ってほしいと思っている。 （ツイッターsemantics@gamba_dokkyo での連絡有り）	1. 対象のとらえ方を示す冠詞 2. 続き 3. 数詞と数量詞 4. 前置修飾と後置修飾 5. 続き 6. 代名詞と名詞節 7. テンス（時制）とアスペクト（相） 8. 続き 9. 未来を語る表現 10. 動詞のタイプ 11. 続き 12. 話し手の態度と法助動詞 13. 続き 14. 態―能動態と受動態と中間態 15. 続き

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを 2 回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。
テキスト、参考文献	田中茂範『表現英文法[増補改訂第 2 版]』コスモピア
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明するか、ツイッターsemantics@gamba_dokkyo で告知する。

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
ことばを使う表現主体と文法とはけして無関係ではないという立場から、話し手を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに捉え、いかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的動機付けの仕組がわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」という説明ができるようになるということである。 そうなると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなくなり、「なるほど！」と納得しながら学ぶものであることがわかり、例えば現在完了形と過去形の使い分け、冠詞aとtheの使い分け、はだか名詞とaや-sが付いた名詞の違い、あるいはI'm standing on/in the street.の意味の違いもわかるようになる。	1. 動詞のスクリプトと構文 2. 続き 3. 形容詞構文 4. 副詞的表現と機能と位置 5. 豊かな意味を生み出す副詞的表現 6. 前置詞 （at/in/on/off/about/around/across/through/ along） 7. 前置詞 （over/above/beyond/below/with/to/of/from/for/against） 8. 空間副詞（up/down/out/back/away） 9. 語順（情報配列のテンプレート）・情報連結詞 10. 続き 11. 文のタイプ（存在文・付加疑問文・語順の倒置・省略） 12. 比較構文 13. 否定構文 14. 話法 15. 仮定法構文

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを 2 回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。
テキスト、参考文献	田中茂範『表現英文法[増補改訂第 2 版]』コスモピア
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明するか、ツイッターsemantics@gamba_dokkyo で告知する。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使用されるのか？」、「この単語の品詞は何だろう？」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでしのいで来たのではないでしょうか。受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、一定の説明を与えることを試みます。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。英文法の諸現象には、まだ十分に説明されていないものがたくさんあります。先生の説明を鵜呑みにするのではなく、皆さんなりの説明を見つけることを試みましょう。	1. 主要な文法体系の概要 (認知文法、生成文法、伝統文法など) 2. 文のタイプ 3. 自動詞と他動詞 4. アスペクトによる動詞の分類 5. 本動詞、助動詞としての be, do, have 6. 時制 7. 完了形 8. 進行形 9. 法助動詞(can, will) 10. 法助動詞(may, should) 11. 態 12. to 不定詞 13. 過去分詞 14. 現在分詞と動名詞 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。
テキスト、参考文献	教員の作成した教材を教室または Web 上で配布する。
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について、検討し、納得できる説明を得ることを目指します。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。たとえば、なぜ仮定法では時制が過去方向にずれるのでしょうか？　疑問詞と関係詞には、なぜ同じ単語が用いられるのでしょうか？　多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか？　noとnotには、どのような相違があるのでしょうか？　こうした疑問について、こちらから特定の説明法を押し付けることははしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、認知文法、生成文法、伝統文法など、様々な視点からまとめられた文法体系の考え方を比較、検証し、また自ら思索することによって、皆さんなりの解答を見つけて下さい。	1. 春学期の内容を概観 2. 仮定法 3. 疑問詞 4. 接続詞 5. 関係詞 6. 前置詞 7. 名詞 8. 冠詞 9. 代名詞 10. 形容詞 11. 副詞 12. 比較 13. 否定(完全否定、部分否定、準否定) 14. 否定(no と not の相違、鯨の構文) 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。
テキスト、参考文献	教員の作成した教材を教室または Web 上で配布する。
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English.	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト、参考文献	No textbook is required
評価方法	Active class participation (60%), presentations (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions and logical reasoning effectively in English.	1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class
テキスト、参考文献	No textbook is required
評価方法	Active class participation (60%), presentations (30%), speaking tests (10%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics Weeks 1 - 2 Introduction to the course of studies. Weeks 3 -6 Why learn English. Weeks 7 - 10 Caring for kids. Weeks 11 - 14 Death from overwork. Week 15 - Evaluations. A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics: Weeks 1 - 2 Brief introduction/welcome back to class. Weeks 3 - 6 Computers and society. Weeks 7 - 11 Ageing Society. Weeks 12 -14 The Automobile. Week 15 - Evaluations. A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of the course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read about, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English. Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives. This is a student-centered course. Therefore, attendance and active participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and willing to use English exclusively for all classroom activities.	Week 1: Course Introduction & Overview Week 2: University Lifestyles Week 3: Career Choices Week 4: Nuclear Arms Week 5: Immigration Reform Week 6: Presentation One Week 7: Social Safety Net Week 8: Carbon Footprint Week 9: World Englishes Week 10: Discovering Your Passion Week 11: Presentation Two Week 12: Food Culture Week 13: Women in the Workplace Week 14: Endangered Cultures Week 15: Presentation Three

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.
テキスト、参考文献	There is no textbook for this class. The instructor provides all materials.
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, and presentations.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of the course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read about, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English. Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives. This is a student-centered course. Therefore, attendance and active participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and willing to use English exclusively for all classroom activities.	Week 1: Course Introduction & Overview Week 2: University Lifestyles Week 3: Career Choices Week 4: Nuclear Arms Week 5: Immigration Reform Week 6: Presentation One Week 7: Social Safety Net Week 8: Carbon Footprint Week 9: World Englishes Week 10: Discovering Your Passion Week 11: Presentation Two Week 12: Food Culture Week 13: Women in the Workplace Week 14: Endangered Cultures Week 15: Presentation Three

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.
テキスト、参考文献	There is no textbook for this course. The instructor provides all materials.
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, final presentations.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & news article Week 6: Summary writing & quiz Week 7: Discussions & introduction to APA Week 8: News article & vocabulary quiz Week 9: Discussions & mini presentations Week 10: News article & summary writing Week 11: Discussions & vocabulary quiz Week 12: Video & discussion Week 13: News article & prepare vocabulary notebooks Week 14: Discussions & submit vocabulary notebooks Week 15: Review & feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites
テキスト、参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & news article Week 6: Summary writing & quiz Week 7: Discussions & introduction to APA Week 8: News article & vocabulary quiz Week 9: Discussions & mini presentations Week 10: News article & summary writing Week 11: Discussions & vocabulary quiz Week 12: Video & discussion Week 13: News article & prepare vocabulary notebooks Week 14: Discussions & submit vocabulary notebooks Week 15: Review & feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites
テキスト、参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival　days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn &　study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more　effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two.　**Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information　taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These　percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival　days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto"What are you thankful for?"　Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information　taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These　percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火３） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for informing, persuading, and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Presentation workshop: Student Survey Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火３） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. The class structure and goals will be the same as the spring semester, but materials for the fall semester will be different. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Workshop: Investigative Research Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an intermediate-level context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an upper-intermediate context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one`s own ideas and opinions.	Weeks 1. Course introduction 2. Text Unit 1 3. Text Unit 2 4. Discussion Test Prep 5. Discussion Tests 6. Unit 3 7. Unit 4 8. DVD 9. DVD 10. Individual Presentations 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Discussion Tests 14. Final Presentations 15. Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト、参考文献	Text Presenting Different Opinions
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one`s own ideas and opinions.	1. Course Introduction 2. Text Unit 7 3. Text Unit 8 4. DVD 5. Group Presentation Preparation 6. Group Presentations 7. Text Unit 9 8. Text Unit 10 9. DVD 10. DVD 11. Text Unit 11 12. Text Unit 12 13. Presentation Preparation 14. Final Presentations 15. Course Review

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト、参考文献	Text: Presenting Different Opinions
評価方法	Written reports 30%, Presentations 35%, Classroom activities 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（水４） Communicative English	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This class will give students the opportunity to explore and discuss some of the important issues of today. Students will read a wide range of texts and online sources, and consider the strengths and weaknesses of the arguments and opinion presented. Students will develop their communication skills by participating in a variety of speaking situations to discuss the topics. There will be a focus on both listening and responding in these discussions, and students will be encouraged to express their own opinions whilst respecting those of others. Additionally, students will be asked to create their own multimedia presentation on a topic of their choice, with the goal of persuading the class of their viewpoint. Grades will be based on class participation, leading small group discussions and a multimedia presentation.	1. Course introduction and outline 2. Food Safety 3. Social Problems 4. Cultural Issues 5. The Environment 6. Small group discussion 1 7. Work/Labor issues 8. Health 9. Family 10. Money 11. Gender Issues 12. Small Group discussion 2 13. Presentation preparation 14. Presentations 15. Course review.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	Long, R. (2016) *Connections. Understanding Social & Cultural Issues*. Perceptia Press..
評価方法	In-class participation 40%; presentation 30%; small group discussions 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火５） Communicative English	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others. The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Narrative fictions - lying and describing. 4. Happiness. 5. Fear. 6. Structuring debates. 7. Persuasive language. 8. Student topics for debates. 9. Analyzing perspectives. 10. Student topics for debates. 11. Sadness. 12. Presentation preparation. 13. Presentations and discussion. 14. Presentations and discussion. 15. Exam period.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for informing, persuading, and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Presentation workshop: Student Survey Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. The class structure and goals will be the same as the spring semester, but materials for the fall semester will be different. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	Week 1: Orientation, introduction to topic discussion Week 2: Good observation, making pros and cons Week 3: Writer point of view, background influences Week 4: Making effective visual aids Week 5: Good discussion questions Week 6: Small group discussion workshop Week 7: Small group discussion group 1 Week 8: Small group discussion group 2 Week 9: Small group discussion group 3 Week 10: Small group discussion group 4 Week 11: Making effective topic presentations Week 12: Workshop: Investigative Research Presentation Week 13: Presentations Week 14: Presentations Week 15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival　days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn &　study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more　effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two.　**Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English): and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information　taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These　percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival　days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto"What are you thankful for?"　Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information　taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These　percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木３） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English): and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木３） Communicative English	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto"What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC® score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one`s own ideas and opinions.	Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Final Exam

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC® score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one`s own ideas	Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Final Exam

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and view English language websites.
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and view English language websites.
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman
評価方法	It isnecessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course designed for those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare discussion points, to consider main points and be prepared to discuss. During class, students need to record all points, vocabulary items, and engage and review.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare discussion points, to consider main points and be prepared to discuss. During class, students need to record all points, vocabulary items, and engage and review.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English. The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students each week. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion	1. Class introduction 2. Discussion skills 1 3. Discussion skills 2 4. Discussion skills 3 5. Student Topics Round 1 6. Student Topics Round 1 7. Student Topics Round 1 8. Common problems 9. Student Topics Round 2 10. Student Topics Round 2 11. Student Topics Round 2 12. Exchanging articles and discussion 13. Exchanging articles and discussion 14. Problem solving 15. Wrap up

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor
テキスト、参考文献	All materials will be prepared by the teacher.
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in pairs and groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English. The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students each week	1. Class introduction 2. Discussion skills 1 3. Discussion skills 2 4. Discussion skills 3 5. Student Topics 1 6. Student Topics 2 7. Student Topics 3 8. Common problems 9. Student Topics Round 2 10. Student Topics Round 2 11. Student Topics Round 2 12. Exchanging articles 13. Exchanging articles 14. Problem solving 15. Wrap up

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor
テキスト、参考文献	All materials will be prepared by the teacher.
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Discussion	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree. 4. Creating discussions. 5. My discussion articles. 6. Your discussion articles. 7. Opposing viewpoints. 8. Controversial issues. 9. Your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics, partnering and preparation. 12. Student-led class discussion preparation. 13. Student-led class discussions. 14. Student-led class discussions. 15. Exam period.

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)

09 年度以降	Discussion	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree. 4. Creating discussions. 5. My discussion articles. 6. Your discussion articles. 7. Opposing viewpoints. 8. Controversial issues. 9. Your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics, partnering and preparation. 12. Student-led class discussion preparation. 13. Student-led class discussions. 14. Student-led class discussions. 15. Exam period.

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will be provide with ample opportunities to speak English through discussions, debates and active role plays. We will focus on spoken English in this course, with emphasis on expressing opinions, giving speeches and conducting presentations. This will be an educational and fun course !	1. Introduction/orientation 2. Discussion Travel 3. “ 4. Presentation 5. Presentation 6. Discussion Music 7. “ 8. Presentation 9. Presentation 10. Discussion (Final) 11. “ 12. Presentation My Passion 13. “ 14. “ 15. “

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.
評価方法	Participation, presentations

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as above	1. Same as above 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.
テキスト、参考文献	Same as above
評価方法	Same as above

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework ! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic: teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 15. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations
テキスト、参考文献	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.	1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework ! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic: teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 15. Presentations, evaluation, feedback.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations
テキスト、参考文献	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Speeches This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches. Students will then give their own speeches, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1. Orientation 2-3. Elements of public speaking 4-5. Effective speeches—examples and discussion 6-8. Student speeches 9-11. Effective speeches—examples and discussion 12-14. Student speeches 15. Reflection and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research for their speeches, and to come to class having prepared all homework assignments. (Approximately 4 hours homework each week.)
テキスト、参考文献	Individual reading texts will be distributed in class.
評価方法	Four speeches: 25% x 4 = 100%

09 年度以降	Public Speaking Ⅱ	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Poster Presentation & Presentation This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own poster presentations and presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1. Orientation 2. Effective Public Speaking: skills & strategies 3. Effective Public Speaking: skills & strategies 4. Poster presentations--orientation 5. Poster presentations--analysis 6. Poster presentations--preparation 7. Poster presentations--preparation 8. Poster presentations 9. Individual presentations--orientation 10. Individual presentations--analysis 11. Individual presentations--preparation 12. Individual presentations--preparation 13. Individual presentations 14. Individual presentations 15. Critique and review

到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking Ⅰ」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research for their presentations, and to come to class having prepared all homework assignments. (Approximately 4 hours homework each week.)
テキスト、参考文献	Individual reading texts will be distributed in class.
評価方法	Group poster presentation = 40%; Individual presentation – 40%; Participation = 20%.

09 年度以降	Debate I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues. 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, to prepare debate arguments in advance of class, and to review main points after class.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%

09 年度以降	Debate Ⅱ	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation of Debate I. The course will follow the same overall format of Debate I, but will addressed more advanced topics and allow more time for text analysis. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	「Debate I 」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, to prepare debate arguments in advance of class, and to review main points after class.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context. By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.	1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school（土佐派） 6. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 7. Paintings and Artists of the Kanō school（狩野派） 8. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 9. Paintings and Artists of the Rimpa school（琳派） 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school（文人画・南画） 11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school（円山・四条派） 14. Museum Exhibition Trip 15. Review and Final Assessment

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音声的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『Moon River』日本人の苦手な子音（１） 5. 『We Will Rock You』日本人の苦手な子音（２） 6. オンライン音声教材によるリスニング・発音の強化 7. 映画・TED など映像を用いた聴解／発音のタスク 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『This Land is Your Land』シラブルの“格差” 10. 『My Grandfather’s Clock』カタカナ英語からの脱却 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』押韻を意識する 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　なし（毎回授業で資料を配布します）
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音声的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、 そしてペアワークにも力を入れること。	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『Moon River』日本人の苦手な子音（１） 5. 『We Will Rock You』日本人の苦手な子音（２） 6. オンライン音声教材によるリスニング・発音の強化 7. 映画・TED など映像を用いた聴解／発音のタスク 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『This Land is Your Land』シラブルの“格差” 10. 『My Grandfather’s Clock』カタカナ英語からの脱却 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』押韻を意識する 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　なし（毎回授業で資料を配布します）
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水５）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音声的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『Moon River』日本人の苦手な子音（１） 5. 『We Will Rock You』日本人の苦手な子音（２） 6. オンライン音声教材によるリスニング・発音の強化 7. 映画・TED など映像を用いた聴解／発音のタスク 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『This Land is Your Land』シラブルの“格差” 10. 『My Grandfather’s Clock』カタカナ英語からの脱却 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. 『楽曲未定』押韻を意識する 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト・録音② 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　なし（毎回授業で資料を配布します）
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて，英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語の様々な面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語,「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について，一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」,「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。 ・1回目（9/26 (火) 4限）から参加してください（見学も含む)。	1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域, 学習者/指導者として 2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官, 音声が運ぶ情報 3. 第 3 章 「音声表記」 綴りと発音, IPA 4. 第 4 章 「母音」 基本母音, 英語の母音 5. 「母音」(2) 日本語との比較 6. 第 5 章 「子音」 分類 7. 「子音」(2) 日本語との比較 8. 第 3 章「音素と異音」 日本の干渉 9. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢と母音 10. 第 7 章 「語強勢」 11.「語強勢」(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第 8 章「音縮小」 音縮小と統語構造， 第 9 章「同時調音」 13. 第 10 章「イントネーション」 音調核, 統語/意味構造, パラ言語 14.「イントネーション」(2) 15. 音声科学の応用（教育・政策・社会学・臨床・工学等）

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	音声学の基礎の講義であり，適宜，練習を取り入れる。学生は、事前または事後にテキストの指定部分を読み，練習問題などの課題をやってくることが必須となる。
テキスト、参考文献	佐藤寧・佐藤努（1997)『現代の英語音声学』 金星堂 その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加)：約 15%，クイズ・課題：約 15%，試験：約 70%。 単位認定には 70%以上の出席が求められる

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	英語の音声	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。 英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。 概要 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で個々の音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。 注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。	1. コース概要：音声学とは 2. 発声のメカニズム 3. 音声表記 4. 母音の調音（1） 5. 母音の調音（2） 6. 子音の調音（1） 7. 子音の調音（2） 8. Review 9. ＜中間テスト＞ 10. 音節について音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など 11. 語強勢(ストレス)とリズム 12. 音縮小 13. 同時調音とイントネーション 14. Review 15. ＜期末テスト＞

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする章の語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は各章の練習問題で内容の復習
テキスト、参考文献	教科書 佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』（金星堂、1997 年）参考文献は授業中に適宜指示する。
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

09 年度以降	通訳 I （水１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日･日英の基礎通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　講義では会議、ビジネス、放送通訳など通訳業務について考えます。演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う一方、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治　英日 3.　政治　日英 4.　技術　英日 5.　技術　日英 6.　犯罪　英日 7.　犯罪　日英 8.　IT通信　英日 9.　IT通信　日英 10.　産業　英日 11.　産業　日英 12.　医療厚生　英日 13.　医療厚生　日英 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （水１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要：　春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、精度のより高い通訳を試みます。日本語･英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育　英日 3.　教育　日英 4.　国際関係　英日 5.　国際関係　日英 6.　環境　英日 7.　環境　日英 8.　軍事　英日 9.　軍事　日英 10.　医学　英日 11.　医学　日英 12.　経済　英日 13.　経済　日英 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日･日英の基礎通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　講義では会議、ビジネス、放送通訳など通訳業務について考えます。演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う一方、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治　英日 3.　政治　日英 4.　技術　英日 5.　技術　日英 6.　犯罪　英日 7.　犯罪　日英 8.　IT通信　英日 9.　IT通信　日英 10.　産業　英日 11.　産業　日英 12.　医療厚生　英日 13.　医療厚生　日英 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要：　春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、精度のより高い通訳を試みます。日本語･英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育　英日 3.　教育　日英 4.　国際関係　英日 5.　国際関係　日英 6.　環境　英日 7.　環境　日英 8.　軍事　英日 9.　軍事　日英 10.　医学　英日 11.　医学　日英 12.　経済　英日 13.　経済　日英 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日･日英の基礎通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　講義では会議、ビジネス、放送通訳など通訳業務について考えます。演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う一方、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治　英日 3.　政治　日英 4.　技術　英日 5.　技術　日英 6.　犯罪　英日 7.　犯罪　日英 8.　IT通信　英日 9.　IT通信　日英 10.　産業　英日 11.　産業　日英 12.　医療厚生　英日 13.　医療厚生　日英 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要：　春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、精度のより高い通訳を試みます。日本語･英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育　英日 3.　教育　日英 4.　国際関係　英日 5.　国際関係　日英 6.　環境　英日 7.　環境　日英 8.　軍事　英日 9.　軍事　日英 10.　医学　英日 11.　医学　日英 12.　経済　英日 13.　経済　日英 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 講義では通訳についての知識を深めていきます。演習ではシャドーイングやメモ取り訓練などを行うと同時に、文化的背景も踏まえた訳出法を習得していきます。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 政治　英日 3. 政治　日英 4. 技術　英日 5. 技術　日英 6. 犯罪　英日 7. 犯罪　日英 8. IT通信　英日 9. IT通信　日英 10. 産業　英日 11. 産業　日英 12. 医療厚生　英日 13. 医療厚生　日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、効果的なコミュニケーションや文化的背景を踏まえた精度のより高い通訳を試みます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 教育　英日 3. 教育　日英 4. 国際関係　英日 5. 国際関係　日英 6. 環境　英日 7. 環境　日英 8. 軍事　英日 9. 軍事　日英 10. 医学　英日 11. 医学　日英 12. 経済　英日 13. 経済　日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%)、期末テスト（30%）

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １.英語､日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコミュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEANの理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTAとは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １.英語､日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコミュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEANの理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTAとは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １.英語､日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコミュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEANの理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTAとは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １.英語､日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 受講レベル：英検準1級程度 ※同一学期に同一教員の重複履修不可	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコミュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEANの理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTAとは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	クイズ、レポート、授業参加による通常点。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木１）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式 3. ビジネスレターのキー・ポイント 4. 取引の申込み 5. 取引申込みに対する回答 6. 引合い 7. オファー 8. 中間試験、復習 9. オファーに対する応答 10. 信用状 11. 積出し 12. クレーム 13. クレームの解決 14. ビジネスエチケット 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木１）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。 具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネスレターの形式 3. ビジネスレターのキー・ポイント 4. 取引の申込み 5. 取引申込みに対する回答 6. 引合い 7. オファー 8. 中間試験、復習 9. オファーに対する応答 10. 信用状 11. 積出し 12. クレーム 13. クレームの解決 14. ビジネスエチケット 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木２）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心にして授業を進めていきます。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように「英語」「ビジネス」「コミュニケーション」の3点に焦点を当て、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿って、前半は大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成などを学び、後半は大手製造業を想定した国際展示会出展の準備のための社外とのメールの作成などを学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ビジネス英文メールの形式 3. 世界主要支社長会議開催のお知らせ 4. 世界主要支社長会議への出席通知 5. 販売本部長の営業報告 6. 宣伝部長報告「夏の宣伝キャンペーン」 7. 企画部長報告「ブラジル支社設立計画」 8. 中間試験、復習 9. 国際展示会及び営業会議招待 10. 国際展示会及び営業会議への出席通知 11. 営業会議出席者の宿泊等の申し込み 12. 有力販売店主の工場視察 13. ホテルへの苦情 14. 顧客のホテル苦情への返信 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014 年）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木２）	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心にして授業を進めていきます。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように「英語」「ビジネス」「コミュニケーション」の3点に焦点を当て、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的には、テキストに沿って、食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの対外的な商取引を想定したメールの作成などを学びます。 また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。 なお、授業計画は、多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. カリフォルニアワインの見本輸入 3. 見本商品の発送通知 4. 引合い 5. オファー 6. カウンター・オファー 7. 注文 8. 中間試験、復習 9. 注文受諾 10. カウンター・オファー受諾通知 11. 信用状開設準備 12. 船積通知 13. クレーム 14. クレームの解決 15. まとめ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014 年）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期は Unit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。 木曜日 4 時限の同一名称科目とは内容が異なります。	１．春学期の授業内容と授業計画の説明 ２．ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等 ３．Unit1（市況） ４．Unit2（取引先の発見） ５．Unit3（取引の申込み） ６．Unit4（信用照会） ７．Unit5（引合い） ８．Unit6（引合いに対する返信） ９．Unit7（オファー） 10．Unit8（カウンター・オファー） 11．Unit9（注文） 12．Unit10（注文の受諾） 13．Unit11（注文の謝絶） 14．Unit12（成約） 15．春学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト、参考文献	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版)』（三恵社、2016 年）および配布資料
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降+	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期は Unit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。 木曜日 4 時限の同一名称科目とは内容が異なります。	１．秋学期の授業内容と授業計画の説明 ２．ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等 ３．Unit13（信用状の開設と訂正） ４．Unit14（海上保険） ５．Unit15（輸出手配） ６．Unit16（船積み） ７．Unit17（決済） ８．Unit18（輸入手配） ９．Unit19（クレーム） 10．Unit20（クレーム調整） 11．Unit21の1（会社社交文①：推薦状） 12．Unit21の2（会社社交文②：案内状） 13．Unit21の3（会社社交文③：礼状） 14．Unit21の4（会社社交文④：見舞い状） 15．秋学期の総復習と質疑応答

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト、参考文献	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版)』（三恵社、2016 年）および配布資料
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち英語による各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。春学期は、契約書等の法律文書に用いられる英語の特徴（法文体、legalese）についての基礎知識を学習した後、工業製品の輸出入を想定して、レター・オブ・インテント、スポット売買契約、長期売買契約書などのサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、仕上げにそれらの書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。また、英語圏（特に米国）のPlain English Actを遵守した英語の取扱説明書を作成する方法も検討します。	1.　春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2.　法律英語の文体（legalese）を詳しく学習します。 3.－4.　レター・オブ・インテント（letter of intent；LOI）の実際のサンプルを検討します。 5.－6.　実際の案件に基づき、LOI 作成の実習を行います。 7.－ 8.　スポット売買契約書（one-shot sales contract）の実際のサンプルを検討します。 9.－ 10.　長期売買契約書（long-term sales agreement）の実際のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。 11.-12.　“Plain English”の観点から、英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。 13.-14.　実際に英文取扱説明書（の一部）を作成する訓練を行います。 15.　春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト、参考文献	（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち英語による各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。秋学期は、貿易取引の履行および決済の段階に登場する代表的な書類として、商業送り状、船荷証券、保険証券、原産地証明書等の船積書類（Shipping Documents; S/D）、為替手形（draft）、荷為替信用状（Documentary Letter of Credit）などを学びます。また、基本的な通関実務の演習も行い、実際に輸出申告書と輸入（納税）申告書を実際に作成する機会をもうけます。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1.　秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2.　各種の船積書類の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。 3.－ 4.　商業送り状を作成する実習を行います。 5.－ 6.　船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。 7.　輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。 8.－ 9.　輸出申告書を作成する実習を行います。 10.-12.　輸入(納税)申告書を作成する実習を行います。 13.-14.　荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。 15.　秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト、参考文献	（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティングの段階(1)：海外市場調査 7. 貿易マーケティングの段階(2)：マーケティング・ミックスの策定 8. 取引関係創設の段階(1)：取引先選定と引合い 9. 取引関係創設の段階(2)：信用照会 10. 成約段階(1)：「一般取引条件」と「個別契約条件」の意義と内訳 11. 成約段階(2)：オファーと承諾、注文と受注 12. 成約段階(3)：品質と数量に関する条件 13. 成約段階(4)：価格と決済に関する条件 14. 成約段階(5)：船積みと保険に関する条件 15. 春学期の授業の総復習および質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト、参考文献	（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：”Incoterms® 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類（transport document） 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit; L/C)と荷為替手形による決済の仕組み 13. 決済段階(2)：L/C によらない決済の仕組み 14. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの種々の解決法など 15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するように努めて下さい。
テキスト、参考文献	（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	メディア英語Ⅰ（月３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語Ⅰ（月３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。 1つのトピックを二週に渡って検討する。一週目はBBCの報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。	1. オリエンテーション 2. Wonky Vegetables (1) 3. Wonky Vegetables (2) 4. Money for Children's Sports (1) 5. Money for Children's Sports (2) 6. Tracking Down Dog Owners with DNA (1) 7. Tracking Down Dog Owners with DNA (2) 8. The Latest News 9. A Hybrid Solar Balloon (1) 10. A Hybrid Solar Balloon (2) 11. The Freedom Tower in New York (1) 12. The Freedom Tower in New York (2) 13. Home-Schooling (1) 14. Home-Schooling (2) 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 4』Timothy Knowles、Charles Lowe、田村真弓、田中みんね、中村美帆子 編著 （金星堂、2017 年）
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続きこの講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。 1つのトピックを二週に渡って検討する。一週目はBBCの報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。	1. オリエンテーション 2. Using SNS to Relieve Eating Disorders (1) 3. Using SNS to Relieve Eating Disorders (2) 4. The UK's Rising Population (1) 5. The UK's Rising Population (2) 6. Gay Marriage in Ireland (1) 7. Gay Marriage in Ireland (2) 8. The Latest News 9. The Threat to Antarctic Penguins (1) 10. The Threat to Antarctic Penguins (2) 11. English for Muslim Women Immigrants (1) 12. English for Muslim Women Immigrants (2) 13. Eating Insects to Save the World (1) 14. Eating Insects to Save the World (2) 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 4』Timothy Knowles、Charles Lowe、田村真弓、田中みんね、中村美帆子 編著 （金星堂、2017 年）
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、２つの国（スイス、南アフリカ）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意ある方、お待ちしております！	1.　講義の概要 2.　履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3.　9.11：なぜ「歴史的事件」となったのか？ 4-5.　再生可能エネルギーの可能性 6-7.　大企業化①：食品業界 8-9.　大企業化②：金融業界 10-11. スイス：「平和」とは何か？ 12-13. 南アフリカ：「共存」への道 14.　メディアとの付き合い方を考える 15.　春学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。 第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね。

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０%、授業内での発表 ＆ 発言４０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**。

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1.　講義の概要 2.　履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3-4.　3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較 5-6.　日本のアニメと漫画 7-8.　靖国問題 9-10.　国の借金：本当に深刻なのか？ 11.　海外での和食の評価 12-13. 沖縄の歴史 14.　これから日本はどう世界と関わっていくのか？ 15.　秋学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね　！**

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０%、授業内での発表 ＆ 発言４０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります**

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ① 3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ② 4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③ 5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④ 6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤ 7. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 I 8. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 II 9. 航空産業に関する英文記事の読解 ① 10. 航空産業に関する英文記事の読解 ② 11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③ 12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④ 13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 I 14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 II 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習しておいて下さい。また、2 回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしておいてください。
テキスト、参考文献	プリントを使用
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	土川　孝

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。 期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。 なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。	1. 講義概要（ガイダンス） 2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ① 3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ② 4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③ 5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④ 6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤ 7. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 I 8. 演習「訪日客ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ・ﾂｱｰ企画」 II 9. 航空産業に関する英文記事の読解 ① 10. 航空産業に関する英文記事の読解 ② 11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③ 12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④ 13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 I 14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」 II 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習しておいて下さい。また、2 回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしておいてください。
テキスト、参考文献	プリントを使用
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

09 年度以降	メディア英語 I （金１）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　4回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語 I （金１）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　4回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語Ⅰ（金３）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカの３大ネットワークのひとつ、ＣＢＳの“CBS Evening News”および“CBS This Morning”で取り上げられたニュースを収録したビデオを使って、テレビニュースで使われている生きた英語を学ぶ。毎回、予習をして来たことを確認するための単語テストを行い、その平均点で成績を付ける。主にリスニング力および語彙力の養成を目指す。授業はテキストに従って進める。原則、毎回１章ずつ扱う。不足する１回分については課題を課す。受講生は下記の３点を守ること。 １．必ず初回の授業に出席すること。 ２．毎回、予習をして来ること。 ３．内職はしないこと。	第１回　導入 第２回　海外から見た日本の給食 第３回　カリフォルニアはＢＹＯＢ 第４回　犬を飼うと健康になる？ 第５回　成長に合わせて大きくなる靴を子どもたちに 第６回　ネコで職場のストレス解消 第７回　デジタルコミックの隆盛 第８回　炭酸飲料と老化の関係 第９回　就活ではLike ボタンに気を付けて 第１０回　座りっぱなしは身体に毒？ 第１１回　抹茶が大人気　その理由は？ 第１２回　アメリカのイクメン事情 第１３回　神からの啓示で見知らぬ友を助ける 第１４回　アメリカでラーメン人気上昇中 第１５回　自転車の個人間貸し借り仲介ネットビジネス

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語を調べ、問題をやっておく。事後に映像を繰り返し映像を観て、音読練習をする。
テキスト、参考文献	『ＣＢＳニュースブレイク３』　成美堂　２０１７年
評価方法	小テストの平均　９０％　課題　１０％

09 年度以降	メディア英語Ⅰ（金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1　Documentary (or article) #1 2　Documentary (or article) #1 3　Essay or Presentation #1 4　Documentary (or article) #2 5　Documentary (or article) #2 6　Essay or Presentation #2 7　Documentary (or article) #3 8　Documentary (or article) #3 9　Essay or Presentation #3 10　Documentary (or article) #4 11　Documentary (or article) #4 12　Essay or Presentation #4 13　Final preparation 14/15　Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、毎週、*The New York Times*から最新のニュース記事を読む。 トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	第１回 オリエンテーション 第2回 担当の分担 第3回～第14回 2回目の授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続きこの講義では、毎週、*The New York Times*から最新のニュース記事を読む。 トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	第１回 オリエンテーション 第2回 担当の分担 第3回～第14回 2回目の授業にて指示する。 第15回 まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語Ⅱ（金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語Ⅱ（金３）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
イギリスの公共放送ＢＢＣのニュース映像を教材化した教科書を使って、テレビニュースで使われている生きた英語を学ぶ。毎回、予習をして来たことを確認するための単語テストを行い、その平均点で成績を付ける。主にリスニング力および語彙力の養成を目指す。授業はテキストに従って進める。原則、毎回１章ずつ扱う。不足する１回分については課題を課す。受講生は下記の３点を守ること。 １．必ず初回の授業に出席すること。 ２．毎回、予習をして来ること。 ３．内職はしないこと。	第１回　導入 第２回　不揃いの野菜たちでフードロスを解消！ 第３回　子供たちのスポーツ離れを食い止めろ！ 第４回　住宅高騰でハウスボートが人気に 第５回　ペットの糞をＤＮＡ鑑定へ 第６回　世界初のハイブリッド気球、大空へ 第７回　復活したワールドトレードセンタービル 第８回　増加するホームスクーリング 第９回　ＳＮＳで拒食症を克服した少女 第１０回　ロンドンの深刻な大気汚染 第１１回　高齢化なのに移民で人口増加？ 第１２回　アイルランドで同性婚が合法に？ 第１３回　飲酒の適量はどのくらい？ 第１４回　地球温暖化を生き抜く南極ペンギンの１年 第１５回　イスラム系女性に英語必修化？

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語を調べ、問題をやっておく。事後に映像を繰り返し映像を観て、音読練習をする。
テキスト、参考文献	『映像で学ぶイギリス公共放送の英語４』　金星堂　２０１７年
評価方法	小テストの平均　９０％　課題　１０％

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマチェック 第８～１０回　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマチェック 第８～１０回　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント２０％、ワークシート３０％、プレゼンテーション２０％、テスト２０％、レポート１０％とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	シネマ英語	担当者	M．L．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will involve students in discussion on a range of topics, and introduce them to a wide variety of spoken natural English through the medium of film. Students will to develop active watching and listening skills by watching different film genres and listening to the variety of accents and colloquial English. Students will also learn how to interpret non-verbal communications, including music. We will explore various story-telling devices, consider how different cultures are depicted in the movie industry and explore some of the main themes and genres of movies. Students will be required to read and write a movie review and do a poster presentation.	1. Course introduction 2. Story-telling 3. From book to screen 4. Character Development 5. Silent Movies - interpreting non-verbal communication 6. Exploring sound and music 7. Role play and script-writing 8. The Block Buster – understanding movie reviews 9. Gender issues 10. Cultural issues 11. Exploring new film genres – movie review due 12. The trailer 13. Poster presentation preparations 14. Poster presentations 15. Course Review

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be required to view specified video before lessons and complete homework assignments. They will be required to write a movie review and make a poster presentation.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. All materials will be provided by the lecturer.
評価方法	In-class participation 40%; poster presentation 30%; movie review 30%

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期では、様々なジャンルの映画（「ＳＦ」「ミュージカル」「歴史」「生死」）を取り上げます。右記の授業計画を見て下さると分かるように、テーマは取り扱う映画によって異なりますが、授業では映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士で議論し、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画を観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 それでは、熱意ある方、お待ちしております！	1. 講義の概要 2. 『*GHOST IN THE SHELL/* 攻殻機動隊』(1995) 3. *The Matrix* (1999)：他メディアからの影響も検証する 4. *Star Wars IV*(1977)：神話学者曰く「現代の神話」 5. *Gattaca* (1997)：自然出産者 vs デザイナーベイビー 6. *Slumdog Millionaire* (2008)：インドの現実？ 7. *Invictus* (2009): 南アフリカでのスポーツと政治 8. *Ten Commandments* (1956)：十戒を学んでみよう 9. *The Truman Show* (1998)：メディアに操られる世界 10. *Chicago* (2002)：殺人事件も娯楽になる？ 11. *Moulin Rouge!* (2001)：ラブソングの変遷を追う 12. *The Bucket List* (2007)：死ぬ前にやりたいこと 13. *Dead Poet Society* (1989)：「いまを生きる」とは？ 14. 議論の時間 15. 春学期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では名優たちの映画&ドラマを取り上げます。授業では映画&ドラマを丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画&ドラマを分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画&ドラマを観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1. 講義の概要 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. *Rain Man* (1988): Dustin Hoffman, Tom Cruise 4. *Blade Runner* (1982): Harrison Ford 5. *Indiana Jones and the Last Crusade* (1989): Harrison Ford 6. *One Flew Over the Cuckoo's Nest* (1975): Jack Nicholson 7. *The Devil Wears Prada* (2006): Meryl Streep 8. *Patch Adams* (1998): Robin Williams 9. *Roman Holiday* (1953): Audrey Hepburn 10. *The Shawshank Redemption* (1994): Morgan Freeman 11. *The Great Dictator* (1940): Charlie Chaplin 12. *Good Will Hunting* (1997): Matt Damon, Robin Williams 13. *Friends* (1994-2004): Jennifer Aniston, etc. 14. 議論の時間 15. 後期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム交流論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関る複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関る基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。 講義では、まずツーリズムに関る基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。	1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3、ツーリズムの歴史 4、ツーリズムを支える諸産業① 5、ツーリズムを支える諸産業② 6、ツーリズムと情報／メディア 7、ツーリストのまなざし論 8、ツーリストと観光行動 9、ツーリズムとオーセンティシティ 10、ツーリズムの経済効果 11、ツーリズムの社会的文化的インパクト① 12、ツーリズムの社会的文化的インパクト② 13、観光地計画と観光政策① 14、観光地計画と観光政策② 15、まとめ

到達目標	国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼすツーリズム交流について専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	前田勇編著『新現代観光総論』学文社　岡本伸之編『観光学入門』有斐閣 大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版　※すべて参考文献
評価方法	授業への参加度／講義内小課題 20%　期末試験 80%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム・リスク論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊（パイレーツ)」の正体に迫ります。 毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げます。授業の後半では、テキストを参照して、知識を獲得します。 この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。 （注意）既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済みの場合は履修不可とします。	1　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 2　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 3　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 4　英雄としての海賊 5　　同上 6　映画「エリザベス＜ゴールデン・エイジ＞」 女王と側近ウォルシンガム、ローリー 7　海洋覇権のゆくえ――パイレーツの役割 8　スパイス争奪戦――パイレーツの「東インド会社」 9　スパイス争奪戦 １０　ディズニー映画「カリブの海賊＜ワールド・エンド＞」 シンガポール、「東インド貿易会社」 １１　コーヒーから「午後の紅茶」へ １２　コーヒーから「午後の紅茶」へ １３　ディズニー映画「カリブの海賊　＜生命の泉＞」 １４　ディズニー映画「カリブの海賊　＜生命の泉＞」 １５　まとめ

到達目標	国際的なツーリズム産業を取り巻く多様なリスク（海賊・テロ・組織犯罪など）について専門知識を習得し、リスクの発生原因やその影響、さらにリスク回避の対策などを分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム文化論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。	1、ガイダンス 2、ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、おみやげとスーベニア 4、観光みやげの近代 5、「民芸品」をめぐるまなざし 6、観光みやげと真正性 7、観光みやげのギフト性 8、観光みやげの儀礼的倒錯性 9、観光みやげと「ものがたり」 10、こけしと木彫り熊 11、旅するマトリョーシカ① 12、旅するマトリョーシカ② 13、民芸品としてのアジアン雑貨 14、アジアン雑貨が創る旅 15、まとめ

到達目標	各国・各地域の文化・歴史を象徴する名所や遺跡、建造物等について専門知識を習得し、ツーリズムと文化・歴史との関係性、およびツーリズム産業について分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度／講義内小課題 20%　期末試験 80%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論） ツーリズム・メディア論	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにづくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。	1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

09 年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。	1、ガイダンス 2、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 4、ツーリズム産業の競争環境 5、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 6、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 7、パッケージツアー③：身体化される団体旅行 8、パッケージツアー④：商品企画における「知識」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、生活とツーリズム 14、「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業 15、まとめ

到達目標	ツーリズム・マネジメントの基本であるツーリズム・マーケティングの専門知識を習得し、観光市場調査、観光行動の分析を行い、観光需要予測、商品企画等ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度／講義内小課題 20%　期末試験 80%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　２０２０年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。 講義概要： 　オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。	１．オリエンテーション ２．イベント・コンベンションについて① ３．イベント・コンベンションについて② ４．国際博覧会 ５．２０２０年東京オリンピック・パラリンピック ６．障害者スポーツとパラリンピックについて ７．国際会議・イベントについての「ディスカッション」 ８．古代オリンピック ９．ビジネスの視点からのオリンピック① １０．ビジネスの視点からのオリンピック② １１．プレゼンテーション：「２０２０年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① １２．　〃　② １３．　〃　③ １４．　〃　④ １５．まとめ

到達目標	ツーリズム産業の重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて専門知識を習得し、その現状と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	ツーリズム政策論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： 　ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。	１．オリエンテーション ２．ツーリズムの基本構造（１） ３．ツーリズムの基本構造（２） ４．マーケティングとは何か？ ５．ツーリズム政策とマーケティング理論 ６．ツーリズム政策の変遷 ７．ツーリズム政策における我が国の課題 ８．（ツーリズム政策に関する）ディスカッション ９．世界のツーリズム政策（シンガポール） １０．世界のツーリズム政策（ドイツ） １１．世界のツーリズム政策（スイス） １２　世界のツーリズム政策（フランス） １３．日本各地のツーリズム政策（地域振興など） １４．ツーリズムとキャリアデザイン １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	観光政策と行政等、観光に関する政府の具体的な施策、および観光行政組織や「観光立国推進基本法」に関する専門知識を習得し、観光政策や観光立国のあり方などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画５０％、最終試験５０％

09 年度以降	航空産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているＬＣＣ（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 　本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。	１．オリエンテーション ２．最近の航空産業の動きなど ３．航空産業とキャリアデザイン ４．航空とは何か ５．航空の歴史 ６．ＬＣＣ（低コスト航空会社）が世界を変える ７．航空事業の特性と運賃 ８．米国チャプター１１（連邦破産法第１１章） ９．ＪＡＬの破綻と復活 １０．規制緩和とオープンスカイ政策 １１．航空機製造ビジネス １２．三菱リージョナルジェット（ＭＲＪ）飛翔 １３．空港 １４．国際航空法 １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	国際航空業の仕組みや成り立ち、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れに関する専門知識を習得し、わが国の空港行政の問題点や航空政策の現状と課題、及びLCCやアライアンス等の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）
テキスト、参考文献	テキスト（教科書）:『最新・航空事業論（第２版)』（２０１６年１２月、日本評論社）
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画５０％、最終試験５０％

09 年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など)、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 　旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテルビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。	１．オリエンテーション ２．海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 ３．旅行産業の現状と課題① ４．旅行産業の現状と課題② ５．宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① ６．宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② ７．リゾートホテル・ビジネス ８．ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） ９．航空産業の最近の動向① １０．航空産業の最近の動向② １１．プレゼンテーション① １２．プレゼンテーション② １３．プレゼンテーション③ １４．プレゼンテーション④ １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業の歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割などについて専門知識を習得し、現状の問題点と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画７０％、プレゼンテーションとレポート３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降 12 年度以前	地域開発論 市民参加のまちづくり論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょうか。それは互いに異なる者同士が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのＮＧＯ活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。	1．イントロダクション 2．地域の発展を理解するための視座（教科書１章） 3．住民参加(participation)の意義と多義性（２章） 4．生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（３章） 5．地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（４章） 6．つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7．共益から公益の創出へ：ＮＹと東京のドッグラン（10 章） 8．スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 9．地域づくりと外部者のまなざし：島根県（７章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11 章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（８章） 15. まとめ、試験対策

到達目標	地域開発に関する専門知識を習得し、各国・地域における観光開発のあり方や課題、問題点などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO で各自購入してください
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（＋α）。

09 年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。 具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思います。受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。	1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌1 4. グローバリゼーションの民族誌2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急1』 7. 表象の政治学―情報資本主義と観光 8. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光―「神々の島」バリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム―タイの事例 13. エスニック・ツーリズム―タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権―北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光―広島および西アフリカの事例

到達目標	ツーリズム人類学（観光人類学）における主要な問題・関心について専門知識を習得し、実際の観光現象について文化人類学的視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。 オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。	1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発) 4. 貧困の商品化―スラム・ツーリズムの事例 5. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 6. 環境主義の商品化―エコリゾート 7. 世界遺産と観光1―ラオス・ルアンパバンの事例 8. 世界遺産と観光2―中国・麗江の事例 9. 先住民とアート―北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム―アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1 12. エコツーリズムと先住民2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光 15. まとめ

到達目標	オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光の動向について専門知識を習得し、これらの観光の現場において生じている問題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
東京を訪れる外国人観光客が近年急増していますが、本講義は、東京の「魅力」やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。 まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介します。その上で、実際に東京を縦横無尽に歩きます。 受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークをしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行ないます。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使って東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。さらに、こうした「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。	1. 趣旨説明・グループ分け(1回) 2. 東京を「読む」ための方法論（講義） 3. コース解説1：山の手と下町（本郷・広尾・六本木・浅草） 4. コース解説2：「水の都」（深川、佃、月島） 5. コース解説3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 6. コース解説4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 7. コース解説5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 8. コース解説6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 9. 発表・議論1 10. 発表・議論2 11. 発表・議論3 12. 発表・議論4 13. 発表・議論5 14. 発表・議論6 15. まとめ

到達目標	フィールドワークの基本的な理論や技法を習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照する。
テキスト、参考文献	特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。
評価方法	発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降 12 年度以前	ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論） ツーリズム地誌論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。 リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。 本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。またグループ・ワークなど演習形式の取り組みも多いため、グループ内の議論等に積極的に参加できる人のみ履修を認めます。なお，初回授業時にグループ分け等を行なうので､受講希望者は必ず出席すること。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義1：民族誌展示の歴史と現在1 3. 講義2：民族誌展示の歴史と現在2 4. ビデオ上映（国立民族学博物館の取り組み） 5~14. 発表・議論 15. まとめ ※ 研修旅行の日程は、12月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時までに教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで3万円程度です。

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	リトルワールドに展示されている諸地域・民族集団の民族誌を読むこと。
テキスト、参考文献	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣
評価方法	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	インターンシップ	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　インターンシップを通して自らの専攻、キャリアデザインに関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や実社会の理解、さらに自己の職業への適応力等を学習する。 講義概要： 　本科目は教室内での事前学習と、夏期実習、９月に実施する報告会で構成されている。事前学習は、インターンシップの意義を理解し効果的に実習が受けられるようになるためのものである。同時に、社会に出てからのキャリアデザインについても学習する。報告会では、実施報告書、日誌などに基づき、実習で学んだことに関するプレゼンテーションを行い、実習で得た経験、情報を全員で共有する。	■事前学習 １．オリエンテーション ２．インターンシップの具体的内容解説 ３．キャリアデザイン（１） ４．キャリアデザイン（２） ５～９．各業界の担当者による解説、マナー講座 １０．社会で働くことについての研究（１） １１．社会で働くことについての研究（２） １２．社会で働くことについての研究（２） １３．インターンシップ実習前準備（１） １４．インターンシップ実習前準備（２） １５．インターンシップ実習前の心得 ■夏期休暇中の実習―（約２週間） ■報告会（９月中旬を予定している）

到達目標	ツーリズム業界のインターンシップに必要な知識等を習得し、実習によりツーリズム業界を体験することで、業界の細部や自己の職能・適性等を発見できるようにする。
事前・事後学修の内容	各産業、各企業の研究を事前に行っておくこと。プレゼンテーションの練習を事前、事後に行うこと。
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。
評価方法	講義への参画、発言、プレゼン、実施報告書、日誌、報告会での発表などから総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）（月３）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、旅行契約に関わる具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり方と基本的な考え方を学びます。全部で３つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動をしながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表します。 この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも１つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第１回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1.　オリエンテーション 2.　ＰＢＬウォーミングアップ 3.　第１事例（その１） 4.　第１事例（その２） 5.　第１事例（その３） 6.　第２事例（その１） 7.　第２事例（その２） 8.　第２事例（その３） 9.　第３事例（その１） 10.　第３事例（その２） 11.　第３事例（その３） 12.　口頭発表会の準備 13.　口頭発表会（その１） 14.　口頭発表会（その２）（予備を兼ねる） 15.　まとめと振り返り（予備日）

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各事例１回目の授業後は、授業中の活動を通じて抽出した学習課題について、各自が調査・検討し、２回目の授業では、その結果を持ち寄って、さらに学習課題を抽出し、授業後は、その課題について各自が調査・検討して、３回目の授業にその結果を寄せ合い、検討してまとめる、というサイクルになります。
テキスト、参考文献	学習に必要な文献・資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するのを基本としますが、必要に応じて、教員が指示ないし配布します。
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。

13 年度以降	ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く）（水２）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、交流文化の思想を理解するうえで役立つ「古典」の精読を通じて、3・4年次生の研究に資する高度な読解力と思考力を育てるための技法を学びます。 「古典」は、授業や論文で言及されることが多い割に、学生が実際に読む機会は少ないと考えられます。しかし「古典」は「有名な学者が書いた本」ではなく、そこに時代の精神を捉える「問い」が活き活きと描かれているからこそ、多くの人々に読み継がれてきた良書であるといえます。そのため、筆者の「問い」を再現し、その思考を追体験することで、「古典」を精読する楽しみ（ワクワク感）を出席者とともに味わうことを目指します。 この授業は「反転授業」の方法で行います。全員がテキストを読解して出席していることを前提に、教員やレジュメ担当者が一方的に話すのではなく、逆に出席者の「ここが読めなかった」「ここはこういう意味か」等の質問からスタートし、全員で討論して、「われわれの読解」を練り上げることを試みます。 そのためこの授業は定員を30名に設定し、3・4年次での受講を推奨します。難解な文献を他の出席者と協力して積極的に読解し、その思想を深く理解する喜びを求める方の受講を歓迎します。	１．ガイダンス：読解の方法、各テキストの説明 ２．ポストモダンとは何か①（J.F.リオタール） ３．ポストモダンとは何か②（J.F.リオタール） ４．ツーリズムと「まなざし」①（J. アーリ&J. ラースン） ５．ツーリズムと「まなざし」②（J. アーリ&J. ラースン） ６．ツーリズムと「まなざし」③（J. アーリ&J. ラースン） ７．「まなざし」と主体性①（M. フーコー） ８．「まなざし」と主体性②（M. フーコー） ９．「まなざし」と主体性③（M. フーコー） 10. オリエンタリズムと文化多様性①（E. サイード） 11. オリエンタリズムと文化多様性②（E. サイード） 12.「社会」という思想①（見田宗介） 13.「社会」という思想②（見田宗介） 14.「社会」という思想③（見田宗介） 15. 総括討論、まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストを毎回必ず複数回は精読して理解を深め、論点と疑問点を整理して授業に参加してください。 また授業後に１回はテキストを読み返してください。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。 授業に必要なテキスト（部分）を配布しますが、1～2 冊の文庫・新書は購入してもらう予定です。
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「トランスナショナル文化論」の目的は、トランスナショナルな人の移動と文化の変容について、現代世界に見られるさまざまな問題(issues)を手掛かりに考えていくことです。この授業では特に「人の移動（移住労働者、移民、難民)」に焦点を当てます。 授業では各回の内容と並行して、シリア難民がスウェーデンへに到達するまでを取材した『ニューヨークタイムズ』の記事、“A Family Swept Up in the Migrant Tide”（2015年10月）を読んでいきます。 また、初回の授業では『東京新聞』2016年10月23日日曜版「揺れる世界の移民政策」を取り寄せて使用する予定です。	1. イントロダクション 2. 『君を想って海をゆく』 3. フランス 4. その他のヨーロッパ 5. アメリカ合衆国 6. カナダ 7. オーストラリア 8. ハーバード白熱教室と移民・難民 9. 日本（難民認定） 10. 日本（難民の暮らし） 11. 日本（教育） 12. 日本（技能実習生） 13. 移民・難民問題最新情報 14. 世界・その他の地域 15. まとめ

到達目標	トランスナショナル文化のフローとそれに関する専門知識を習得し、国境を越えた人や物、思想の動きとその重要性などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は復習をお願いします。
テキスト、参考文献	『ニューヨークタイムズ』記事ほか
評価方法	授業時に提出する小レポートと映画レポート、学期末レポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。 ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。	1．ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2．メディアの源流①：メディアとしての新約聖書 3．メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4．近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシーの曙 5．近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6．近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7．近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの19世紀 8．近代日本のトランスナショナル・メディア 9．20世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」 10．20世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11．20世紀とメディア③：湾岸・イラク戦争と”Media War” 12．国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13．国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」 14．国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディアとわたしたち 15．まとめ

到達目標	トランスナショナル・メディアに関する専門知識を習得し、様々な規模で見た、メディアを通じた文化、歴史、言語、情報・科学技術、環境、政治、経済、社会現象などのインターフェースについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	表象文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（戦争の記憶と表象―記念碑とミュージアムを中心に） 昨年の授業に引き続いて、戦争の記憶と表象について、記念碑とミュージアムを中心に考察します。 今年は、若手の社会学者である古市憲寿が、やはり学生など若い読者を想定して書いた『誰も戦争を教えられない』をテクストとして使うので、少し身近な問題として考えてもらえるかな、と思っています。 靖国神社と「女たちの戦争と平和資料館」は、週末を利用して、授業のフィールドワークとして訪問したいと考えています。それ以外にもミュージアムの見学、映画鑑賞、学外でのセミナーへの参加など、積極的に行動してくれる学生に取って欲しい授業です。 テーマは昨年と同じですが、授業内容は変わります。続けて履修したい方は相談してください。	1．映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』(その１) 2．映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』(その2) 3．映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』(その3) 4．パールハーバーと南京 5．「慰安婦」(その１) 6．「慰安婦」(その2) 7．靖国（その１） 8．靖国（その2） 9．東京 10．広島 11．沖縄 12．ロンドン 13．ベルリン 14．ワシントンＤＣ 15．まとめのディスカッション

到達目標	表象文化に関する専門知識を習得し、社会における表象の重要性や表象によって意味が構築される過程などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず事前にテクストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。
テキスト、参考文献	藤原帰一『戦争を記憶する』(講談社現代新書、2001、800 円)、 古市憲寿『誰も戦争を教えられない』(講談社＋α文庫、2015、850 円)、その他、論文、英文の新聞雑誌記事など。
評価方法	学期末に提出するレポートに加えて、教室での発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。

13 年度以降 12 年度以前	トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究） パフォーマンス研究	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
内容的には春学期の「表象文化論」(木曜日4限）の後編になりますが、こちらだけ受講しても、十分、理解できます。戦争と植民地支配の痕跡を、各地に残る記念碑などを通じて考察し、戦争の記憶についてディスカッションをしていきます。 「パフォーマンス研究」の授業なので、平田オリザ『ソウル市民』、井上ひさし『きらめく星座』、高山明『東京ヘテロトピア』など、演劇作品も入れましょう。 フィールドワークには、江東区枝川の朝鮮学校でおこなわれる李じょんみさんのコンサート（12月上旬予定）を考えています。 テクストの『忘却された支配』は、2015年『毎日新聞』の連載がもとになっています。 昨年の授業とは内容が異なります。昨年履修した方で登録希望の方はご相談ください。	1．記念碑と戦争の記憶 2．山口、宇部 3．筑豊、三池 4．知覧 5．花岡 6．長野、松代 7．新宿の人骨 8．アイヌの人骨 9．『きらめく星座』(その１) 10．『きらめく星座』(その２) 11．『ソウル市民』 12．枝川朝鮮学校 13．『東京ヘテロトピア』 14．記憶、歴史、パフォーマンス 15．まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず事前にテクストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。
テキスト、参考文献	伊藤智永『忘却された支配』(岩波書店、2016、2200 円)、その他、論文、英文の新聞雑誌記事など
評価方法	学期末に提出するレポートに加えて、教室での発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。

09 年度以降	開発文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の１つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう１つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、ＮＧＯや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。	１．講義の概要 ２．豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か　1 章 ３．近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） ４．貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3 章 ５．教育・学び・文化 4 章、5 章 ６．ジェンダーとフェミニズム 6 章 2 ７．宗教と社会開発 NGO　7 章 2 ８．ローカルメディアとアイデンティティ戦略　7 章 3 ９．開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8 章 2 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO　8 章 3 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策

到達目標	開発文化に関する専門知識を習得し、近代化イデオロギーとしての「開発」現象としてのグローバリゼーションの現実、グローバリゼーションへの反応としてのローカルな文化活動などについて分析を行い、事例について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。 ※DUO で各自購入してください
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（＋α）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の３点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	１．授業の概要 ２．社会学とは ３．諸概念の概説：トランスナショナリズムとは ４．国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア ５．国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路 ６．グローバル化と越境現象①： 移民とトランスナショナリズム ７．グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 ８．グローバル化と越境現象③： 若者の『文化移民』と日本回帰 ９．国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10．国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11．中間まとめ　※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12．アイデンティティについて　在日コリアンを例に 13．民際協力としての自治体国際協力 14．講義全体のまとめ 15．試験対策

到達目標	トランスナショナル社会学に関する専門知識を習得し、国民国家＝社会という枠組みから、国境を相対化したトランスナショナルな枠組みに置き換えて、移民、留学、結婚等の様々な社会的行為・現象について理解、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト、参考文献	参考文献は適宜授業中に示す。
評価方法	期末試験（85%）、学期中宿題としてレポート課題が１回ある（15%）。

09 年度以降	食の文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。	1．講義の概要 2．食の文化を見る眼：文化とは何か 3．食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4．私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5．遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6．マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7．ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8．食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9．コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」（re-localization） ※ビデオ　フランス映画『未来の食卓』 15. 講義のまとめと試験対策

到達目標	「食」というキーワードを手がかりに、グローバル化、ナショナル化に統合されていく「文化」の多様性の意義を再定義し、地域人・家庭人としての自分達の食事について理解、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト、参考文献	学期中レポート課題図書　トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。※各自で DUO で購入すること。
評価方法	期末試験（70%）、学期中レポート１回（30%）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと子ども）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
世界では約２億6000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバリゼーションや私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。 この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。	１．ガイダンス（概要と、予習・復習について） ２．アジアの児童労働 ３．タイのストリート・チルドレン ４．赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 ５．女性と子どものヒューマン・トラフィック Part I ６．女性と子どものヒューマン・トラフィック　PartII ７．ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み ８．日本の子どもの貧困 ９．在日外国人の子どもの問題（アクティブラーニング） 10．アフリカの子ども兵士 11．イラク戦争と子どもたち 12．子どもの権利の実現に向けての国連の役割 13．子どもと教育について（アクティブラーニング） 14．国連の安全保障と子どもの保護 15．今学期のまとめ（質疑応答など）

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと。
テキスト、参考文献	テキスト　初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015 年） 参考文献　授業中に紹介
評価方法	定期試験　80%、授業中に課すリアクションペーパー　20%

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
経済のグローバル化が進展しているが、女性はどのような影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジア開発銀行は『アジア2050－アジアの世紀の誕生』(2012)の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世界全体の50%を超えるとし、21世紀はまさしくアジアの世紀だと述べた。したがって、アジア経済の成長（および日本）と女性（ジェンダー）の関係に着目しながら、グローバル経済の実態を解いてゆく。この授業を通して、古典的国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの新国際分業、金融領域のグローバル化、そしてそれぞれにおける女性の労働の問題を理解し、自分自身の問題として考えることができるようになってもらいたい。	１．ガイダンス－授業の内容、進め方、予習復習について ２．古典的国際分業の成立と植民地・女性 ３．冷戦とアジアの工業化政策（1950・60年代） ４．新国際分業体制（1970年代）とアジアNIES・中国 ５．再生産領域の新国際分業とフィリピン（1980年代） ６．フィリピンの「移住労働の女性化」が抱える課題 ７．サービスの新国際分業インド・フィリピン（2000年代） ８．グローバリゼーションと新自由主義 ９．日本の女性の労働力の商品化“輝ける女性の活躍”？ 10．金融領域のグローバル化とは？ 11．アジア通貨危機を考える 12．金融領域のジェンダー化の問題 13．ASEANと東アジア共同体について 14．これからの中国の経済成長について考える 15．今学期のまとめ（質疑応答など）

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業の指示に従って予習を行うこと。復習は授業で示されるポイントに従って、プリントやノートに書かれたことをまとめておくこと。
テキスト、参考文献	授業の初回で参考文献リストを配布
評価方法	定期試験 80%、授業中に課すリアクションペーパー　20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています――いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ＆ラースン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。 そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie）」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。	1．ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2．写真の歴史①：遠近法と写真術 3．写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4．写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5．海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6．海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7．海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション 8．「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9．「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10．「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11．「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12．写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13．写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレイト 14．写真とツーリズム③： SNS時代の「観る」体験 15．まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論）	担当者	花本　広志

講義目的、講義概要	授業計画
シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。これらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の１つである「ＬＴＤ話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、小学校高学年～中学生向けのシティズンシップ教育用教材（１時限分）を作成することを目指します。 第１回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについてより詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第１回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。	1. オリエンテーション 2. ＬＴＤ導入ガイダンスとグループ分け 3. ＬＴＤの説明、予習及びミーティングの練習 4. ＬＴＤウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. ＬＴＤ第１回（市民性論・市民社会論） 6. ＬＴＤ第２回（シティズンシップ教育） 7. ＬＴＤ第３回（主権者教育） 8. ＬＴＤ第４回（法教育） 9. ＬＴＤ第５回（道徳教育との関係） 10. シティズンシップ教育用教材作成（その１） 11. シティズンシップ教育用教材作成（その２） 12. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業）１ 13. 教材発表会 （受講者作成教材による模擬授業）２（予備） 14. 教材発表会の反省会（予備） 15. 授業全体のまとめと振り返り、 ラーニング・ポートフォリオの説明

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修では、ＬＴＤの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのＬＴＤミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。
テキスト、参考文献	教材は、必要に応じてその都度配布します。ＬＴＤ話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟『実践・ＬＴＤ話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2006 年）などを参照してください。
評価方法	成果物とラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （トランスナショナルな公共圏を求めて）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
過去30年の間に、日本に定住する外国人の数は約200万人、人口の2%まで増加しています。しかし、言語、宗教、文化の背景を異にする人たちにとって、教育や仕事など、日本は必ずしも暮らしやすい社会とはいえません。 この授業では、「文化多様性」をキーワードに、さまざまな価値観を互いに尊重し合い、個人の権利を守る新しい社会を作り上げる方法を考え、自分たちにできることを、実行に移していくことを目標としています。クリエイティブな未来のために何ができるのか。共に考え、共に活動していく授業になればと思います。 受講生の熱意によってスリリングで、かつ実り多い授業になると思います。詳しい授業計画は初回の授業で提示します。 昨年の授業とは内容が異なります。昨年履修した方で登録希望の方はご相談ください。	1. 導入 2. 「多文化共生」と「文化多様性」について 3. グループワーク、ディスカッションなど 4. グループワーク、ディスカッションなど 5. グループワーク、ディスカッションなど 6. グループワーク、ディスカッションなど 7. グループワーク、ディスカッションなど 8. グループワーク、ディスカッションなど 9. グループワーク、ディスカッションなど 10. グループワーク、ディスカッションなど 11. グループワーク、ディスカッションなど 12. プレゼンテーション 13. プレゼンテーション 14. プレゼンテーション 15. まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。
テキスト、参考文献	論文の抜粋や、英文の新聞雑誌記事などを用います。
評価方法	学期末に提出するレポートに加えて、教室でお願いする発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル社会での平和）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
平和とは単に戦争やテロがない状態をいうのではなく、構造的暴力（貧困や差別・偏見によって生じる不平等や権力の非対称性など）のない状態をいう。今日のグローバル社会の中で、どのような構造的暴力が存在するのか、それに対して私たちは何ができるのだろうか。また、私たちにとって身近なアジアとの関係はどのような歩みを経て、何が問題となっているのかを振り返り、アジアの平和についても考えてみたい。そして、現代の紛争と平和構築の問題や環境問題についても取り上げる。この授業を通して、みなさんが国際社会の様々な問題についての構造を分析し、解決方法について考える力を身につけてくれることを期待する。	1．ガイダンス　平和学の基本概念について 2．低価格の洋服から考える平和 3．ファストファッションの是非を考える 4．モノから考えるグローバル経済と私たちがつくる平和 5．アジアのフェアトレード（民衆交易）とNGO 6．アジアの戦争と平和の歴史（1） 7．アジアの戦争と平和の歴史（2） 8．アジアの戦争ー和解に向けての市民交流やNGOの役割 9．地球人として平和を創るピースボート 10．グローバル時代の紛争と平和構築（1） 11．グローバル時代の紛争と平和構築（2） 12．移民・難民問題と日本 13．環境と平和について（1） 14．環境と平和について（2） 15．これまでのまとめ（質疑応答など）

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業に該当するテキストの部分を予習・あるいは復習としてまとめるよう、適宜指示していきます。
テキスト、参考文献	テキスト：堀芳枝編『学生のためのピースノート２』コモンズ、2015 年。 参考文献：授業で紹介する
評価方法	授業中に出す課題　20%　期末テスト 80%

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと市民社会）	担当者	堀　芳枝

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化が進む今日の国際社会において、NGOやNPOは市民社会の形成にどのような役割を果たしているのか。NGO（非政府組織）、NPO（非営利団体）、PO（住民組織）といった市民社会における主要なアクターの概念を理解し、アジアにおける平和運動や市民社会がどのような歴史を歩んできたのかについて考える。また、企業と異なるNGOやNPOはどのような組織形態で、どのようにマネージメントをしているのだろうか。非営利組織の運営という観点からもNGOやNPOを分析できるような力を身につけていきたいと思います。	1．ガイダンス 2．NPO、NGO、POについての概要 3．NPOの組織とマネージメント（1） 4．NPOの組織とマネージメント（2） 5．国際社会における市民運動の歴史を振り返る 6．日本の市民社会とNGO・NPO（1） 7．日本の市民社会とNGO・NPO（2） 8．フィリピンの市民社会とNGO（1） 9．フィリピンの市民社会とNGO（2） 10．タイの市民社会とNGO 11．カンボジアの市民社会とNGO（1） 12．カンボジアの市民社会とNGO（2） 13．バングラディシュの市民社会とNGO 14．アジア諸国の市民社会とNGOのまとめ 15．授業全体のまとめ　質疑応答など

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業に該当する資料の予習、あるいは復習を適宜指示しますので、それに従ってください。
テキスト、参考文献	参考文献：秦辰也編『アジアの市民社会と NGO』晃洋書房、2014 年。ピーター・ドラッカー『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007 年。
評価方法	授業中に出す課題　20%　期末テスト 80%

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。 下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。	1. 中世英国のユダヤ人金融。 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 —1290年のイングランド— 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年。 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 6. 英国人地主貴族社会への同化現象。 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 12. 黒人の反ユダヤ主義。 13. 英労働党の反ユダヤ主義。 14. 在英ムスリム社会の反ユダヤ主義。 15. パレスチナ難民の救援とパレスチナへの送り出し。

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト、参考文献	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持込み可。出席はとらない。

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English. This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.	1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 15. Final Test (Essay)

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 小クイズ（抜き打ち）の準備
テキスト、参考文献	Materials will be handed out in class.
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語概論 a）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。 講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、まずは言語についての一般的な問題を取り上げる。言語学概論とだぶる部分も出てくるとは思うが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたい。	1．ことばの不思議–導入と年間計画 2．ことばの不思議（1） 3．ことばの不思議（2） 4．ことばの不思議（3） 5．ドイツ語の履歴書–ドイツ語史（1） 6．ドイツ語の履歴書–ドイツ語史（2） 7．それってドイツ語–ドイツ語の方言 8．文法のお話（1）–品詞ってなに 9．文法のお話（2）–木を見て森を見ず 10. 文法のお話（3）–パンドラの箱 11. 辞書は大きなおもちゃ箱 12. 言語というブラックホール 13. 言語のたのしみ 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索
テキスト、参考文献	適時講義で指示
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語概論 b）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。 講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたい。	1．言語は怪人二十面相 2．言語学の歴史 3．音の世界–音声学・音韻論 4．形にこだわって–形態論 5．文の組み立てについて–統語論 6．意味って何（1）–意味論 7．意味って何（2）–意味論 8．言語は生き物（1）–実用論 9．言語は生き物（2）–実用論 10. 言語と社会–社会言語学 11. 言語と心–言語心理学あるいは認知 12. 言語研究への道 13. 言語研究への道 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索
テキスト、参考文献	適時講義で指示
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏文学・思想概論 a）	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ いわゆるゲーテ時代のさまざまな人間観について吟味し、できるだけ現代の人間観、人間が抱える諸問題などと関連づけながら考察することを目標とします。 ＜講義概要＞ イマヌエル・カントのエッセイ「啓蒙とは何か？」を読んで当時の人間観について概観したのちに、同時代の他の文学作品などから人間に関する描写、考察、分析をしている箇所を拾い出して読んで行きます。	1．オリエンテーション 2．カント『啓蒙とは何か』を読む 3．カント『啓蒙とは何か』を読む／ 「啓蒙」によって得られるもの，失われるもの 4．「啓蒙」によって得られるもの，失われるもの 5．ゲーテ『若きヴェルターの悩み』を読む 6．「ヴェルター的悩み」とは？ 7．シラー『招霊妖術師』を読む 8．「啓蒙」の時代とオカルト・ブーム 9．ゲーテ『ファウスト』を読む 10. 人間を「調合」？する 11. 『ファウスト』第二部、最終場面について 12. 『魔笛』を見る 13. 『魔笛』を読む 14. クニッゲ『人間交際術』を読む 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補　ドイツ文学案内』岩波文庫
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏文学・思想概論 b）	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ドイツ語で書かれた代表的な文学作品を、いわゆるジャンルごとにいくつか取り上げ、ジャンルとしての特徴などを検討しながら、楽しむ（深読みする？）ことを目標とします。 ＜講義概要＞ 右記の通り、ドイツ語で書かれたメルヒェン、詩、小説、ドラマの各ジャンルから代表作品を選び、内容を概観した上で、いろいろな視点から解釈（つまり、深読み）して行きます。	1．オリエンテーション 2．メルヒェン（1） 3．メルヒェン（2） 4．メルヒェン（3） 5．ドイツの詩（1） 6．ドイツの詩（2） 7．ドイツの詩（3） 8．ドイツの詩（4） 9．ドイツの小説（1） 10. ドイツの小説（2） 11. ドイツの小説（3） 12. ドイツのドラマ（1） 13. ドイツのドラマ（2） 14. ドイツのドラマ（3） 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補　ドイツ文学案内』岩波文庫
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏芸術・文化概論 a）	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　これからドイツ語圏の芸術･文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 ＜講義概要＞ 　ドイツ語圏の芸術･文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術･文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 　春学期は、ルネサンス･宗教改革期からロマン派までを扱う。 　春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1．オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2．ルネサンス・宗教改革期① 3．同② 4．同③ 5．三十年戦争・バロック期① 6．同② 7．同③ 8．啓蒙主義時代① 9．同② 10．同③ 11．ロマン派① 12．同② 13．同③ 14．グリムのメルヒェン 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。
テキスト、参考文献	テキスト：　特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：　テーマごとのレジュメ末尾に記載する。
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏芸術・文化概論 b）	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 　これからドイツ語圏の芸術･文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 ＜講義概要＞ 　ドイツ語圏の芸術･文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術･文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。 映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 　秋学期は、19 世紀後半から現代までを扱う。 　春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1．オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2．19世紀後半①　ニーチェとヴァーグナーをめぐって 3．同② 4．世紀転換期①　ウィーン世紀末を中心に 5．同② 6．モダニズム①　ドイツ表現主義を中心に 7．同② 8．ヴァイマル文化① 9．同② 10．ナチズムと芸術① 11．同② 12．同③ 13．現代へ：新たな芸術の展開①　J. ボイスをめぐって 14．同② 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。
テキスト、参考文献	テキスト：　特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：　テーマごとのレジュメ末尾に記載する。
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽Ⅰ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
フランスの芸術音楽が時代や社会の変化とともにどのように変遷してきたかを学び、現代の音楽状況を考える手立てとします。 春学期は、西洋音楽の源と考えられるグレゴリオ聖歌から掘り起こし、中世、ルネサンスのフランス人の活躍を辿ります。そして17世紀バロック時代から19世紀ロマン派時代までの主要なオペラと器楽を対象とします。周辺の国の音楽と適宜比較しながらフランス音楽の特徴を実感できるようにしていきます。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。	1．ガイダンス 2．グレゴリオ聖歌と中世の世俗音楽 3．ルネサンスまでのフランス音楽 4．オペラの始まり 5．バロック時代のフランス・オペラ 1：リュリ 6．バロック時代のフランス・オペラ 2：ラモー 7．クープランのクラヴサン曲 8．M.-A.シャルパンティの世俗曲と宗教曲 9．ブフォン論争 10. 18 世紀後半のフランスの交響曲 11. ロマン主義とベルリオーズ 12. オッフェンバック：地獄のオルフェ 13. ビゼー：カルメン 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。
評価方法	中間と期末の 2 回の試験の合計（50＋50＝100 点満点）による。受験資格：各期の 3 分の 2 以上の出席。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽Ⅱ）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
フランスの芸術音楽が時代や社会の変化とともにどのように変遷してきたかを学び、現代の音楽状況を考える手立てとします。 秋学期は、19世紀後半から20世紀初めのフランスの中心的な作曲家に焦点を当てて、フランス音楽のひとつの黄金時代を築いた作品を詳しく見ていきます。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。	1．ガイダンス 2．歌曲 1：グノー 3．歌曲 2：デュパルク 4．歌曲 3：ショーソン 5．歌曲 4：フォーレ 6．ピアノ曲 1：フォーレ 7．ピアノ曲 2： ドビュッシー1 8．ピアノ曲 3：ドビュッシー2 9．ピアノ曲 4：ラヴェル 10. 管弦楽曲 1：ドビュッシー1 11. 管弦楽曲 2：ドビュッシー2 12. 管弦楽曲 3：ラヴェル 1 13. 管弦楽曲 4：ラヴェル 2 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。
評価方法	中間と期末の 2 回の試験の合計（50＋50＝100 点満点）による。受験資格：各期の 3 分の 2 以上の出席。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術Ⅰ）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 17 世紀から 19 世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテクストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1．イントロダクション 2．ニコラ・プッサン（1594-1665） 3．シモン・ヴーエ（1590-1649） 4．ジョルジュ・ド・ラトゥール(1593-1652) 5．フランソワ・ブーシェ（1703-1770） 6．ジャン=シメオン・シャルダン（1699-1779） 7．ジャック=ルイ・ダヴィッド（1748-1825） 8．ジャン=ドミニク・アングル（1780-1867） 9．ユジェーヌ・ドラクロワ（1798-1863） 10．ジャン=フランソワ・ミレー（1814-1875） 11．エドゥアール・マネ（1832-1883） 12．印象派 1 13．印象派 2 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。画集などで作品に親しむ
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー、美術館見学レポート、学期末試験

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術Ⅱ）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 19世紀フランスでは、誕生したばかりの近代社会を背景に、国家（権力）による強力な美術政策との緊張関係、また新たに与えられたチャンスのなかで数多くの作品が生み出されてきました。前半ではそうした国家と美術との関係に着目します。後半はフランス美術とわたしたちの国をはじめとする「非西洋」世界との関わりを取りあげてゆきます。毎回一つの作品を起点とし、それが提起する問題について理解を深めることを目的とします。 講義概要： 画像や映像を用いて作品を見ながら解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出していただきます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1．イントロダクション 2．ダヴィッド《ナポレオンの戴冠》（1805-07） 3．ジェリコー《メデューズ号の筏》（1819） 4．ドーミエ《ガルガンチュア》（1831） 5．クールベ《オルナンの埋葬》（1850） 6．ロダン《地獄の門》（1880-1917） 7．印象派と第三共和政の美術行政 8．ドラクロワ《アルジェの女たち》（1834） 9．モネ《ラ・ジャポネーズ》（1876） 10．ゴーギャン《マナオ・トゥパパウ》（1892） 11．ピカソ《アヴィニョンの娘たち》（1907） 12．プリミティヴィスムとは何か 13．ルソー《蛇使いの女》（1907） 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。画集・画像等で作品に親しむ。
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー、美術館見学レポート、学期末試験

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。	１　スパイ映画「００７ スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ５　　同上 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ８　　同上 ９　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 １０　　同上 １１　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １２　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １３　　同上 １４　原作者イアン・フレミングの世界 １５　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	『グローバル社会論資料集』
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
英国スパイ・アクション映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。	１　スパイ映画「００７ スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ５　　同上 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ８　　同上 ９　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 １０　　同上 １１　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １２　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １３　　同上 １４　原作者イアン・フレミングの世界 １５　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	『グローバル社会論資料集』
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト、参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	平常点 20%、試験 80%

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体制 3　行為主体（2）国際組織 4　行為主体（3）ＮＧＯ、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）ＡＳＥＡＮ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーションとは何か 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト、参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	平常点 20%、試験 80%

09 年度以降	国際協力論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。 第２の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考え、さらにMDGsなどを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。 第３の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代における開発のトレンドを探りつつ、新たな国際協力の方向性や課題について考察します。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション ＜国際協力の歴史＞ ２．植民地時代の「国際協力」 ３．冷戦時代の国際協力 ４．戦後日本の国際協力 ５．ポスト冷戦時代の国際協力 ＜開発途上国の開発と国際協力＞ ６．経済開発の基本形と途上国の実態 ７．高度経済成長の要因と弊害 ８．経済発展と民主化のジレンマ ９．国際援助レジームとその実績 10．ミレニアム開発目標（MDGs）とSDGs ＜グローバル化時代の開発と国際協力＞ 11．開発途上国にとってのグローバル化 12．南北問題の複雑化と中国の「国際協力」 13．環境問題と国際協力 14．イスラムと国際協力 15．まとめ

到達目標	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例の分析、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	国際開発論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。 シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。 常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。 ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。	1　世界のエアライン・ホテル・リゾート 2　世界のエアライン：ＴＯＰ　１０ 3　世界のエアライン：ＴＯＰ　１０ 4　世界のエアライン：ランキングで見る特色 5　世界のエアライン：ランキングで見る特色 6　世界の国際空港　エアポート：ＴＯＰ　１０ 7　海洋リスク 8　　同上 9　　同上 10　小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く 11　世界のホテル 12　世界のホテル 13　世界のホテル 14　日本のツーリズム：ＪＴＢ、国際観光ホテル、東京 15　日本のツーリズム：ＪＴＢ、国際観光ホテル、東京

到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・ビデオ映像の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	竹田いさみ『世界を動かす海賊』（ちくま新書）など。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	国際交流論	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の狙いは、学生が国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。 授業は2つのパートから構成されます。前半のパート１では異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパート２では、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果と課題を考えます。 受講者数にもよりますが、可能な範囲で小グループによるディスカッションも取り入れます。 将来に向けて、国際交流力を付けたいと考えているやる気のある学生の受講を歓迎します。	1. 講義の概要 2. 国際交流の変遷と多様化 3. 多文化の世界を考える(1) 4. 多文化の世界を考える(2) 5. 異文化との交流を考える(1) 6. 異文化との交流を考える(2) 7. 異文化との交流を考える(3) 8. 異文化との交流を考える(4) 9. 国際交流：政府及び地域の国際交流 10. 国際協力：政府開発援助（開発協力）の活動 11. 国際協力：青年海外協力隊（JOCV）の活動 12. 国際協力：開発コンサルタントの仕事 13. 国際協力：国際公務員（国際機関）の仕事 14. 講義のまとめ (1) 15. 講義のまとめ (2)

到達目標	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。
テキスト、参考文献	石川幸子著『世界のどこでも誰とでもうまくいくコミュニケーションの技術』(仮タイトル)（同文館、2017 年 4 月）　参考文献：石川幸子著『敵をもファンに変える超一流の交渉術』（実務教育出版、2016 年）
評価方法	定期試験 80%、授業内レポート 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

09 年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援におけるODAやNGOの役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODAの新たなトレンドと課題を探ります。 第２の「NGOの役割と課題」ではNGOの歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発とNGOの関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。また、日本のNGOにも注目し、その実績と課題を検討します。 最後に、「国際協力の新たなテーマとNGO」として、近年注目されている幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助のあり方について検討します。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO ＜開発援助の仕組みと展開＞ ２．ODAの仕組みとトレンド ３．日本のODAの特徴 ４．日本の援助実績 ５．開発援助の問題点 ６．ODAの課題と改革 ＜NGOの役割と課題＞ ７．国際援助の新たなトレンドとNGO ８．NGOの定義と歴史的経緯 ９．NGOの機能と途上国での役割 10．開発とNGO：ケーススタディ・バングラデシュ 11．日本における市民活動の歴史と国際協力NGO 12．日本の国際協力NGOの実績と課題 ＜国際協力の新たなテーマとNGO＞ 13．マイクロクレジットという方法 14．ジェンダー問題と開発 15．仕事としての国際協力−NGOで働く

到達目標	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

09 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結時まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。 多くの日本人が観光客、留学生として訪問し、また経済的にも日本と繋がりが深い国でありながら、オーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ないのが現状である。また知りたいと思っても、日本では情報がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。 本講義では、イギリス人が 18 世紀後半に入植して、6つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが 1901 年にオーストラリア連邦として独立し、そして 20 世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス(英帝国、英連邦)やアメリカ、アジア地域(日本や中国、東南アジア)との関係性の中で振り返って行く。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回:イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 第2回:植民地オーストラリア①～植民地の誕生 第3回:植民地オーストラリア②～植民地の発展 第4回:大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～英帝国のなかのオーストラリア 第5回:大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英連邦、コモンウェルスのなかのオーストラリア 第6回:ゴールドラッシュと白豪主義政策 第7回:多文化主義社会オーストラリア 第8回:講義前半の総括と質疑応答 第9回:20 世紀初頭の戦争とオーストラリア～「二つのナショナリズム」 第 10 回:20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神 第 11 回:20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第 12 回:第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論 第 13 回:2つの捕虜収容所～アンボンとカウラ 第 14 回:対日講和問題とオーストラリア 第 15 回:総括と質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト:永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献:講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施(30%)と学期末の定期試験(70%)による評価。

09 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。 それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。本講義では、戦後のアジア太平洋国際関係においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には 21 世紀の国際関係において日本が学ぶべきものは何かを考えてもらいたい。 本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリア外交の歴史を概観していく。 本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。	第1回:イントロダクション～オーストラリア外交を見る眼 第2回:チフリー労働党政権の外交～新たな国際関係構築の模索 第3回:アンザス同盟の実現 第4回:冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争、第一次インドシナ危機 第5回:冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」 第6回:冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第7回:ポストベトナムのオーストラリア外交 第8回:講義前半の総括と質疑応答 第9回:冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」 第 10 回:ミドルパワー外交①その定義 第 11 回:ミドルパワー外交②その実践 第 12 回:アジア太平洋地域の経済統合 第 13 回:日豪関係の歴史的展開①～戦後から 70 年代 第 14 回:日豪関係の歴史的展開②～80 年代以降 第 15 回:21世紀オーストラリア外交の行方＆質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト:永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献:講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施(30%)と学期末の定期試験(70%)による評価。

13 年度以降	グローバル・ヒストリーa	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦（The Cold War）」の展開を考察する。 春セメスターでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関やNGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3　ヨーロッパ冷戦の起源 4　ヨーロッパ分断体制の形成（1） 5　ヨーロッパ分断体制の形成（2） 6　「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7　ヨーロッパ植民地支配の終焉：アフリカ 8　冷戦構造の多極化とデタント 9　米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10　デタントの崩壊 11　新冷戦とヨーロッパ 12　冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフ、東欧革命 13　冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14　冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を講義の事前・事後に読むこと
テキスト、参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する
評価方法	平常点 20%、定期試験 80%

13 年度以降	グローバル・ヒストリーb	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。 秋セメスターでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3　大戦の終結と占領：日本帝国の解体 4　朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5　脱植民地化（1）：南アジア、東南アジア 6　脱植民地化（2）：中東 7　非同盟・中立運動 8　アジア冷戦における中ソ対立 9　ベトナム戦争 10　米中和解 11　1970年代の地域紛争 12　新冷戦とアジア 13　経済発展と民主化 14　冷戦の終焉とアジア 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を講義の事前・事後に読むこと。
テキスト、参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する。
評価方法	平常点 20%、定期試験 80%

13 年度以降	グローバル社会特殊講義（水２）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係（構造やプロセス）と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。 講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係（冷戦）がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。 イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体（を考えること）が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。	1. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 2. 国際政治と帝国・脱植民地化① 3. 国際政治と帝国・脱植民地化② 4. 国際政治と帝国・脱植民地化③ 5. 国際政治と帝国・脱植民地化④ 6. 国際政治と帝国・脱植民地化⑤ 7. 前半の授業のまとめと質疑応答 8. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生（その1） 9. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の誕生（その2） 10. イギリス帝国の誕生と発展③～英帝国の再編（その1） 11. イギリス帝国の誕生と発展④～英帝国の再編（その2） 12. イギリス帝国の誕生と発展⑤～英帝国の発展（その1） 13. イギリス帝国の誕生と発展⑥～英帝国の発展（その2） 14. イギリス帝国の解体、脱植民地化（総論） 15. 授業の総括

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。
評価方法	リアクションペーパーの提出（40％）と学期末試験（論述形式、60％）による。

09 年度以降	グローバル社会特殊講義（金２）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論(conflict theories)と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。 講義は3つのパートから構成されます。まず、パート１で、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート２で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート３では、日本の政府開発援助(開発協力)で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践について学びます。事例研究として、カンボジアやフィリピン（ミンダナオ）等の具体的な平和構築活動を紹介し、平和実現のための国際協力の考え方が各国の事例においてどのように反映されているかを検討します。	1. 講義の概要 2. 紛争の歴史と変容 3. 冷戦後の新しい紛争(1) 4. 冷戦後の新しい紛争(2) 5. 平和のための国際機構(1) 6. 平和のための国際機構(2) 7. 平和のための法 8. 人間の安全保障の考え方(1) 9. 人間の安全保障の考え方(2) 10. 軍事介入（保護する責任） 11. 人道援助 12. 開発援助（開発協力） 13. 開発援助（開発協力）の事例研究 14. 講義のまとめ(1) 15. 講義のまとめ(2)

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。
テキスト、参考文献	適宜，授業の中で紹介します。
評価方法	定期試験 100%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト、参考文献	
評価方法	

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
政治リスクに関する調査会社「ユーラシア・グループ（Eurasia Group）」が毎年1月に発表する国際政治情勢予測『重大リスク(Top Risks)』の2016年版と2017年版を読み、国際情勢の理解を深めることを目的とする。15年度版ではヨーロッパの政治情勢が最大のリスクであると予測し、実際にその年には、ギリシャの債務危機が発生、またテロや移民問題が深刻化し、ヨーロッパは不安定化した。 本講義で取り上げる16年版では、最大リスクは「同盟の空洞化」であるとし、ヨーロッパの情勢不安定とアメリカの単独主義的スタンスによって同盟関係が損なわれ、国際安全保障システム全体が大きく揺らぐとしていたが、果たして実際にはどうであったのか、出席者と考えてみたい。また17年版では、「単独主義的傾向を強めるアメリカ」が最大リスクとされている。本講義実施時（17年秋）ごろには、この点についても一定程度の評価が可能になっているであろう。	1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 8. 前半の総括と質疑応答 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫ 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	Ian Bremmer & Cliff Kupchan, *Top Risks 2016 & 2017*, Eurasia Group. 16 年版はポータルサイトを通じて配布、17 年版は http://www.eurasiagroup.net/でダウンロード可能。
評価方法	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(50%)、②最終レポート(50%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて各国の学者による論文を読み解きながら、理解を深めていくことを目的とします。授業では、 1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。 授業の流れは以下のとおり。プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチ。 授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。東アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を期待します。	1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等 2. Introduction:人間の安全保障にかかる講義 1 3. Introduction:人間の安全保障にかかる講義 2 4. Human security in Japan 5. Human security in Cambodia 1 6. Human security in Cambodia 2 7. Human security in Indonesia 1 8. Human security in Indonesia 2 9. Human security in Malaysia 1 10. Human security in Malaysia 2 11. Human security in Myanmar 1 12. Human security in Myanmar 2 13. Review of the studied papers 14. 課題スピーチ 15. 課題スピーチ

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。
テキスト、参考文献	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ“Human Security in Practice: East Asian Experience”詳細については、最初の授業で説明します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度８５％。課題スピーチ１５％

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「人間の安全保障（human security）」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて各国の学者による論文を読み解きながら、理解を深めていくことを目的とします。授業では、 1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます。 2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。 授業の流れは以下のとおり。プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には５分間の課題スピーチ。 授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。東アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を期待します。	1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等 2. 人間の安全保障にかかる概念レビュー 3. ASEAN 各国の人間の安全保障レビュー（カンボジア、インドネシア、マレーシア、ミャンマー） 4. Human security in Philippines 1 5. Human security in Philippines 2 6. Human security in Singapore 1 7. Human security in Singapore 2 8. Human security in Thailand 1 9. Human security in Thailand 2 10. Human security in Vietnam 1 11. Human security in Vietnam 2 12. Human security in South Korea 13. Human security in China 14. 課題スピーチ 15. 課題スピーチ

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。
テキスト、参考文献	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ“Human Security in Practice: East Asian Experience”詳細については、最初の授業で説明します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度８５％。課題スピーチ１５％

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏歴史概論 a）	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。 【講義概要】 ハプスブルク君主国は中世から第一次世界大戦の終わりまでヨーロッパに存在した国家である。ここでは便宜上「ハプスブルク君主国」と呼んでいるが、実は 19 世紀になるまで正式な国家名称は存在することもなく、とらえどころのないあいまいな国家であった。その支配領域も中核となったオーストリア諸邦に加え、現在のチェコ、スロヴァキア、ハンガリー、スロヴェニア、クロアチア等々、多岐にわたり、言語構成も民族構成も多様であった。 春学期は、ドイツ語圏の歴史過程に大きな影響を与えていたハプスブルク君主国を中心に、神聖ローマ帝国解体までのドイツ語圏の歴史について扱う。	第1回　授業ガイダンス 第2回　総論「ハプスブルク君主国の特色」 第3回　婚姻政策による拡大 第4回　オーストリア家、世界帝国への道 第5回　宗教改革、宗派化の時代 第6回　三十年戦争 第7回　ヴェストファーレン体制 第8回　第二次ウィーン包囲とその記憶 第9回　国事詔書と継承戦争 第10回　マリア・テレジア 第11回　ヨーゼフ 2 世の啓蒙改革（I） 第12回　ヨーゼフ 2 世の啓蒙改革（II） 第13回　ナポレオン戦争と神聖ローマ帝国解体 第14回　まとめ 第15回　達成目標の確認テスト

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。
評価方法	平常授業での課題（100%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏歴史概論 b）	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。 【講義概要】 春学期に引き続き、秋学期では１９世紀以降のドイツ語圏の歴史について扱っていく。本講義には二つの軸がある。ハプスブルク君主国の解体過程とドイツ国民（帝国）の形成過程である。 多様な民族構成を持っていた近代のハプスブルク君主国について学ぶことは、移民の背景を持つ人々が増加傾向にある現代のドイツ語圏の社会を考える上でも、あるいは我々自身の社会を考えていく上でも非常に重要なことである。 また、それまでバラバラの領邦国家に分散していたドイツ国民がいかにして誕生したのか、いかにしてドイツ国民というアイデンティティを生み出したのかについても考えていく。 理解を深めるため、春学期と継続して履修することが好ましい。	第1回　授業ガイダンス、 19 世紀までのドイツ語圏の歴史概観 第2回　ウィーン会議とウィーン体制 第3回　三月前期 第4回　1848 年革命（I） 第5回　1848 年革命（II） 第6回　ドイツ帝国の誕生（I） 第7回　ドイツ帝国の誕生（II） 第8回　ドイツ帝国誕生の裏側：その時、ハプスブルクは 第9回　第一次世界大戦（I） 第10回　第一次世界大戦（II） 第11回　ヴァイマル共和国 第12回　ポスト・ハプスブルクの時代 第13回　ナチズムの時代 第14回　まとめ 第15回　達成目標の確認テスト

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。
評価方法	平常授業での課題（100%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅰ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。 政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。	1．講義目的・概要・評価方法の説明 2．フランス政治史① 3．フランス政治史② 4．フランス政治史③ 5．現代フランスの政治システムの概要 6．議会 7．官僚制 8．中間まとめ 9．政党システム① 10．政党システム② 11．選挙 12．政治的リーダーシップ 13．政策決定過程 14．最近の政治動向 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。
評価方法	中間テスト 20%・期末テスト 80%。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。 やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅱ）	担当者	尾玉　剛士

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学びます。 フランスは北欧諸国と並ぶ巨大な福祉国家であり（対GDP比）、公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。日本でも、少子高齢化、雇用や家族の不安定化などを背景として、社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義では、まず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革動向について解説します。講義と試験を通じて、年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。	1．講義目的・概要・評価方法の説明 2．フランスの社会保障システム 3．フランスの経済・人口・社会の動向 4．年金① 5．年金② 6．中間まとめ 7．医療保険① 8．医療保険② 9．高齢者介護 10．雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職） 11．最低所得保障（生活保護）① 12．最低所得保障（生活保護）② 13．家族政策（子ども手当・保育サービス） 14．社会保障財政 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのか注意しながら学びを深めてください。
テキスト、参考文献	参考文献リストを含む資料を毎回配布します。
評価方法	中間テスト 20%・期末テスト 80%。中間テストの無断欠席は 0 点扱いとします。 やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅰ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とする。 学期の前半では、第四共和政期までのフランスの政治経済の変遷を歴史的に辿ったうえで、第五共和政の政治制度の特徴について学んでいく。さらに、第五共和政期については、歴代大統領の下で、それぞれどのような政策が実施されたかを確認する。学期の後半では、いくつかのトピックを取り上げて、フランス経済の現在の状況について検討していきたい。	1．ガイダンス 2．第二帝政以前 3．第三共和政からヴィシー期 4．第四共和政期 5．第五共和政の成立と政治制度 6．ドゴール、ポンピドゥー、ジスカールデスタン 7．ミッテラン時代 8．シラク時代 9．サルコジからオランドへ 10．戦後のフランス経済 11．失業問題 12．産業構造 13．税制 14．フランスの国際競争力 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト、参考文献	テキストは用いない。参考文献は授業中に紹介する。
評価方法	複数回のテスト（90%）と授業への参加度（10%）によって評価する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済Ⅱ）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、ドイツ一人勝ちと言われる現在のEUにおけるフランスの役割について考えていきたい。	1．ガイダンス 2．戦前の統合構想（1） 3．戦前の統合構想（2） 4．第2次大戦期の統合構想 5．戦後復興と経済近代化 6．シューマン・プランとECSC 7．欧州防衛共同体構想 8．EECの設立に向けて 9．ドゴールとヨーロッパ統合（1） 10．ドゴールとヨーロッパ統合（2） 11．1970年代のフランスと統合 12．ミッテラン時代の統合政策 13．EU誕生から今日まで（1） 14．EU誕生から今日まで（2） 15．まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト、参考文献	テキストは用いない。参考文献は授業中に紹介する。
評価方法	複数回のテスト（90%）と授業への参加度（10%）によって評価する。

2017 年度

第二外国語（英語プラス1言語）
【全学共通授業科目】
シラバス

09 年度以降	ドイツ語（Ia 総合 1）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 1 (3) 5. Lektion 2 (1) 6. Lektion 2 (2) 7. Lektion 2 (3) 8. Lektion 3 (1) 9. Lektion 3 (2) 10. Lektion 3 (3) 11. Lektion 4 (1) 12. Lektion 4 (2) 13. Lektion 4 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ib 総合 1）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 5 (1) 3. Lektion 5 (2) 4. Lektion 5 (3) 5. Lektion 6 (1) 6. Lektion 6 (2) 7. Lektion 6 (3) 8. Lektion 7 (1) 9. Lektion 7 (2) 10. Lektion 7 (3) 11. Lektion 8 (1) 12. Lektion 8 (2) 13. Lektion 8 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ia 総合 2）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 1 (3) 5. Lektion 2 (1) 6. Lektion 2 (2) 7. Lektion 2 (3) 8. Lektion 3 (1) 9. Lektion 3 (2) 10. Lektion 3 (3) 11. Lektion 4 (1) 12. Lektion 4 (2) 13. Lektion 4 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ib 総合 2）	担当者	Ｓ．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 5 (1) 3. Lektion 5 (2) 4. Lektion 5 (3) 5. Lektion 6 (1) 6. Lektion 6 (2) 7. Lektion 6 (3) 8. Lektion 7 (1) 9. Lektion 7 (2) 10. Lektion 7 (3) 11. Lektion 8 (1) 12. Lektion 8 (2) 13. Lektion 8 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ia 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ib 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht's nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIa　総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIb 総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIa　総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIb 総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIa 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIb 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIIa 応用）	担当者	E．ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 ＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト、参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIIb 応用）	担当者	E．ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材 ＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト、参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ 総合 1）	担当者	大原　知子

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ia 総合 1) は日本人講師、(Ia 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この (Ia 総合 1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1．ガイダンス、1a 2．1a, 1b 3．2a, 2b 4．2a, 2b 5．3a, 3b 6．3a, 3b 7．révision bilan 8．4a, 4b 9．4a, 4b 10．5a, 5b 11．5a, 5b 12．6a, 6b 13．6a, 6b 14．7a 15．révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（Ｉｂ 総合 1）	担当者	大原　知子

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(Ib 総合 1) は日本人講師、(Ib 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この (Ib 総合 1) では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1．révision bilan 2．7b 3．8a, 8b 4．8a, 8b 5．révision bilan 6．9a, 9b 7．9a, 9b 8．10a, 10b 9．10a, 10b 10．révision bilan 11．11a, 11b 12．11a, 11b 13．12a, 12b 14．12a, 12b 15．révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（I a 総合 2）	担当者	B．ピケ

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ia 総合 1：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（I b 総合 2）	担当者	B．ピケ

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ib 総合 1：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ｉａ　応用）	担当者	林　ゆき

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、フランス語の基本的な運用能力の習得を目指します。フランス語力の基礎となる最初歩の文法事項を学びながら、聞き取り、語彙や会話表現、発音の学習も行います。春学期終了時に仏検（フランス語技能検定試験）５級に合格できるレベル達成を目指し、仏検の対策として過去問の演習や模擬試験を行います。また、言語の学習を通して、フランス語圏の文化や日常に関する知識・関心も高めていきましょう。	１．アルファベ、挨拶、綴り字の読み方 ２．名詞の性と数、冠詞 ３．主語人称代名詞、動詞êtreとavoir ４．-er動詞、否定文、疑問文 ５．形容詞 ６．指示形容詞、所有形容詞、強勢形 ７．-ir動詞、動詞allerとvenir、定冠詞の縮約 ８．命令法、前置詞の用法 ９．不規則動詞 10．非人称構文 11．応答問題（１）疑問詞を用いない疑問文 12．応答問題（２）疑問詞を用いる疑問 13．対話文読解 14．対話文聞きとり 15．まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次回授業で扱う章の文法説明に目を通し、新出単語の意味を確認しておく。宿題として指示された練習問題を解き、授業で学んだ文法事項や語彙を復習する。
テキスト、参考文献	テキスト：富田正二『ニヴォー・カトル―教室で学ぶ仏検４級―』（駿河台出版社） 参考文献：フランス語の辞書、参考書については授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的な参加 30%、小テストあるいは中間試験の成績 30%、最終試験 40%

09 年度以降	フランス語（Ｉｂ　応用）	担当者	林　ゆき

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、フランス語の総合的な運用能力の習得を目指します。フランス語力の基礎となる文法事項を学びながら、聞き取り、語彙や会話表現、発音の学習も行います。秋学期終了時に仏検（フランス語技能検定試験）４級に合格できるレベル達成を目指し、仏検の対策として過去問の演習や模擬試験を行います。また、言語の学習を通して、フランス語圏の文化や日常に関する知識・関心も高めていきましょう。	１．冠詞 ２．目的語人称代名詞 ３．中性代名詞、指示代名詞 ４．代名動詞、比較級・最上級 ５．不定詞や節を伴って用いられる動詞 ６．直説法複合過去形 ７．直説法半過去、単純未来 ８．現在分詞とジェロンディフ、受動態 ９．関係代名詞、強調構文 10．前置詞 11．応答問題（１）計画、気持ちを言う、たずねる 12．応答問題（２）状況、日常について話す 13．対話文読解 14．対話文聞きとり 15．まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次回授業で扱う章の文法説明に目を通し、新出単語の意味を確認しておく。宿題として指示された練習問題を解き、授業で学んだ文法事項や語彙を復習する。
テキスト、参考文献	テキスト：富田正二『ニヴォー・カトル―教室で学ぶ仏検４級―』（駿河台出版社） 参考文献：フランス語の辞書、参考書については授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的な参加 30%、小テストあるいは中間試験の成績 30%、最終試験 40%

09 年度以降	フランス語（Ⅱa 総合 1）	担当者	平井　康和

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(IIa 総合 1) は日本人講師、(IIa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIa 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（Ⅱb 総合 1）	担当者	平井　康和

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(IIb 総合 1) は日本人講師、(IIb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIb 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（Ⅱa 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(IIa 総合 1) は日本人講師、(IIa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIa 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（Ⅱb 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、(IIb 総合 1) は日本人講師、(IIb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIb 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（Ⅱa 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
(1) 初級文法の知識を実際のフランス語を読むことに応用する力をつける。 (2) 絵画の説明を通して，事物を描写する力をつける。	(1) être, avoir, 提示表現 (2) être, avoir, 規則動詞，Jongkind 1 (3) être, avoir, 規則動詞，Jongkind 2 (4) 2 つ目のタイプの動詞, Sisley 1 (5) 2 つ目のタイプの動詞, Sisley 2 (6) 2 つ目のタイプの動詞, Ingres 1 (7) 2 つ目のタイプの動詞, Ingres 2 (8) まとめ，復習 (9) 関係代名詞，複文, Renoir 1 (10) 関係代名詞，複文, Renoir 2 (11) 関係代名詞，複文, Cézanne 1 (12) 関係代名詞，複文, Cézanne 2 (13) まとめと復習 1 / (14) まとめと復習 2 (15) 総まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：文法部分を読んでおいてください。事後：本文内容を把握しているか確認してください。
テキスト、参考文献	中山真彦，オルセー美術館にて，朝日出版社
評価方法	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）

09 年度以降	フランス語（Ⅱb 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
(1) 初級文法の知識を実際のフランス語を読むことに応用する力をつける。 (2) 絵画の説明を通して，事物を描写する力をつける。	(1) 複合過去, Courbet 1 (2) 複合過去, Courbet 2 (3) 複合過去, Luce 1 (4) 複合過去, Luce 2 (5) 半過去, Seurat 1 (6) 半過去, Seurat 2 (7) まとめ，復習 (8) 分詞表現, Van Gogh 1 (9) 分詞表現, Van Gogh 2 (10) 受動態, Degas 1 (11) 受動態, Degas 2 (12) 条件法, Monet 1 (13) 条件法, Monet 2 (14) まとめと復習 / (15) 総まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：文法部分を読んでおいてください．事後：本文内容を把握しているか確認してください．
テキスト、参考文献	中山真彦，オルセー美術館にて，朝日出版社
評価方法	平常点（発表，宿題など：50%）と期末試験（50%）

09 年度以降	フランス語（Ⅲa 応用）	担当者	C．ラビニャス

講義目的、講義概要	授業計画
Ce cours a pour objectif de vous préparer aux différentes épreuves du diplôme d’aptitude pratique du français - niveau 2.（仏検２級） Nous travaillerons ensemble à l’aide de photocopies les domaines suivants： - grammaire - vocabulaire - compréhension écrite et orale - expression écrite et orale	1. Présentation du test et des participants 2. Le présent, les prépositions (1) 3. Le présent 4. Compréhension écrite (1) 5. Compréhension orale (1) 6. Le futur, les expressions (1) 7. Le futur 8. Examen blanc 9. Le passé composé, les prépositions (2) 10. Le passé composé 11. L’imparfait, les expressions (1) 12. L’imparfait 13. Compréhension écrite (2) 14. Compréhension orale (2) 15. Examen final

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回予習しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント
評価方法	定期試験 40%、最終試験：40%、積極的な参加：20%

09 年度以降	フランス語（Ⅲb 応用）	担当者	C．ラビニャス

講義目的、講義概要	授業計画
Ce cours a pour objectif de vous préparer aux différentes épreuves du diplôme d’aptitude pratique du français - niveau 2.（仏検２級） Nous travaillerons ensemble à l’aide de photocopies les domaines suivants： - grammaire - vocabulaire - compréhension écrite et orale - expression écrite et orale	1. Présentation du test et des participants 2. Le présent, les prépositions (1) 3. Le présent 4. Compréhension écrite (1) 5. Compréhension orale (1) 6. Le futur, les expressions (1) 7. Le futur 8. Examen blanc 9. Le passé composé, les prépositions (2) 10. Le passé composé 11. L’imparfait, les expressions (1) 12. L’imparfait 13. Compréhension écrite (2) 14. Compréhension orale (2) 15. Examen final

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回予習しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント
評価方法	定期試験 40%、最終試験：40%、積極的な参加：20%

09 年度以降	スペイン語（Ｉa 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、それにより簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目指す。 （総合 1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語を習得することを目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ｉa 総合 2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	１．発音・アクセント ２．発音・アクセント ３．名詞の性・数、冠詞 ４．名詞の性・数、冠詞 ５．形容詞 ６．ser, estar動詞の使い方 ７．ser, estar動詞の使い方 ８．動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ９．代名詞の用法 10．動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 11．動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 12．動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 13．動詞の活用 --- 再帰動詞 14．動詞の活用 --- 再帰動詞 15．今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	**テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ （青い表紙）” 朝日出版社** また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉb 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉb総合1）は、スペイン語（Ｉa 総合1, 2）の継続の授業である。 直説法未来形・過去未来形までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の向上を目指す。直説法までの初級スペイン語文法の学習はすべて完了する。 （総合1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現を習得し、日常生活に支障がない程度に書きくこと、話すこと、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ｉb総合2）とのペア授業である。この授業ではとくに予習が不可欠である。	１．春学期の復習 ２．動詞の活用---再帰動詞 ３．再帰動詞と諸用法 ４．動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ５．動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ６．比較表現 ７．動詞の活用---直説法点過去規則活用 ８．動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ９．動詞の活用---直説法点過去不規則活用 10．動詞の活用---直説法線過去 11．点過去と線過去の違い 12．受け身表現 13．動詞の活用---未来形・過去未来形 14．動詞の活用---未来形・過去未来形 15．今学期のまとめ

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	**テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ （青い表紙）” 朝日出版社**
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉａ 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合2）はスペイン語（Ｉａ 総合1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉａ 総合1）と（Ｉａ 総合2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉａ 総合1）に同じ。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	**テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社** また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合2）の継続の授業である。 スペイン語（Ｉｂ 総合2）はスペイン語（Ｉｂ 総合1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉｂ 総合1）と（Ｉｂ 総合2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉｂ 総合1）に同じ。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	**テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ｉ（青い表紙）” 朝日出版社**
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉａ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目ざす。 （会話）では、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉａ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉａ 総合1）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ｉｂ 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 会話）の継続の授業である。 直説法未来・過去未来までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。直説法の初級スペイン語文法の学習を終える。 （会話）では、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ｉｂ 総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ｉｂ 総合1）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa会話1）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa会話2）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱa 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で未習の接続法を中心に扱う。また、命令表現を新たに学ぶとともに、点過去・線過去・現在完了・過去完了、未来・過去未来、関係詞、前置詞などの重要文法事項については重点的に復習し、より高度な表現力を身につける。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に1年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅱb 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 総合）の継続の授業である。 この授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、その他の重要な文法事項についての復習も行い、接続法現在までの初級文法の学習を完了する。より高度な表現方法を学び、表現力をさらに向上させることも重視する。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に1年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。この授業ではとくに予習が不可欠である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅲa 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲ）の授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 なお、接続法過去、条件文など、スペイン語（Ⅱ）までに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。復習の際に使用することがあるので、スペイン語（Ⅱa, b 総合）で使用した教科書も持参のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ⅲb 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 応用）の継続の授業である。 この授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	中国語（Ｉa 講読・文法）	担当者	丸山　貴士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。 ・基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。 ・1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。	1.　中国語とは？　授業の進め方など 2.　第1課　韻母―単母音、複合母音　声母1 3.　第2課　声母2、鼻母音、ピンイン、声調変化① 4.　第3課　軽声、変調②③、ｒ化、声調の組合せ　等 5.　第4課　“是”の文、疑問文～吗、副詞“也”“都” 6.　第4課　人称代名詞 7.　第5課　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ、姓名の尋ね方と言い方　等 8.　第5課　疑問詞疑問文、選択疑問文　等 9.　まとめ、試験　など 10.　第6課　名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的” 11.　第6課・第7課　形容詞述語文、 12.　第7課　比較文、反復疑問文、指示代名詞のまとめ 13.　第8課　所在の“在”、存在・所有の“有” 14.　第8課　時点と時量、量詞 15.　まとめ、試験　など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉb 講読・文法）	担当者	丸山　貴士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」「使える言い回し」を増やす。 【講義概要】 ・発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」＝「使える単語」にする。 ・基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを知る。 ・それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第9課　前置詞、経験の“过”、数量補語　等 3.　第9課方位詞・第10課　主述述語文、２つの“了” 4.　第10課“有点儿”と“一点儿”、願望・意思の助動詞 5.　第11課　進行の“在”持続の“着”、連動文 6.　第11課　結果補語、{動/形}を含む連体修飾節 7.　第12課　可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文 8.　第12課　副詞“就”と“才” 9.　まとめ、試験　など 10.　第13課　様態補語、二重目的語をとる動詞　等 11.　第13課　受け身文、動詞の重ね型　等 12.　第14課　存現文、方向補語　等 13.　第14課　可能補語、“把”構文　等 14.　第15課　使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗” 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉa 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
中国語（Ｉa 会話１）・中国語（Ｉa 会話２）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とする。発音の基礎及び中国語の表記法―“简体字”（中国で現在使用されている漢字)、ピンイン（中国で使用されている発音表記法）―から学び始め、基本的な文法を学習し、平易な会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・週3コマの中で（会話１，２）は語学力の4分野「聴く」「話す」「読む」「書く」のうち、「聴く」「話す」―（会話）に重点を置く。 ・単語レベル・フレーズレベル・文レベルで正しい発音・声調で読めるように徹底する。 ・学習した文法項目を練習により身についた知識とする。	1.　中国語について、発音part１ 2.　発音　part２ 3.　発音　part３ 4.　第1課　你好！　あいさつと応答表現 5.　第2課　我叫张瑞　中国語の句読点 6.　第3課　我很喜欢日本“动漫” 7.　第4課　我们看电影，怎么样? 8.　まとめ・試験など 9.　第5課　我有点儿饿了 10.　第6課　学校附近有商店吗？ 11.　第7課　送礼物 12.　第8課　介绍家人 13.　第9課　打电话 14.　まとめ・試験など 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　　金星堂
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉb 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ・春学期に引き続き、基本的な文法を学習しつつ、平易な会話ができることを目指す。 ・常用の文を暗記し、それらを用いて中国語の初級レベルの運用能力を身につけることを目指す。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音訓練を行い、発音・声調の矯正を徹底する。 ・学んだ語彙・文型を用いて、場面に応じて表現練習を重ね、会話力習得に重点を置く。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第10課　回市内 3.　第11課　你吃得太多了 4.　第12課　飞机票买来了吗？ 5.　第13課　味道好极了 6.　第14課　我们是坐飞机去的 7.　まとめ・試験など 8.　まとめ・試験など 9.　第15課　请你来我家玩儿吧 10.　第16課　汉语不这么说 11.　第17課　进修就要结束了 12.　第18課　张瑞的日记 13.　<补充课文>　山口的电子邮件 14.　まとめ・試験など 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　　金星堂
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語(Ｉａ 会話 2)	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
中国語（Ｉａ 会話１）と中国語（Ｉａ 会話２）は2つの科目として異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1.　（発音編）声調、単母音、そり舌母音 2.　　複合母音、子音、鼻母音 3.　　発音のルール、中国語の音節構造 4.　　声調の組合せ、あいさつ言葉　等 5.　第１課　人称代名詞、“是”、“吗”、“呢” 6.　第2課　所在の“在”、疑問詞疑問文、形容詞述語文 7.　第3課、存在・所有の“有”、数の数え方　等 8.　第4課　動詞述語文、反復疑問文　等 9.　まとめ、試験　など 10.　第5課　名詞述語文、完了の“了”等 11.　第6課　変化・新事態発生の“了、経験の“过”等 12.　第7課　助動詞“会”、結果補語、可能補語　等 13.　第8課　動作の進行、選択疑問文　等 14.　まとめ、試験、補足など 15.　まとめ、試験、補足など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ｉｂ 会話 2)	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、置き換え練習、聞き取り練習、作文などを行う。 ・日常生活に関することを表現するに必要な教科書以外の語彙を補充する。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第９課　受益の“给”、様態補語　等 3.　第10課　主述述語文、助動詞“能”等 4.　第11課　方向補語、“把”構文　等 5.　第12課　存現文、受け身文　等 6.　第13課　動作・状況の持続、動詞の重ね型　等 7.　まとめ、試験　など 8.　まとめ、試験　など 9.　第14課　副詞の“再”、副詞の“就”等 10.　第14課　助動詞“要”、前置詞の“跟”等 11.　第15課　就要～了”、“打算”　等 12.　第15課　仮定の“要是”、等 13.　第16課　形容詞＋“地”、“对～感兴趣”等 14.　第16課　前置詞の“通过”、持続の“着”　等 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に中国語Ｉを履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に高いレベルの文法項目を学習し、150字～350字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・週2回の総合コースでこの時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・1年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文など練習問題を行い定着した知識とする。 ・1年次に引き続き発音練習を行い、一文ではなく文章を読む練習をする。 ・各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。	1.　1年次の復習、ガイダンス 2.　第1課　「大学生的周末」ポイント、本文 3.　第1課　練習問題 4.　第2課　「饮食习惯」ポイント、本文 5.　第2課　練習問題 6.　第3課　「北京的交通」ポイント、本文 7.　第3課　練習問題 8.　まとめ、試験など 9.　第4課　「对数字的喜好」ポイント、本文 10.　第4課　練習問題 11.　第5課　「大学生的“打工”现状」ポイント、本文 12.　第5課　練習問題 13.　第6課　「集体生活的好处」ポイント、本文 14.　第6課　練習問題 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱb 講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、中国語Ｉで学んだ文法の基礎を確認しつつ、更に高いレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。 ・量的に多い文章に対し、学んだ文法事項を生かして単語・文の意味を正確に読み取り、文章の趣旨を的確に把握する練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。 ・春学期に引き続き発音練習を行う。 ・日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。	1.　春学期の復習、ガイダンス 2.　第7課　「讨价还价」ポイント、本文 3.　第7課　練習問題 4.　第8課　「送礼的讲究」ポイント、本文 5.　第8課　練習問題 6.　第9課　「“中国式”结婚」ポイント、本文 7.　第9課　練習問題 8.　まとめ、試験　など 9.　第10課　「双职工家庭」ポイント、本文 10.　第10課　練習問題 11.　第11課　「中国人的称呼」ポイント、本文 12.　第11課　練習問題 13.　第12課　「理想职业」ポイント、本文 14.　第12課　練習問題 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『知っておきたい中国事情　改訂版』　吉田泰謙　相原里美　葛婧　著　　白水社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
中国語（Ⅱa 会話１）と中国語（Ⅱa 会話２）は2つの科目として異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 1年次に履修した中国語Ⅰの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　復習課　　1年次の復習、 2.　第1課　打电话　課文、ポイント、ドリル 3.　第1課・第2課　接风　課文、ポイント、ドリル 4.　第2課 5.　第3課　介绍　課文、ポイント、ドリル 6.　第3課・第4課　交通工具1課文、ポイント、ドリル 7.　第4課 8.　まとめ、試験　など 9.　第5課　换钱　課文、ポイント、ドリル 10.　第5課・第6課　吃饭　課文、ポイント、ドリル 11.　第6課 12.　第7課　生病　課文、ポイント、ドリル 13.　第7課 14.　まとめ、試験、補足など 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第8課　交通工具2　課文、ポイント、ドリル 3.　第8課・第9課 网上聊天儿1　課文、ポイント、ドリル 4.　第9課 5.　第10課　网上聊天儿2　課文、ポイント、ドリル 6.　第10課・第11課　买东西　課文、ポイント、ドリル 7.　第11課 8.　第12課　爱好　課文、ポイント、ドリル 9.　まとめ、試験など 10.　第13課　坐火车　課文、ポイント、ドリル 11.　第13課・14課　观光(游外滩)　課文、ポイント 12.　第14課 13.　第15課　送行　課文、ポイント、ドリル 14.　第15課　試験など 15.　まとめ

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱa 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
中国語（Ⅱa 会話１）と中国語（Ⅱa 会話２）は2つの科目として異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語Ⅰで学んだ基礎の上に更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・（会話１）とともに会話の習得に重点を置く。（会話２）では様々なテーマの会話を読み、“要点”で文法事項を学び、2種類の〝練習〟、〝温故知新〟により知識を定着させる。 ・単語レベル・フレーズレベル・文レベルでの発音練習を徹底する。	1.　1年次の復習、履修上の注意など 2.　第1課　「外国の祭日を祝う」　本文、要点 3.　第1課　練習　温故知新　朗読 4.　第2課　「ストレート」　本文、要点 5.　第2課　練習　温故知新　朗読 6.　第3課　「軍事訓練」 本文、要点 7.　第3課　練習　温故知新　朗読 8.　まとめ、試験など 9.　第4課　「レストラン」　本文、要点 10.　第4課　練習　温故知新　朗読 11.　第5課　「母親と息子」　本文、要点 12.　第5課　練習　温故知新　朗読 13.　第6課　「病人の付き添い」本文、要点 14.　第6課　練習　温故知新　朗読 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『大学生のための現代中国 12 話・４』黄漢青　杉本元子著　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅱb 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・（会話１）とともに会話の習得に重点を置く。（会話２）では様々なテーマの会話を読み、“要点”で文法事項を学び、2種類の〝練習〟、〝温故知新〟により知識を定着させる。 ・春学期に引き続き、発音練習―発音の矯正・声調―を徹底する。 ・自然なイントネーションを身につけ、ナチュラルスピードで音読できることを目指す。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第7課　「ビザ」　本文、要点 3.　第7課　練習　温故知新　朗読 4.　第8課　「待遇」　本文、要点 5.　第8課　練習　温故知新　朗読 6.　第9課　「北京の空」　本文、要点 7.　第9課　練習　温故知新　朗読 8.　まとめ、試験など 9.　第10課　「ボーイフレンド」　本文、要点 10.　第10課　練習　温故知新　朗読 11.　第11課　「思いもよらなかった」　本文、要点 12.　第11課　練習　温故知新　朗読 13.　第12課　「ベートーヴェンと模範劇」　本文、要点 14.　第12課　練習　温故知新　朗読 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『大学生のための現代中国 12 話・４』黄漢青　杉本元子著　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ⅲa 応用）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、中級レベルの語学力を持つ受講者を対象に、より実践的な会話能力、読解能力を養うことを目指します。 教科書の内容を事前に予習してもらい、授業では、音読、翻訳を通して、発音、理解度を確認しつつ、その都度解説を交え、理解を深めます。新出の文法事項、慣用句、単語などをしっかり理解したうえで、これを取り入れたセンテンスを作成し、練習を行ないます。 受講者のレベルに応じて進度を変更する場合があります。	1. ガイダンス 2. 第1课 认识一下 3. 同前 4. 第2课 吃点儿什么 5. 同前 6. 第3课 在校园里 7. 同前 8. まとめ、中間試験 9. 第4课 住的麻烦 10. 同前 11. 第5课 怎么去好 12. 同前 13. 第6课 做客 14. 同前 15. まとめ、期末試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	本文を予習し、音読、訳出できるようにすること。また、新たに学習した単語、構文を使って作文できるようにすること。
テキスト、参考文献	《汉语口语速成 基础篇（第三版）》上册，北京大学出版社，2015 年 11 月
評価方法	授業中の課題への取り組み 30%、中間試験 35%、期末試験 35%

09 年度以降	中国語（Ⅲb 応用）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様。	1. 春学期の学習内容の復習 2. 第7课 旅行计划 3. 同前 4. 第8课 生活服务 5. 同前 6. 第9课 北京的市场 7. 同前 8. まとめ、中間試験 9. 第10课 为了健康 10. 同前 11. 第11课 购物 12. 同前 13. 第12课 谈论朋友 14. 同前 15. まとめ、期末試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	本文を予習し、音読、訳出できるようにすること。また、新たに学習した単語、構文を使って作文できるようにすること。
テキスト、参考文献	《汉语口语速成 基础篇（第三版）》上册，北京大学出版社，2015 年 11 月
評価方法	授業中の課題への取り組み 30%、中間試験 35%、期末試験 35%

09 年度以降	韓国語（Ｉa 総合１）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	１．ハングルのしくみ① ２．ハングルのしくみ② ３．ハングルのしくみ③ ４．あいさつ① ５．あいさつ② ６．名詞文 ７．存在文 ８．用言文 ９．数詞① 10．数詞② 11．否定形 12．尊敬形 13．連用形 14．해요体 15．해요体の尊敬形

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ｉb 総合１）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	１．基本事項の確認① ２．基本事項の確認② ３．過去形 ４．連体形① ５．連体形② ６．未来意思形 ７．ㄹ語幹 ８．ㄷ変則用言 ９．ㅅ変則用言 10．ㅂ変則用言 11．ㅎ変則用言 12．ㄹ変則用言 13．変則用言のまとめ 14．まとめと復習① 15．まとめと復習②

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ｉa 総合２）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1．ハングルのしくみ① 2．ハングルのしくみ② 3．ハングルのしくみ③ 4．あいさつ① 5．あいさつ② 6．名詞文 7．存在文 8．用言文 9．数詞① 10．数詞② 11．否定形 12．尊敬形 13．連用形 14．해요体 15．해요体の尊敬形

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ｉb 総合２）	担当者	柳　蓮淑

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1．基本事項の確認① 2．基本事項の確認② 3．過去形 4．連体形① 5．連体形② 6．未来意思形 7．ㄹ語幹 8．ㄷ変則用言 9．ㅅ変則用言 10．ㅂ変則用言 11．ㅎ変則用言 12．ㄹ変則用言 13．変則用言のまとめ 14．まとめと復習① 15．まとめと復習②

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ｉa 応用）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，韓国語会話の基礎を習得することを目的とする。	1．文字と発音① 2．文字と発音② 3．挨拶と自己紹介① 4．挨拶と自己紹介② 5．場所を確認する① 6．場所を確認する② 7．物の位置などについて話す① 8．物の位置などについて話す② 9．中間テスト 10．趣味と好き嫌い① 11．趣味と好き嫌い② 12．職業や夢について話す① 13．職業や夢について話す② 14．物を比較する 15．まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『パランセ韓国語会話入門』金京子著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ｉb 応用）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に身につけた初歩の会話をさらに磨き，さまざまな表現ができるようにする。積極的な授業参加が期待される。	1．前期の復習 2．注文する① 3．注文する② 4．日程や予定について話す① 5．日程や予定について話す② 6．道案内① 7．道案内② 8．中間テスト 9．ショッピング 10．理由をたずねる① 11．理由をたずねる② 12．天気について① 13．天気について② 14．理由を説明する 15．まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『パランセ韓国語会話入門』金京子著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合１）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	１．第一課　空港に出迎え ２．第二課　部屋探し ３．第三課　自己紹介 ４．第四課　ソンミンの家で ５．まとめと復習 ６．中間テスト ７．アクティビティ ８．第五課　帰り道 ９．第六課　百日記念日 10．第七課　引越しパーティーの日 11．アクティビティ 12．第八課　汽車に乗っておでかけ 13．まとめと復習 14．まとめと復習 15．期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合１）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	１．春学期の復習 ２．春学期の復習 ３．第九課　村の風景 ４．第十課　ソンミンさんを訪ねて ５．第六課～第十課の復習 ６．第十一課　下宿に帰って ７．中間テスト ８．アクティビティ ９．第十二課　診察を受ける 10．第十三課　和解 11．第十四課　悲しみよ，さようなら 12．第十一課から第一四課の復習 13．アクティビティ 14．まとめと復習 15．期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末試験によって評価するが、平常授業における課題レポート及び小テストなどの実績も評価対象とする。

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 総合２）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 第一課　空港に出迎え 2. 第二課　部屋探し 3. 第三課　自己紹介 4. 第四課　ソンミンの家で 5. まとめと復習 6. アクティビティ 7. 第五課　帰り道 8. まとめ 9. 第六課　百日記念日 10. 第七課　引越しパーティーの日 11. アクティビティ 12. 第八課　汽車に乗っておでかけ 13, 14 まとめと復習 15. アクティビティ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 総合２）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1．春学期の復習 2．春学期の復習 3．第九課　村の風景 4．第十課　ソンミンさんを訪ねて 5．復習 6．第十一課　下宿に帰って 7．中間テスト 8．アクティビティ 9．第十二課　診察を受ける 10. 第十三課　和解 11. 第十四課　悲しみよ，さようなら 12. 復習 13. アクティビティ 14. ことわざ&慣用句 15. まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱa 応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ」で学習した内容を応用しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	1．前年度の復習 2．ぞんざいな文末表現① 3．ぞんざいな文末表現② 4．未来連体形を使う表現① 5．未来連体形を使う表現② 6．未来連体形を使う表現③ 7．復習 8．中間テスト 9．引用形① 10．引用形② 11．名詞変化語尾① 12．名詞変化語尾② 13．復習① 14．復習② 15．まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ⅱb 応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ」で学習した内容を応用しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	1．前期の復習 2．受身形① 3．受身形② 4．受身形③ 5．さまざまな慣用句① 6．さまざまな慣用句② 7．さまざまな慣用句③ 8．復習① 9．復習② 10．中間テスト 11．使役形① 12．使役形② 13．復習① 14．復習② 15．まとめ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語(Ⅲa 応用)	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、今まで身につけた知識を活かし，文法や表現を応用してより正確な表現力、会話運用力の習得を目指す。	1．復習 2．ハングル能力試験対策 3．ハングル能力試験対策 4．ハングル能力試験対策 5．ハングル能力試験対策 6．ハングル能力試験対策 7．第 1 課 病院で 8．第 2 課 バス停留場で 9．第 3 課 銀行で 10. 第 4 課 本を読む 11. 第 5 課 韓国料理 12. 第 6 課 天気 13. まとめと復習 14. まとめと復習 15. まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語上級』白帝社 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集 3 級』
評価方法	小テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語(Ⅲb 応用)	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、今まで身につけた知識を活かし，文法や表現を応用してより正確な表現力、会話運用力の習得を目指す。	1．前期の復習 2．第 7 課 趣味は何ですか 3．第 7 課 文法と表現 4．第 8 課 約束 5．第 8 課 文法と表現 6．第 9 課 道を歩く 7．第 9 課 文法と表現 8．中間テスト 9．第 10 課 引っ越し 10. 第 10 課 文法と表現 11. 第 11 課 あけましておめでとうございます 12. 第 11 課 文法と表現 13. 第 12 課 秋夕 14. まとめと復習 15. まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語上級』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

2017 年度

外国語学部共通科目シラバス

09 年度以降	総合講座	担当者	大重　光太郎 （コーディネーター）

講義目的、講義概要	授業計画
「今、ナショナリズムについて改めて考える」 グローバリズムの進展がさまざまな弊害をもたらす中､それへの反動としてナショナリズムが強まっているように思われる。欧州でのイギリスのEU離脱、各国での極右・排外的ナショナリズムの台頭、アメリカ大統領選挙などは、そうした例とみることができる。こうしたなか､次のような問いが出てくる。 ・現在のナショナリズムの動きをどうとらえるべきなのか？ ・グローバリズムとナショナリズムの関係は？ ・グローバリズムの対案はナショナリズムなのか？ ・ナショナリズムは悪なのか？ ・「健全な」ナショナリズムとは何か？ ・日本のナショナリズムの現在は？今後は？ こうした問いを念頭におきながら、地域的・歴史的に多様な角度から、また社会科学だけでなく人文科学の立場も含めて、あらためてナショナリズムという問題を考えたい。 なお第5回は英語のみでの授業です。	1. イントロダクション（大重光太郎） 2. スイス学入門：スイスのパンは、なぜ美味しくないのか（田中善英） 3. ナショナリズムとハプスブルク君主（上村敏郎） 4. ドイツにおけるナショナリズムの変遷（黒田多美子） 5. Nationalism and Language （J. Wendel） 6. イギリスの女性参政権運動が現在に伝えるもの（片山亜紀） 7. Origin of Jewish Nationalism（佐藤唯行） 8. モバイルネーション――移民・ディアスポラ、国民国家（上野直子） 9. 日本のナショナリズムをどう見るか（渡辺治 一橋大学名誉教授） 10. 日本の難民受け入れの現状と課題（新島彩子 NPO法人難民支援協会） 11. “Stop the boats”－オーストラリアの難民政策（永野隆行） 12. 冷戦とナショナリズムの交錯（水本義彦） 13. 2015年パリテロ事件（横地卓哉） 14. ローカリズムともう１つのグローバル化（北野収） 15. まとめ

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。
テキスト、参考文献	大澤真幸ほか『ナショナリズムとグローバリズム　越境と愛国のパラドックス』新曜社、2014 年。 塩川伸明『民族とネイションーナショナリズムという難問』岩波書店（岩波新書）、2008 年。
評価方法	期末テストは行わない。毎回提出のコメントペーパーをもとに成績評価を行う。

09 年度以降	総合講座	担当者	M. ビティヒ （コーディネーター）

講義目的、講義概要	授業計画
「文化の学問的多様性 ― 学際的概念とアプローチ」 我々現代人は様々な場面で「文化」という言葉、そして「文化」を用いた合成語（食文化、文化遺産等）や外来語（コーポレート・カルチャー、カルチャー・ショック等）に出会う。「文化」「カルチャー」という表現は日常的にメディアにおいても溢れている。 本講座では「文化」の語源、定義、概念等を議論するだけでなく文化科学、１９６０年代から文化一般に関する学問研究を進めているカルチュラル・スタディーズの様々な研究分野（文化理論、比較文化論、政治経済、社会学、メディア論、映画理論、哲学、芸術史等）のアプローチと具体的な研究テーマを（サブ/ポップカルチャー）挙げ、紹介することが目的である。	1. 入門：文化とは何か 2. 文化―教養―学問 3. 大衆文化としての西洋絵画―カレンダーとルノワール 4. 世界文学とはなにか - フランスにおける外国文学の受容 5. ドイツの文化施設のあり方に文化学はどのような影響を与えたか？ 6. 芸術に想像力は必要か？ - 哲学的概念史と作品制作の観点から 7. 異文化間コミュニケーション 8. Tawaraya Sotatsu and the creative re-imagination of themes from classical Japanese culture 9.〈越境〉のデザイン史：1920年代ウィーン・キネティシズム派の検証を例に 10. オペラ文化の現状と展望 11. GAMANする身体―アメリカのスラップスティック・コメディの系譜から考える我慢の精神 12. 芸術作品における「傑作」の条件とは何か - 美術史学の観点から 13. 文化を超えたコミュニケーション方略を探る 14. まとめ 15. 復習

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義後コメントペーパーを提出するため出席と前講義の内容の復習が不可欠である。
テキスト、参考文献	授業内で指示する。
評価方法	各講義が７０分かかる。その後担当の先生の各テーマについて２０分ほどのテストを行う。

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
西洋音楽史（1） 　いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。 　「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。	1．導入、概観 2．日本人と西洋音楽 3．古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌 4．ヨーロッパの中世の音楽 5．ルネサンス音楽（1）　フランドルを中心に 6．ルネサンス音楽（2）　イギリス・スペインを中心に 7．ルネサンス音楽（3）　イタリアを中心に 8．バロック音楽（1）　イタリアを中心に 9．バロック音楽（2）　フランスを中心に 10．バロック音楽（3）　リュリとラモーを中心に 11．バロック音楽（4）　イギリスを中心に 12．バロック音楽（5）　ヴィヴァルディとペルゴレージ 13．バロック音楽（6）　ドイツを中心に 14．バロック音楽（7）　J. S. バッハを中心に 15．授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
西洋音楽史（2） 　いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を踏まえて話しますので、なるべく春学期から受講してください。 　「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。	1．古典派の音楽（1）　ハイドン 2．古典派の音楽（2）　モーツァルト 3．古典派の音楽（3）　ベートーヴェン 4．19世紀の音楽（1）　ヴェーバー、シューベルト、シューマン 5．19世紀の音楽（2）　ヴィルトゥオーソの時代 6．19世紀の音楽（3）　フランスを中心に 7．19世紀の音楽（4）　ロシアを中心に 8．19世紀の音楽（5）　北欧と東欧を中心に 9．19世紀の音楽（6）　スペインを中心に 10．19～20世紀の音楽（1）　チェコ、ロシアを中心に 11．19～20世紀の音楽（2）　フランスを中心に 12．19～20世紀の音楽（3）　イタリアを中心に 13．ヨーロッパのクリスマス音楽 14．19～20世紀の音楽（4）　イギリス、アメリカを中心に 15．授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）

09 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1．講義の概要と目標、情報科学の発展 2．データ表現、基数変換、論理演算 3．コンピュータの構成要素 4．ソフトウェアの役割、体系と種類 5．オペレーティングシステム（OS） 6．プログラム言語 7．データ構造―リスト、スタック、キュー、2分木 8．アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9．コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。
評価方法	定期試験の成績、課題の完成度、授業への参加度を併せて評価します。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	１．ガイダンス・PCの基本操作 ２．OSとOfficeの基礎 ３．Word (1) ４．Word (2) ５．Word (3) ６．インターネットの活用法(1) ７．インターネットの活用法(2) ８．Excel (1) ９．Excel (2) 10．Excel (3) 11．PowerPoint (1) 12．PowerPoint (2) 13．PowerPoint (3) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	１．ガイダンス・PCの基本操作 ２．OSとOfficeの基礎 ３．Word (1) ４．Word (2) ５．Word (3) ６．インターネットの活用法(1) ７．インターネットの活用法(2) ８．Excel (1) ９．Excel (2) 10．Excel (3) 11．PowerPoint (1) 12．PowerPoint (2) 13．PowerPoint (3) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	１．ガイダンス・PCの基本操作 ２．OSとOfficeの基礎 ３．Word (1) ４．Word (2) ５．Word (3) ６．インターネットの活用法(1) ７．インターネットの活用法(2) ８．Excel (1) ９．Excel (2) 10．Excel (3) 11．PowerPoint (1) 12．PowerPoint (2) 13．PowerPoint (3) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	１．ガイダンス・PCの基本操作 ２．OSとOfficeの基礎 ３．Word (1) ４．Word (2) ５．Word (3) ６．インターネットの活用法(1) ７．インターネットの活用法(2) ８．Excel (1) ９．Excel (2) 10．Excel (3) 11．PowerPoint (1) 12．PowerPoint (2) 13．PowerPoint (3) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	１．ガイダンス・PCの基本操作 ２．OSとOfficeの基礎 ３．Word (1) ４．Word (2) ５．Word (3) ６．インターネットの活用法(1) ７．インターネットの活用法(2) ８．Excel (1) ９．Excel (2) 10．Excel (3) 11．PowerPoint (1) 12．PowerPoint (2) 13．PowerPoint (3) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	１．ガイダンス・PCの基本操作 ２．OSとOfficeの基礎 ３．Word (1) ４．Word (2) ５．Word (3) ６．インターネットの活用法(1) ７．インターネットの活用法(2) ８．Excel (1) ９．Excel (2) 10．Excel (3) 11．PowerPoint (1) 12．PowerPoint (2) 13．PowerPoint (3) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excelおよび PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンス・基本操作の確認 2．表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3．表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4．グラフ作成、装飾の確認 5．関数の利用(1) 6．関数の利用(2) 7．関数の利用(3) 8．マクロの利用(1) 9．マクロの利用(2) 10．プレゼンテーション実習(1)-1 11．プレゼンテーション実習(1)-2 12．プレゼンテーション実習(2)-1 13．プレゼンテーション実習(2)-2 14．まとめ 15．まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excelおよび PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンス・基本操作の確認 2．表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3．表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4．グラフ作成、装飾の確認 5．関数の利用(1) 6．関数の利用(2) 7．関数の利用(3) 8．マクロの利用(1) 9．マクロの利用(2) 10．プレゼンテーション実習(1)-1 11．プレゼンテーション実習(1)-2 12．プレゼンテーション実習(2)-1 13．プレゼンテーション実習(2)-2 14．まとめ 15．まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンス・基本操作の確認 2．書式設定、スライドの設定 3．スライドショーと特殊効果(1) 4．スライドショーと特殊効果(2) 5．図形の作成、SmartArtグラフィック(1) 6．図形の作成、SmartArtグラフィック(2) 7．オブジェクトの挿入(1) 8．オブジェクトの挿入(2) 9．プレゼンテーション実習(1)-1 10．プレゼンテーション実習(1)-2 11．配付資料の作成 12．プレゼンテーション実習(2)-1 13．プレゼンテーション実習(2)-2 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンス・基本操作の確認 2．書式設定、スライドの設定 3．スライドショーと特殊効果(1) 4．スライドショーと特殊効果(2) 5．図形の作成、SmartArtグラフィック(1) 6．図形の作成、SmartArtグラフィック(2) 7．オブジェクトの挿入(1) 8．オブジェクトの挿入(2) 9．プレゼンテーション実習(1)-1 10．プレゼンテーション実習(1)-2 11．配付資料の作成 12．プレゼンテーション実習(2)-1 13．プレゼンテーション実習(2)-2 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンス・基本操作の確認 2．段落、段組、その他書式設定(1) 3．段落、段組、その他書式設定(2) 4．アウトラインに沿った編集(1) 5．アウトラインに沿った編集(2) 6．脚注・コメントの作成 7．ワードアートの利用 8．図形の利用(1) 9．図形の利用(2) 10．図形の利用(3)・組織図の作成 11．目次作成・索引作成 12．Excelとの連携(1) 13．Excelとの連携(2) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンス・基本操作の確認 2．段落、段組、その他書式設定(1) 3．段落、段組、その他書式設定(2) 4．アウトラインに沿った編集(1) 5．アウトラインに沿った編集(2) 6．脚注・コメントの作成 7．ワードアートの利用 8．図形の利用(1) 9．図形の利用(2) 10．図形の利用(3)・組織図の作成 11．目次作成・索引作成 12．Excelとの連携(1) 13．Excelとの連携(2) 14．まとめ 15．まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

16 年度以降 15 年度以前	情報科学各論（コーパス言語学 a） 情報科学各論（言語情報処理１）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 コーパス言語学aでは、「コーパス（＝言語データ）とは何か？」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか？」、「コーパスをどのように分析するのか？」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。	1.　【ガイダンス】 2.　第1章「コーパス言語学への招待」 3.　第2章「コーパスとは何か」 4.　第3章「さまざまなコーパス」 5.　第5章「コーパス検索の技術」 　　第6章「コーパス頻度の処理」 6.　第7章「コーパスと語彙」（１） 7.　第7章「コーパスと語彙」（２） 8.　第8章「コーパスと語法」（１） 9.　第8章「コーパスと語法」（２） 10.　第9章「コーパスと文法」（１） 11.　第9章「コーパスと文法」（２） 12.　プレゼンテーション準備（１）：RQを検討 13.　プレゼンテーション準備（２）：データ分析 14.　プレゼンテーション準備（３）：資料作成 15.　プレゼンテーション

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。
テキスト、参考文献	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著　ひつじ書房）
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）

16 年度以降 15 年度以前	情報科学各論（コーパス言語学 b） 情報科学各論（言語情報処理２）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まってくるに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容といえます。 授業では、演習が中心になります。コーパス言語学aを履修していなくても構いません。	1.　【ガイダンス】学習者コーパスとは何か 2.　学習者の言語データと第二言語習得 3.　学習者コーパスの仕組み 4.　学習者データの収集（１） 5.　学習者データの収集（２） 6.　学習者データの入力 7.　学習者データの加工 8.　学習者コーパスの語彙分析 9.　学習者コーパスの文法分析 10.　学習者コーパスの流暢さ分析 11.　学習者コーパスの誤り分析 12.　プレゼンテーション準備（１）：RQを検討 13.　プレゼンテーション準備（２）：データ分析 14.　プレゼンテーション準備（３）：資料作成 15.　プレゼンテーション

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず。講義支援システムに掲載する PPt スライドを使用する。
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要： 　この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2．WWWとホームページの基礎知識 3．情報の単位と情報通信 4．ハイパーテキストとHTML 5．インターネットと情報倫理 6．ページの構造とHTML 7．ホームページの作成　テキスト 8．ホームページの作成　イメージ 9．ホームページの作成　リンク 10．ホームページの作成　テーブル 11．ホームページの作成　その他 12．ホームページの作成　完成 13．ファイルの転送とページの更新 14．総合復習 15．総合復習

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要： 　この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。	1．ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2．WWWとホームページの基礎知識 3．情報の単位と情報通信 4．ハイパーテキストとHTML 5．インターネットと情報倫理 6．ページの構造とHTML 7．ホームページの作成　テキスト 8．ホームページの作成　イメージ 9．ホームページの作成　リンク 10．ホームページの作成　テーブル 11．ホームページの作成　その他 12．ホームページの作成　完成 13．ファイルの転送とページの更新 14．総合復習 15．総合復習

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。	1．ガイダンスとイントロダクション 2．HTMLとFTPの復習（1） 3．HTMLとFTPの復習（2） 4．インタラクティブなページ（HTMLとCGI） 5．プログラミングの基礎知識 6．JavaScript（1） 7．JavaScript（2） 8．JavaScript（3） 9．JavaScript（4） 10．JavaScript（5） 11．CGIの利用 12．総合課題（1） 13．総合課題（2） 14．総合課題（3） 15．鑑賞会

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。
テキスト、参考文献	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。
評価方法	授業中に作成する課題（60%）と平常点（課題の途中経過等 40%）で総合評価する。

09 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1．経済学の目的と方法 2．家計の行動①－効用の概念と予算制約 3．家計の行動②－効用最大化 4．家計の行動③－消費者余剰の概念 5．企業の行動①－生産技術の決定 6．企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7．企業の行動③－生産者余剰の概念 8．市場価格の決定 9．不完全競争市場 10．厚生経済学の基本定理 11．市場の失敗 12．所得分配の決定 13．政府の役割①－規制および補助金政策 14．政府の役割②－租税政策 15．まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1．マクロ経済学の体系 2．国民所得の諸概念 3．消費と貯蓄の理論 4．企業投資の理論 5．国民所得決定の理論 6．生産物市場の分析 7．金融市場の分析 8．財政政策の有効性 9．金融政策の有効性 10．国際収支と為替レートの決定要因 11．開放マクロ経済下での経済政策 12．公債発行と財政赤字 13．経済成長の決定要因 14．日本の公的債務と経済成長 15．まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは，個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1．イントロダクション -「社会心理学」講義の前に 2．社会心理学の概要 3．社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4．社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5．社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6．社会的アイデンティティ理論(2)： 差別は集団からうまれる 7．自己(1)：自分はどんな人間か 8．自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9．態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)： 「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学ー適応エージェントとしての人間』 有斐閣; 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

09 年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1．イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2．コミュニケーション(1)： 言語的・非言語的コミュニケーション 3．コミュニケーション(2)： コミュニケーションと対人行動 4．コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5．ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6．ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7．ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8．信頼社会と安心社会 9．社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. 期末試験と振り返り 15. 社会心理学の未来

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学ー適応エージェントとしての人間』 有斐閣; 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

シラバス 交流文化学科

2017年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	